

1991. '92 '93 年度(平成3、4、5年度)
伊勢原市教育委員会研究委託

同和教育研究紀要

研究主題

人権尊重の心を育て、認め合い協力して、
意欲的に伸びていく生徒の育成

1993年11月12日(金)

伊勢原市立伊勢原中学校

〔はじめに〕

伊勢原中学校長 近藤俊二

この夏、市内4校の中学生972人が書いた人権作文を、先日読ませてもらった。10年余りもこの作文に接して来た私が感じた一番大きな変化は、「国際化の波が押し寄せてきているな、私たちの伊勢原も変わってきたな」と感じさせる内容が多くなってきたことであった。

その典型的な概要は次のようなものである。

「私たちの住むまちでも、最近アジア各国からやって来たと思われる外国人を多く見かけるようになった。彼らは、日本人があまりやりたがらない3Kと呼ばれるような作業に、一生懸命働いている。そのお陰で道路が出来たり、建築が進んでいるのに賃金は安いらしい。しかも、何か悪い事件が報道されたりすると、私たちの心のどこかでまたあの外国人たちが…と。西洋の人には決して見せない蔑視する態度や心をもつ日本人が恥かしい…。」

伊勢原が変わってきたなど感ずるのは、これらの作文のほとんどが「なぜ人のいやがる仕事に汗を流し、私たちの社会を支えてくれているのに、差別の心で見たり思ったりしてしまうのか」と訴えていることである。

伊勢原市教育委員会が市内の小・中学校に、3ヵ年ずつの同和教育研究委託校において、本格的に同和教育に取り組み始めたのは1987年度（昭和62年度）からであった。7年目の今年の人権作文は、小学校からの積み上げにより、着実な人権意識の成長を私たちに示してくれているように思う。それは、先のアジア人というところを、今まで学んできた「同和地区の人々に対するいわれなき差別」と置きかえて、読み得るからである。

また人権作文は自分たちの身近で見たり聞いたり体験したことを書いてみようという呼びかけであるから、今年度の作文でも一番多かったのは「いじめについて」であった。しかしそれは、今までのように「私たちのクラスにもあった」的な内容でなく、あの山形のマット殺人事件でも指摘されたように、“その直ぐ傍にいた大勢の仲間”の一員としての自分の立場や、いじめられている人を庇うことの難しさという内容が多かったように思う。差別を憎み許さないという態度に到達し得ない自分への苛立ち、人間の弱さ、これこそが明るい未来への展望を開く鍵になると訴えていた。

本校は中学校の3校目ということで、1991年度（平成3年度）から研究委託を受け、「人権尊重の心を育て、認め合い協力して意欲的に伸びていく生徒の育成」という研究主題のもと、以下この紀要の中で述べるように、学校教育活動の全領域で人権を尊重する心を育てる教育に取り組んで来た。

本日ここに、その研究の一端を報告し、皆様のご指導ご示唆をいただき、更に前進をはかりたいと考えています。

終りに、これまで研究の推進についてご指導ご教示をいただいた市教育委員会の先生方をはじめ、大勢の皆様方に心から深く感謝申し上げます。

〔学校の概要〕

本校は1948年（昭和23年）、1町3カ村の組合立伊勢原中学校としてこの桜台の地に創設され、現在46年目を迎えた。学区は、伊勢原駅南口を主として、平塚市・厚木市に接している。

最も多い時には1820名の生徒を擁する大規模校であった。その間2回にわたる分校を行い、現在の生徒数は979名である。内訳は桜台小・大田小出身の生徒がほぼ同数の38%ずつ、残り24%が竹園小・その他の出身である。

桜台学区は駅や大規模店舗を擁する商業地域である。竹園学区は縄文・弥生時代より人が居住した歴史ある地域であり、今は入幡台を中心とした新興住宅地となり、周辺では果樹栽培も行なわれている。大田学区は水田の広がる農業地域であるが、住宅地としての開発もまたさかんである。

生徒は全般に明朗で、月初めの朝・8時10分より一週間にわたって生活委員会を中心に行われる「あいさつ運動」が浸透しつつあって、よく挨拶ができる。この「あいさつ運動」をはじめ多くの活動に、縦割り・色別集団による活動が取り入れられ、生徒相互の結びつきを図っている。

以上の他、本校の特色として、2万人を越える卒業生により同窓会が組織されており、毎年5月5日に「同窓会いなかまつり」が催され、卒業生と先生方が談笑する情景が、あちこちに展開されている。

校 歌

作詞 藤島 宇内
作曲 団 伊玖磨

1. 遠い海から吹く風に

菜の花ほのかに匂うとき
この丘に黒土かたくふみしめて
肩を組み力あわせて進もうよ
晴れわたる大空心は明るく
太陽のように燃えながら

2. 緑の夢の朝もやに

麦の穂先の光るころ
この丘に野ばらの白い花をつみ
手をつなぎ声をあわせて歌おうよ
雲はゆく大空心はのぼるよ
ひばりのように高らかに

目 次

はじめに 伊勢原市立伊勢原中学校長 近藤 俊二

学校の概要

研究の概要

1 研究主題	1
2 研究主題設定の理由	1
3 研究の計画	
(1) 研究のねらい	2
(2) 仮説	2
(3) 研究の構想	3
(4) 研究の組織	4
(5) 研究にあたって	6
(6) 年間計画	7
(7) 研究の経過	9

研究の実践

I 人権授業研究部	12
II 伊中タイム研究部	42
III 教科研究部	50
IV 道徳研究部	60
V 特別活動研究部	70
VI 環境研究部	86
VII 調査研究部	92

研究のまとめと今後の課題

研究の概要

1 研究主題

人権尊重の心を育て、認め合い協力して意欲的に伸びていく生徒の育成

2、主題設定の理由

学校教育における同和教育の課題について、神奈川県同和教育基本方針には、「学校教育においては、人間尊重の精神を基盤として、差別をなくそうという意欲と、これを克服する実践力を培い、差別を許さない人間の育成をめざす」と述べられている。

1991年度（平成3年度）より3年間、伊勢原市教育委員会より同和教育研究校の委託を受け、研究を進めるにあたり、改めて本校生徒の日常生活や学習活動の様子を見直してみた。

生徒全体としては明朗で、快活さが見られ、行事などでは、よくまとまって力を発揮するなど、学校生活を楽しんでいるように見受けられる。しかし、表面では穏やかに見えても、個々に立ち入ってみてみると、集団にとけ込めず、心理的に負担を持つ生徒もいる。仲間はずれにすることや、いやがらせも見られる。

また、視野が身近なところに限られがちで、日本や世界で問題となっている差別や人権侵害の実態についても、「よく知らない」と答える生徒が多い。

このようなことから、「人権とは何か」を正しく理解させ、「現実にはどんな差別があるのか」を知らせたい。また、「差別はどうして生まれるのか」について考えることにより、差別の不合理性を理解させ、人権尊重の心を育てたい。さらに、「どうしたら差別はなくせるのか」を考えさせ、差別を解消しようとする意欲と実践力を育てたい。

そしてこれらを基盤にして、認め合い、協力し合う仲間づくりをめざし、生き生きと生活できる生徒を育てたいと考えた。

以上のようなことから、本校学校教育目標、県同和教育目標を考え合わせ、本主題を設定した。

3、研究の計画

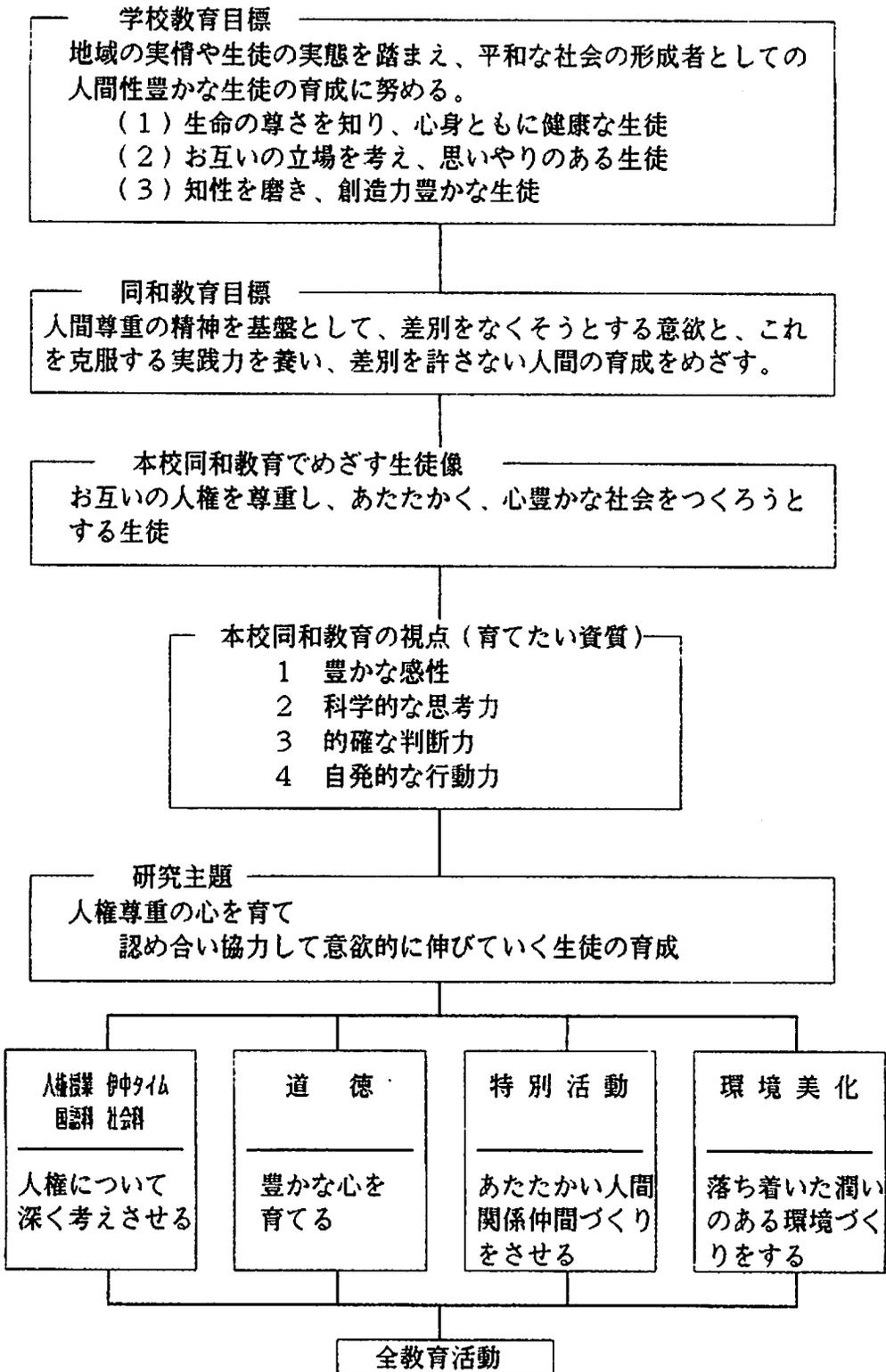
(1) 研究のねらい

- ・人権とは何かを正しく理解させ、差別や人権侵害の実情を認識させる。
- ・差別の不合理性を理解させ、差別に対する怒りや悲しみを共感できる心、差別を解消しようとする意欲と実践力を育てる。
- ・認め合い、協力し合うあたたかい仲間づくりをさせる。

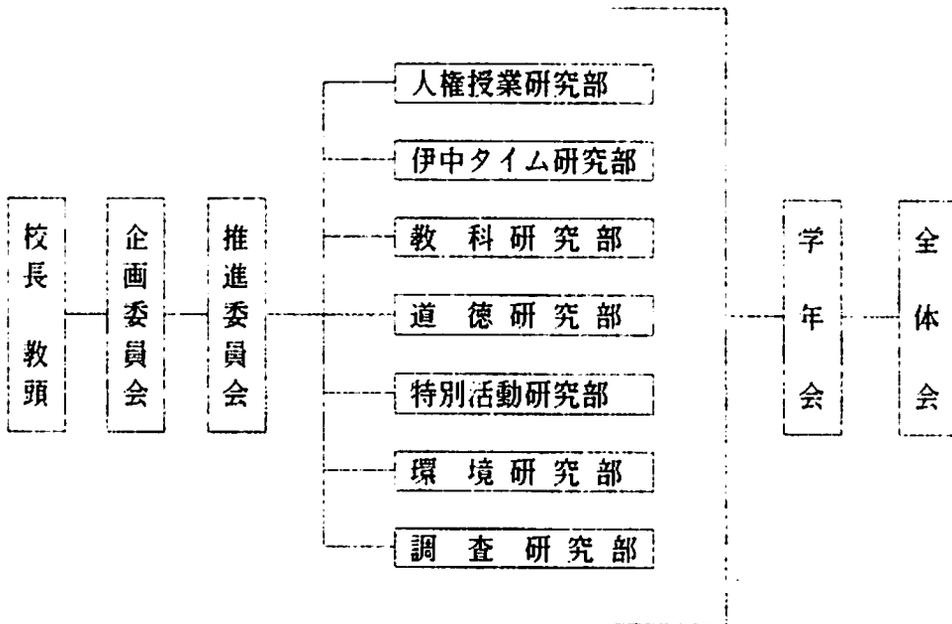
(2) 仮説

- ・人権授業、伊中タイム、社会科、国語科における人権に関わる教材の指導を充実させることにより、差別や人権侵害の実情、不合理性を理解し、差別に対する怒りや悲しみに共感する心、差別を解消しようとする意欲を育てることができる。
- ・道徳を中心に、他を思いやる心を育てる指導をすることにより、生命の尊重、思いやり、感謝の心を持ち、主体的に行動できる生徒を育てることができる。
- ・生徒会活動や学校行事などの諸活動を生徒に主体的に取り組ませることにより、自主性を育て、励まし合い、協力し合いながら問題を解決していく力、お互いに認め合う人間関係、あたたかいふれあいのある仲間づくりができる。
- ・落ち着いた潤いのある環境づくりをめざすことにより、やすらぎのある心が育てられ、あたたかい人間関係づくりによい影響を与えることができる。
- ・一人ひとりを生かすことのできる授業、基礎学力をしっかりと身につけさせる教科指導の充実を図ることにより、科学的な見方、考え方、正しい判断力を身につけさせることができる。

(3) 研究の構想



(4) 研究の組織



① 推進委員会

- ・ 研修会、学習会の企画、検討
- ・ 研究推進の方向の検討
- ・ 各研究部の調整

② 企画委員会

- ・ 研修会、学習会の企画
- ・ 研究推進の方向の企画
- ・ 保護者への啓発
- ・ 資料の収集

③ 研究部

- (ア) 人権授業研究部・・・人権についての感覚や意識を高めるための実践
・ 授業の企画、準備、運営（指導案、資料、感想文）
- (イ) 伊中タイム研究部・・・人権に関する資料を通して共感をさせるための実践
・ 資料の選定、企画

- (ウ) 教科研究部・・・人権に関わる教材での授業の実践
- ・同和教育の視点を明確にした年間計画の作成
 - ・より確かな学力を身につけさせるための授業の工夫
 - ・社会科、国語科に関して直接人権に関わる教材についての授業研究の企画運営

- (エ) 道徳研究部・・・豊かな心を育てるための実践
- ・同和教育の視点を明確にした年間計画の作成
 - ・資料の選定
 - ・授業研究の企画・運営

- (オ) 特活研究部・・・あたたかい人間関係、仲間づくりのための実践
- ・同和教育の視点を明確にした年間計画の作成
 - ・学級・学年経営、学級・学年活動の企画・運営
 - ・行事、部活動、縦割り集団の中での望ましい人間関係づくり
 - ・生徒会活動における自主的活動の育成、挨拶運動の推進
 - ・性教育、安全教育の企画・運営（保健指導部、安全指導部との連携）
- （・各行事等における写真、ビデオの撮影）

- (カ) 環境研究部・・・落ち着いた潤いのある環境づくりのための実践
- ・校舎内の美化、整備の企画
教室環境整備、掲示板の利用
 - ・校庭の美化、緑化の企画
 - ・清掃活動の計画

- (キ) 調査研究部・・・生徒等の実態調査の実施、分析
- ・継続的な生徒の意識調査、実態調査の実施、分析、問題点の提起
 - ・保護者、教師の意識調査の実施、分析、問題点の提起

(5) 研究にあたって

- ① 教師自らの人権意識をみなおす
 - (ア) 何が差別か、何が人の心を傷つけるのか。差別を見抜く力をつける
 - (イ) 相手の立場（生徒の立場）に立って考えられる力をつける
 - (ウ) 同和問題について学習し認識を深める
- ② 教師の共通理解の下に研究を進め実践していく
- ③ 人権尊重の精神をつねに教育全般に生かしていく
- ④ この研究が研究のみに終わらず、今後の教育の中に深く根をおろしたものになるように研究を進める

(6) 年間計画 (1993年度)

年間を通じた活動

月	関連事項	全体	人権授業	伊中タイム	特別活動	
4	7日 世界保健デー 10日～ 婦人週間	全体会 月1回 部会 月1回 推進委員会 月1回 企画会 週1回 7/15～ 6/17/18		12日 21日 27日	色別抽選会	
5	1日 メーデー 3日 憲法記念日 5日 こどもの日 8日 世界赤十字デー 15日 沖縄本土復帰記念日 18日 国際善意デー	「にんげんの詩」 視聴 人権授業 学年会		7日 26日	2年 宿泊研修 1年 遠足 色別結団式	あ い さ
6	5日～ 環境週間	視覚障害について 学習会	1年 世界人権宣言 2年 障害者への理 解(嬪子) 3年 同和問題	14日 28日	陸上競技大会 3年 修学旅行	つ 運
7		人権授業の反省会 「コスモスの 道しるべ」視聴		5日 12日	3年 進路希望調査 3年 性教育 ふれあいの日 平和教育	動
8	6日 広島原爆記念日 9日 長崎原爆記念日 15日 終戦記念日	感想文集 作製 「いやな奴」視聴				
9	8日 国際識字デー 15日 敬老の日 22日 国際平和デー			3日 20日 24日 30日	体育祭 3年 進路希望調査	
10	24日 国連の日	車椅子について 学習会 講演会 人権授業 学年会		6日 27日	ふれあいの日 秋桜祭	フ ォ ィ ス タ ー ベ ア レ ン ト 運 動
11	11日 世界平和記念日	講演会 研究報告会	1年 身近な人権 2年 障害者への理 解(嬪子) 3年 同和問題	1日 8日 15日 24日	1、2年 性教育 3年 進路希望調査	
12	4日～ 人権週間 9日 障害者の日 10日 世界人権記念日	人権授業の反省会 感想文集 作製		8日 15日		
1	15日 成人の日			12日 19日 26日	2年 性教育	
2				2日 9日 16日 23日	1年 性教育	
3	8日 国際婦人デー 21日 国際人権差別撤廃デー	まとめと反省		4日		

道徳	教科	環境	調査
月別重点資料 1年 たこあげ大会 2年 タイム1分1秒9 3年 山に怨かれた男	社会 51～52ページを参照	清掃分担 掲示 観葉植物設置 (生徒用トイレ、昇降口) 鉢花設置(全学級)	生徒継続的アンケートの分析と考察 保護者向けアンケートの分析と考察
1年 おぼれかけたきょうだい 2年 流されたテント 3年 雲とり物語	国語3年 カレンダーの絵から	学年朝会で教室環境について提案	考察
研究授業 1年 千円札 2年 やさしさいっぱい 3年 言いがかり	研究授業 社会3年 基本的人権の尊重	種、苗の植えつけ	花壇の草
1年 優しいまなざし 2年 なみだ 3年 星野君の二塁打	国語1年 大人になれなかった弟たちに 研究授業 国語3年 故郷	職員作業 大掃除	1年 アンケート実施 集計と考察 ・鉢花の手入れ
		昇降口ベンキめり	
研究授業 1年 消作と学 2年 小さな食堂で 3年 きらいな人会ったことがない	国語1年 木琴 2年 字のないはがき 3年 パールハーバの授業	苗の植えつけ	アンケートの分析と考察の総まとめ ・清掃用具の修理
1年 アトラクション 2年 愛 3年 高校受験	国語2年 鈴の鳴る道 3年 犬に名前をつけない社会	球根の植えつけ	・教室環境
1年 辞書引き大会のできごと 2年 幸一のためらい 3年 あふれる愛		P T A校内美化作業	
1年 オリエンテーリングの失敗 2年 良心とのたたかい 3年 天井が明るい	国語2年 アジアの働く子供たち	苗の植えつけ 大掃除	チェック
1年 桃源にて 2年 指定席 3年 どろぼう	国語3年 わたしを束ねないで		
1年 芸が身を助ける不幸せ 2年 番頭 3年 空気が見えたっていいじゃないか	国語1年 わたしの周りには、いつもあなたがいる 2年 夕焼け		
1年 わが生いたちの記 2年 渡良瀬川の鮎毒 3年 ほんとうの闘士		大掃除	

(7) 研究の経過

1991年(平成3年)度

- 4月25日 全体会 研究主題、研究方法について
5月 7日 同和教育研修会(南公民館)
21日 在日韓国、朝鮮人教育問題研究会(平塚スカイプラザ)
27日 田原米子氏講演会(2,3年生全員 聴講)「生きるってすばらしい」
29日 全体会 研究組織、研究内容について
学習会「同和教育の実践のために」(県教育委員会冊子)
6月26日 成瀬中学校同和教育研究発表会
7月 1日 全体会 アンケートについて
学習会 VTR「同和教育の解決をめざして・・・歴史の中の人権」
中旬 アンケート実施(全クラス)
8月27日 学習会 須山英治先生(県教育委員会)の講演
「同和教育研究をどうすすめたらよいか」
9月25日 学習会 VTR「世界人権宣言」
10月22日 同和教育担当者研修会(子ども科学館)
10月29日 在日韓国朝鮮人教育問題研究会(厚木労働会館)
11月11日～12日 県外優良校視察・・・茨城県下妻市下妻市立下妻中学校研究発表会
11日 道徳研究授業 1年「歯医者」 2年「回り道」 3年「敗者」
13日 桜台小学校 同和教育研究発表会
鶴巻中学校 人権教育研究発表会
市人権講演会(市文化会館)
11月22日 特活研究授業(全クラス)「世界人権宣言」
学習会 VTR「部落差別の現在進行形」・・・前半
研究発表会の報告
25日～27日 県外優良校視察 京都市立皆山中学校
29日～12月 1日 全国同和教育研究大会(奈良市)
12月 2日 同和教育研修会(採用6年次未満:子ども科学館)
12月19日 全体会 来年度に向けての研究構想について
学習会 VTR「部落差別の現在進行形」・・・後半
1月20日 同和教育講演会(市役所)
1月28日 同和教育研修会(青少年会館)
3月23日 全体会 反省とまとめ

1992年(平成4年)度

- 4月 1日 全体会 教室掲示、研究組織について
7日 全体会 研究主題、研究方針、研究組織について
- 5月 8日 同和教育研修会(子ども科学館)
27日 全体会 年間計画について
28日 アンケート実施(教師)
29日 美化作業(学区の缶ひろい、校舎まわりの清掃)
- 6月15日 道徳研究授業(各学年)
1年「千円札」 2年「流されたテント」 3年「ふきの煮物」
16日 県外優良校視察・・・岐阜県南濃町立城山中学校研究発表会
20日 2棟各階階段ゴミ箱設置
22日 道徳研究授業(各学年1クラス)
29日 全体会 各部からの報告
学習会 同和教育研究校視察報告
- 7月 1日 職員作業(生徒用昇降口の清掃、泥落としの設置
卒業製作「面」の整理、職員室前掲示板の設置)
8日 アンケート実施(生徒)
9日 人権授業 1年:世界人権宣言
2年:「言うな」を読んで
3年:同和問題について
中旬 平和教育(朝自習の時間を利用
1年「太平洋戦争」 2年「沖縄戦」 3年「太平洋戦争」
- 8月24日 学習会 飛鳥田養先生(小田原高等学校長)の講演
「差別を見抜く眼と教師の姿勢」
- 9月18日 同和教育担当者研修会(南公民館)
21日 道徳研究授業 1年「歯医者」 2年「回り道」 3年「星野君の2塁打」
- 10月17日 美化作業(学区缶拾い、校舎のまわりの清掃)
21日 学習会 VTR「20歳の車椅子ジャーニー」視聴
- 11月 5日～6日 県外優良校視察 愛知県津島市立天王中学校研究発表会
10日 人権授業 ① 1年「言うな」を読んで
2年 VTR「20歳の車イスジャーニー」
3年 同和問題について
12日 学習会 車椅子の使い方
13日 人権授業 ② 1年「言うな」を読んで
2年 車イスの体験学習
3年 人権標語づくり
17日 同和教育研修会(採用6年次未満)
20日 竹園小学校 同和教育研究発表会
25日 伊中タイム「水曜日の話」を開始

- 12月15日 アンケート実施(保護者)
- 18日 学習会
- 19日 「障害福祉センターのつどい」に参加:1年6組全員,生徒会本部役員
- 25日 職員作業(生徒用昇降口ペンキぬり)
- 1月 中旬 アンケート実施(生徒)
- 23日 美化作業(学区缶ひろい,校舎まわりの清掃)
- 27日 学習会(研究大会参加報告)
- 2月上旬 水曜日の話 出典の本等展示(ロビー,ショウケース利用)
- 12日 同和教育研修会(子ども科学館)
- 3月18日 同和教育講演会(中央公民館)
- 23日 全体会 反省とまとめ,次年度に向けて

1993年(平成5年)度

- 4月 7日 全体会 主題,方針,組織について
- 21日 人権授業研究部 部会
- 下旬 参考図書「知っていますか 部落問題一問一答」配布(全職員)
- 5月 7日 学年会(6月 人権授業について)
- 17日 1,3年学年会(6月 人権授業について)
- 26日 学習会 VTR「にんげんの詩」視聴
- 31日 2年学年会(6月 人権授業について)
- 6月 4日 学年会 6月 人権授業について
- 11日 学習会 点訳赤十字奉仕団 鈴木朝子氏「視覚障害者への理解」
- 14日 道徳研究授業 1年 千円札,2年 やさしさいっぱい,3年 いいかかり
- 15日 3年学年会 6月人権授業について
- 23日 1年 世界人権宣言
- 人権授業 2年 「視覚障害について」
- 24日 3年 「同和問題の解消をめざして」
- 28日 全体会 (人権授業の反省とまとめ)
- 7月 2日 ふれあいの日
(校内美化作業,パネル・花台・プランターカバーづくり)
- 19日 学習会 VTR「コスモスの道しるべ」視聴
- 20日 人権授業研究部会 11月人権授業について
- 27日 市やさしい町づくり
・・・ガイドマップづくり参加
- 8月 5日 市 やさしい町づくり
・・・ガイドマップづくり参加(2年生有志)
- 24日 全体会 研究報告 紀要について,11月 人権授業について

人權授業研究部

I 人権授業研究部

人権についての感覚や意識を高めるための実践

(1) 研究のねらい

日常生活の中で、「人権」という言葉はよく使われるが、それが生徒に正しく認識されているかということ、はなはだ心もとない。「思いやりをもって」とか「相手の立場にたって」というのは、言葉では簡単であるが、いざ実際の場面となると、自己の利益を優先したり、その時の利害関係や感情にしたがって行動する生徒もみられる。その結果が、相手の人権をそこない、傷つけたとしても、気づかない生徒も多いのが現状である。それは、一人一人が克服すべき問題として、とらえる必要がある。

本研究部では、「人権とは何か」「人権はどのようにして傷つけられるか、また、守るためにどうすべきか」を生徒に問いかけ、人権について深く考えさせる授業のあり方について研究をすすめた。授業で、生徒の心情深くにせまっていくことで、日常生活の各場面で差別を見抜き、人権尊重の基本的な立場にたった行動ができるような生徒を育てたいと考えた。そのために、授業のテーマとして日常生活の中で起こるさまざまな具体的な問題を取りあげ、その問題について、一人一人の生徒が自分なりの考えを持ち、お互いの考えを述べ合い、聞き合うことで、人権についての感覚や意識を高めていくことをねらいとして、研究をした。

(2) 全体計画（3学年を見通して） ※各学年4時間（1.2学期2時間）

1 学 年 主題「人権とは何か」

1 学期②	2 学期②
世界人権宣言を知る	身近な人権問題について考えよう

2 学 年 主題「障害者と人権」

1 学期②	2 学期②
障害者への理解を深めよう（視覚障害） 講演 点字、援助の実習	障害者への理解を深めよう（車椅子） 講演 車椅子の実習

3 学 年 主題「同和問題の解決をめざして」

1 学期②	2 学期②
同和問題を知る VTR「にんげんの詩」	同和問題の解決をめざして VTR「コスモスの道しるべ」

第1学年 人権授業学習指導計画

1. 実施日 1993年 第1回 6月23日(水) 24日(木)
第2回 11月5日(金) 12日(金)

2. 主 題 人権とは何か

3. 主題設定の理由

現在の学校生活の中で、大多数の生徒は明るく学校行事や部活動などに積極的に参加し、学習面でも意欲的に取り組んでいる。しかし、一部には友人関係に悩んだり、学級になじめない、さらにはいじめや仲間はずれに近いことも見られる。また、自己中心的な行動や集団の活動に無関心で非協力的な様子が見られ、集団への所属感や思いやりなどが薄れ、いじめなどの問題行動も起こりやすくなっている。人権については、日頃から意図的に指導することによって、いじめや差別の問題は表面的には目立たなくなるが、真の意味での仲間意識はなかなか育たない。

そこで、「世界人権宣言」の採択の理由とその内容を知ることを通して、人間は様々な権利と自由を所有すると同時に、他の人の権利と自由を守る義務を負っていることを知る。そして、日常生活の中で自己中心的な考え方や行動を改めていくきっかけにし、学級において人間的な触れ合いのある仲間づくりをめざして、この主題を設定した。

4. ねらい

- ・人間は生まれながらにしてさまざまな権利、自由を持つと同時に他の人の権利と自由を守る義務を負っていることを理解する。
- ・日常生活の中での考え方や行動を振り返り、よりよい仲間づくりをめざす姿勢を育てる。

5. 資 料
- ・VTR「世界人権宣言」
 - ・プリント「世界人権宣言抜粋」
「日本はアジアの人々に何をしてきたか」
 - ・VTR「いやなやつ」

6. 準 備
- ・人権に関するアンケート調査結果

7. 指導計画

時	日	主 題	資料名	指 導 目 標	指 導 内 容
仲 タイム	6/14 (月)	世界人権 宣言を知 る	おやじの 背中	・資料を読んで、人権について投げかけを行う	
1	6/23 (水)		VTR 「世界人 権宣言」	・世界人権宣言の内容 を理解する	・VTRを視聴させ、世 界人権宣言の内容を理 解させる ・なぜ、世界人権宣言が できたか考えさせる
2	6/24 (木)		プリント 「日本はア ジアの人々 に何をした きたか」	・世界人権宣言の採択 の理由を理解する ・人権とよりよい仲間 づくりの大切さを理 解する	・前時のまとめと発表 ・資料を読ませ、日本が 戦争での人権の侵害を 理解させる ・人権とは何か理解させ る
仲 タイム	6/28 (月)		生徒感想 文	・いろいろな生徒の意見や感想を知り、授業の まとめをする	
年 輪 会	7/14 (水)		生徒感想 文	・感想文を発表し、いろいろな考えがあること を知る	
仲 タイム	11/1 (月)	身近かな 人権問題 について 考えよう	人権アン ケート	・人権についてのアンケートを実施し、身近な 問題に気付かせる	
3	11/5 (金)		VTR 「いやな やつ」	・いじめる立場、いじ められる立場、周囲 の立場について考え させる	・VTRを視聴させ、3 つの立場について考え させ、感想を書かせる
仲 タイム	11/8 (月)		生徒感想 文	・いろいろな生徒の感想を聞き、次時につなげ る	
4	11/12 (金)		アンケー ト調査結 果	・差別やいじめの根本 的問題点について考 える ・自分達の学校生活を 振り返り、よりよい 仲間づくりをするた めにどうしたらよい か考える	・前時のまとめと発表 ・3つの立場について、 班で話し合わせる ・何が一番の問題なのか 考えさせる ・自分達は今どうか、考 えさせる
仲 タイム	11/15 (月)		生徒感想 文	・いろいろな生徒の意見や感想を知り、授業の まとめをする	

(第2時限目)

	指導内容	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入 5	前時の 復習	<ul style="list-style-type: none"> 世界人権宣言について学習したことを確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 何人かに質問をする 資料の配布をする
展 開 30	世界人 権宣言 採択の 理由 日常生活 にお いて	<ul style="list-style-type: none"> なぜ、世界人権宣言が出来たのか発表する 資料を読み、最も人権が侵される状況は戦争であり、第2次世界大戦終了の3年後に採択されたことを知る 「みんながお互いを自分と同じ人間だと認めて、その人の権利をお互いに大切にしようこと」をめざしたものであることを知る アパルトヘイト、カースト制度等、世界の中には人権が守られていないことがあることを知る 学校生活の中で人権が守られているか考える 	<ul style="list-style-type: none"> 意見を聞くだけでよく、あまり深入りはしない 資料を読ませ、日本が戦争でやってきたことを理解させる 人権とは人間が生まれながらにして持っている権利であることを理解させる 人権の大切さを考えさせ、お互いによりよい仲間づくりをしていくことの大切さを認識させる 次回の課題とする
結 め 10	感想を 書く	<ul style="list-style-type: none"> 「人権学習を終えて」の感想を書く 	<ul style="list-style-type: none"> 書き終わらない生徒は、後日提出させる

7. 評 価

- 世界人権宣言の採択の理由と内容が理解できたか
- 人権の大切さを知り、お互いによりよい仲間づくりをしていくことの大切さが理解できたか

世界人権宣言は、1948年12月10日にパリでの国際連合の総会で採択されました。ふたつの世界的な大戦争をもう二度と起こさないため、そして世界が平和であるためには、国境にこだわらずに、みんながおたがいを自分と同じ人間だとみとめて、その人の権利をおたがいに大切にしようことが必要だということで、意見が一致したのです。しかし、この時賛成していても、国内ではこの宣言で決められていることが守られていないことが、おどろくほど多いのです。まともな理由もなしに逮捕されたり、いたい目にあわされたりしている人びと。がんばって働いても食べ物も住むところも十分になく、勉強もできず、好きな人と結婚することもできない人びと。

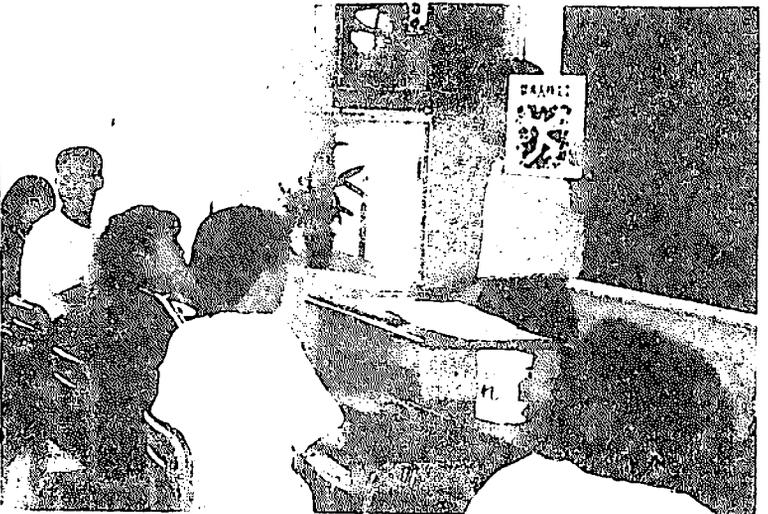
世界人権宣言は、約束ではあっても法律ではありません。約束したことを守るかどうかは、それぞれの国の政府にまかされています。法律ではありませんので、約束をやぶっても罰はありません。でもこういう約束をしたのだと、世界中の人みんなが知るようになれば、政府も約束をやぶりにくくなります。事実、この宣言が国際連合で採択されて多くの人がその内容の大切さに気がついたり、考え直したりするようになってから、宣言の内容にもとづく罰則つきの国際的な法律がまとめられ、少しずつすすけれども、たしかに世界の国々にそれを自分たちの国の法律にしています。

でも、世界人権宣言が採択されてから40年あまりたっても、この宣言のことを知っている人はまだまだ少ないのです。もっと、もっと多くの人たちに世界

アムネスティ・インターナショナルは、
「みんなに人権を！」という活動を世界中
ナショナルは、人権は守られるべきだ
す。世界人権宣言は世界数十か国のこ

世界人権宣言

アムネスティ・インターナショナル日本支部、谷川徹太郎



解説
1

日本はアジアの人々に何をしたのか

関東学院大学助教授

林 博史 (はやしひろふみ)

日本は本当に戦争の被害国か

二年前、中学生を対象とした世論調査で、「第二次世界大戦で最も被害を受けた国」はどこかという質問に対して、七〇%が日本を挙げ、その理由として多くの中学生が「原爆が投下されたから」と答えていた。でも日本が最大の被害国というのは本当だろうか。

戦争中、日本軍に家族を殺されたマレーシア人をたくさん知っているが、彼らは、日本が侵略をし多くのアジアの人たちを殺したから原爆を落とされたのだ。原爆を落とされたのは当然の報いだ、と言っている。アジア各地でそのような思っている人はたくさんいる。このことをどう考えたらいいのだろうか。

先の戦争での日本の死者は約三〇万人だ。これは決して少ない数ではない。しかし、日本によるアジアの国々への犠牲者は二千万人にもものほると言われている。

一五年にわたって日本が侵略した中国では死者は一千万人をこえる。そのなかには南京大虐殺で殺された約二〇万人の市民を始め、各地で虐殺された人たちが含まれている。

戦火に追われ、家を捨て、荷物のみで逃げた中国市民。街をこわし、田畑をむきつぼして進軍する日本軍に対し、民衆はたまたま手ははかた。

▲昭和12年7月、中国・北京近郊の瀋陽橋で起きた日本軍への発砲事件をきっかけに、日中戦争が始まった。事件から1か月後、北京市内に入った日本軍兵士。



人権学習を終えて 教師の感想

1. 時間的にどうでした。

VTRを先に見せたことによって生徒が意識をもてた。
感想を書く時間がとれなかった。(朝自習・伊中タイム等の時間で行いました。)

2. 授業をずるにあたってどんな工夫をしましたか。

資料を使わないで前の時間に生徒に感想を書かせ、そのことについて話し合いをした。
人権のアンケートの集約したものを使い差別に気づかせた。
6月23日 沖縄の日になんで話をした。
祖父の戦争体験を話した。
生徒同士で話し合いをし、それを活用した。

3. どんなところに苦労をしましたか。

戦争の話が苦手である。
戦争の話が強烈なので身近な問題につなげることが難しい。

4. 生徒の反応

心に残ったことは戦争だけになってしまったようだ。
身近な問題としてとらえられていない様子。
「世界人権宣言」とむすびついたかな。
VTRを真剣にみていた。
それぞれの生徒が真剣に考えていた。

5. 資料はどうでしたか。

資料は難しい。
現実的な方がいいかな。

6. その他

学年朝会で感想を発表させよう。
これからの授業・特別活動・道徳等で継続的に扱おう。



オレゴン通信

平成5年7月20日

3年3組
学級通信

有意義な夏休みを過ごそう!

1学期も今日で終了です。42日間の夏休みは、心身共に成長のいちじらしい中学生にとって非常に重要な意味をもっています。1学期の反省をひとに生き生きとした夏休みを過ごし、よい成績を上げるよう目標を立て生活設計を組んで下さい。

夏休みは学校がある時よりも自分の時間が多いので、気をゆるめるとどこかゆるゆるに陥って、何もしてないで42日が過ぎてしまいます。自分の時間で有意義に使うことは、セブがしいことです。例えば、ふだん時間に追われて読めない長編の本やシリーズものを読破するなど、後で満足感が得られるようなことを1つは実行したいものです。



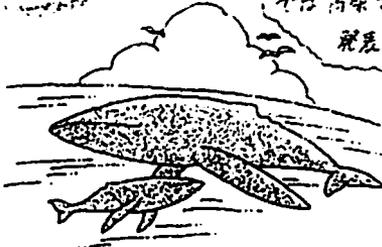
◎ 健康チェックの良い機会です。

1学期の検診の結果、治療の必要のあるものは治しましょう。例えば虫歯等。

また、積極的に部活動などに参加して、体を鍛えよう。

◎ 1学期の復習をしっかりとやろう。

1学期の学習の反省をもちに、いかなる教科の克服や復習を自分のペースでがんばりやう。学習相談日や勉強会を活用しよう。



夏休みだからといって朝寝坊でせると、結局は1日全部が不規則になります。

夏休みだからといって朝寝坊でせると、結局は1日全部が不規則になります。



人権の学習をしています

6/22・24の2日間、人権に関する学習をしました。1年生は北野人権室のビデオを見て、人権の大切さを学びました。学年集会で各クラス1名ずつ感想文を発表しました。3組では高梨さんが発表しました。

人権学習を終えて

1年3組

昨日と今日で学習した「世界人権宣言」のこの中にも「差別」という言葉はいろいろな思いがあります。日本人同志はみんな同じ地球に住んでいる人達が差別をするのはおかしい事だと思います。みんな同じように一生懸命生きていくはずなのに、どうして差別をしてしまうのだらうと思います。全ての人が同じような権利を持つ。ならば、「差別」という言葉はいろいろなはずです。人種がちがうのは地球のそれぞれの国の特徴であり、それぞれの人には入ったから差別してやる」というのはその人の考え方があっていないという事です。その人の奴隷になる事も法律によって禁じられていて、人々はみな平等に生きていくという事を守るべきだと思います。そして、1人1人が持っている「自由」を他の人の迷惑になる事に使ってしまうのはおかしいです。人々はみな平等だ」ということがよくわかりました。

おめでとうだー

昨日、みんながよかった！ 1年2組 学組通信
H.5.6.25. FRIDAY No.14

人権学習を終えて

1年2組39番 井上春彦

昨日、おとしいの人権学習は、自分にとって役に立った。久しぶりにおじいちゃん、戦争の話を思い出して、「平和って何だろう。自分2人だけじゃ、それでいいのわ。」という気分になった。

戦争は嫌いだ。理屈でどりのこの言うよりも、俺は「嫌、ボ」の一言で片付けてしまいたい。今の自分の能力では世界各国の戦争を止めることはできない。それが悔しく、ほかゆい。

でも今、自分にできることは、何でもやりたい。身辺にある人権問題、例えば生徒どうしのひどい言葉かけや行動、考え、そんなことを生徒と一緒に考えていきたい。そう、う一人ひとりの思いのたが、戦争というひどい殺し合いを産むのだと思う。

それにしても昨日の1年2組の聞く態度は良かった。みんなの真剣な目、おちたらけり、急げり。みんながまじめに「人権」というものを考えていた。感想文もみんなとても良かった。

心の豊かな人間を目指して、お互いにかんばりやう！

人権学習を終えて

1年2組

私は、きょうと今日の人権学習という話を聞いて、
「人権」と言うのは、とても大切な物なんだと思えた
戦争の話でも、先生がき、た事は、すごく大事だと思えた
戦争は、「人殺し、た」ということ、かろい気持ちで、
「死ぬとか、死ね」といって、7は、いけなさんだ」と思
いた。私も、人にたつて、「死ね」とか、死ぬとか
言、7しさい。私は、かろい気持ちでたけり
言ふた行うは、と、7もきこつていてるんだなと
先生の話を聞いて、私は、かろい気持ちで、
し、7は、いけなさんだな」と思いました
たか、もし自分が、いけなさんがなると
自分はず、たいに、きこつて来たり、7は、
いけなさんかかりました、
きょうと今日の事は、ほじは、いけなさんかきながら、たけり
2回日に戦争の話、悪い話など聞いて、
とても大切な事を教えて、た様なきか、しりました、
いけなさん、先生が、た事を、7いけなさんと思いました



とらいあんぐる

第5号
1993年
7月2日
発行 伊勢原中学校
第1学年



充実した2時間

—人権学習—



6月23日・24日と学校研究の一つとして、人権学習が行なわれました。『人権とは何か』という内容で、1時間目は「世界人権宣言」のビデオを見、2時間目はその内容と採択の理由、身近な問題等について学習が行なわれました。どのクラスも真剣に取り組み、充実した2時間であった。この学習が、今後の日常生活に生かされるようにしていきたいと思います。また、ご家庭でも人権について家族で話し合うのはどうでしょうか。以下に学習後の生徒の感想文を紹介します。(抜粋)

- ・世の中にはいろいろな差別があるとは知っていたが、日本人だけでも昔はこれだけのことをしたのかと思ういやな気持ちになった。人間が人間の人権をふみにじる権利はどこにもないのに、言葉がちがう、目の色がちがう、はだの色がちがうというだけで、人権をふみにじるのはやってはいけないことなのに、現在この世界のどこかでは差別に苦しんでいる人々がいるのはその差別のある国だけでなく、この世界全体の問題だと思ふ。これから僕はできるだけ人の人権をきずつけないように気をつけて生活していきたいと思ふ。(1組)
- ・この学習をして、一番うれしかったのは世界にこんなすばらしい決まりがあるということです。そして、そのきまりがあたりまえということがとてもうれしかった。でも、そのあたりまえのことが自分ですら守られていないということに気が付き、悲しくなりました。この決まりが世界全体で必ず守られるように私たちも協力しなくてはと考えました。(8組)
- ・私は教室に置いてあった「世界人権宣言」の本を読んだとき、なぜこんな本があるのかわからなかった。その本にはあたりまえのことしか書いてなかったから。家に帰って、「わけのわからない本があった」と母に言くと、優しい声でしかられた。「その『あたりまえ』が世界では一番守られていないのだ」と言われた。(7組)



みんながんぼれ！ 部活動大会予定

- 総合開会式 7月17日(土)
市総合体育館
- 野球……………7月17日(土)
鈴川球場
18日(日)
伊勢原市営球場
- 柔道……………7月17日(土)
市総合体育館
- 剣道……………7月17日(土) 個人戦
市総合体育館
- 21日(水) 団体戦
中沢中学校
- バレーボール……………7月18日(日)
伊勢原中学校
- バドミントン……………7月18日(日)
山王中学校
21日(水)
成瀬中学校
- ソフトテニス……………7月11日(日) 個人戦
中沢中学校
17日(土) 団体個人
成城学園コート
- 卓球……………7月17日(土) 団体戦
市総合体育館
18日(日) 個人戦
中沢中学校
- サッカー……………7月11日(日)
伊勢原中学校
17日(土)
山王中学校
- 水泳……………8月2日(月)
成瀬中学校

まだ応援だけでもいいかもしれませんが、応援もとても大切な部活の一部です。試合に出る人も数人いるようですね。全力を尽くして、がんばって下さい。



7月の行事予定

1	木	期末テスト	
2	金	ふれあいの日	
3	土		
4	日		
5	月	全校朝会、生徒会役員	↑
6	火		↑
7	水	社研会、中央委員会	↑
8	木	木3・4・5・6・1時	↑
9	金	金3・4・12・5	↓
10	土	学校5日休業	
11	日	市内中体研大会	
12	月	月1・2・3時	↑
13	火	↑ 開校50周年 火1・2・3	↑
14	水	↓ 学年朝会 水1・2・3	↓
15	木	木1・2・3・4	↓
16	金	金1・2・3・4	↓
17	土	市内中体研大会 開会式	
18	日	↓	
19	月	大掃除	
20	火	終業式	
21	水	↑ 中プロ7大会	
22	木	夏	
23	金		
24	土	夏	
25	日		
26	月	休	
27	火		
28	水	夏	
29	木		
30	金		
31	土		



7月13日(水)・14日(木) 個々面談の日

です。
日頃の学校の様子・学習の進捗などが話される予定です。ご来校は後日アポイントメントをお願いします。

7月20日 ふれあいの日

本校では年2回、「ふれあいの日」という日を設けて、奉仕的な活動や生産的な活動を行っています。昔年の授業とは少し違った活動です。7月2日(金)の午後にその第1回目になっています。今回の奉仕的活動は学区内のゴミ拾いや校内のドブ掃除、草むしりなど、生産的活動は学校内の環境美化に役立つものの製作という事で、フラワースタンド、プランターカバー、パネルを作ります。また、どの活動も色ごとで行い、各色の3年生のリーダーシップのもと、園交を深める絶好の場にもなります。豊かな心を育てる活動として本校で続けられているこの『ふれあい活動』、1年生の活躍を期待します。

第2学年人権授業学習指導計画

1. 日時 1993年 第1回 6月23日(水) 24日(木)
第2回 11月5日(金) 12日(金)

2. 主題 障害者と人権

3. 主題設定の理由

中学2年生は、心身の急激な成長期にあたり、自我が形成されていく大事な時期である。しかし、日常生活においては自己中心的な考え方が目立ち、他人への思いやりにかける行動も多く見られるのが現実である。

本校では人権学習として、1年生で「世界人権宣言」を扱い身近な生活から人権とは何かを考えた。2年生においては、障害をもつ人たちの人権について考えさせるため、本主題を設定した。

生徒は、日常生活のなかで障害者とふれあう機会は少ない。障害者という言葉は知っていても、障害者の抱えている問題を心から理解しているとはいえない。また、そのことから障害者に対して単に同情したり、偏見を持ったりする生徒もおり、障害者が前向きに生きる姿勢をとらえられない生徒もある。本授業のなかで、障害者が生きていく上で抱えている問題を障害者の立場にたって考えることにより、人権という言葉のもつ意味や重さを実感させたい。

4. ねらい

- ・点字や誘導援助、車椅子の実習をすることにより、障害者の方たちがさまざまなハンディキャップを負いながらも、前向きに積極的に生きようとする姿勢を理解する。
- ・日常生活のなかで、困っている人たちにすすんで援助しようとする態度や意欲を育てる。

5. 資料 ・視覚障害者への援助の仕方 ・点字の詩「目が見えたら」
・点字一覧表
6. 準備 ・アンケート「視覚障害について」 ・アイマスク
・車椅子

7. 指導計画

時	日	主題	資料・準備	指導目標	指導内容
伊中 タイム	6/14 (月)	障害者への理解を 深めよう (視覚障 害)	どら杖印刷の少 女	資料を読んで、障害者の立場から人権 について考える必要性に気づかせる	
短学 活	6/19 (土)		アンケート 用紙	アンケートをとり、視覚障害とはどう いうことか考えを深める	
1	6/23 (水)		講演「視覚 障害につい て」 アイマスク	視覚障害が日常生 活にどうかかわる かを理解する	講話をきき、視覚 障害について知り アイマスクによる 歩行の実習をする
2	6/24 (水)		点字一覧表 点字の詩 「目が眩む」 アイマスク	点字の読み方、誘 導の仕方を実習し 視覚障害者の立場 を共感する	点字を読む 全員がペアになり アイマスクをつけ て歩行する
3	10/ 29 (金)	障害者への理解を 深めよう (車椅子)	講演「車椅 子の生活と 私」	車椅子が日常生活 にどうかかわるか を理解する	自分達の身近な先 輩の話から障害に ついて考える
伊中 タイム	11/1 (月)		生徒感想文	講演について感想、意見を発表し聞く	
4	11/5 (金)		車椅子の介 助 車椅子	車椅子ののりかた を知り、障害のも つ意味を理解する	車椅子の正しいの り方、介助の仕方 を理解する
伊中 タイム	11/8 (月)		体験者の感 想文	車椅子のボランティア体験をした生徒 の感想を聞く	
5	11/ 12 (金)		車椅子につ いて	車椅子にのること で、障害者の立場 や生きる姿勢を共 感的に理解する	全員が車椅子の実 習をする
伊中 タイム	11/ (月)15		車椅子実習 の感想文	車椅子を体験しての感想をお互いに発 表し、障害者の立場で人権を理解する	

人権学習指導案

1. 日 時 1993年(平成5年) 6月23日(水) 5校時
24日(木) 6校時

2. 学年、組 第2学年

3. 主 題 障害者への理解を深めよう(視覚障害者)

4. ね ら い ①点字を読んだり、誘導の援助をしてみることにより、視覚障害者の人たちが生きていく上で、さまざまなハンディキャップを背負っていることを理解する。
②日常生活の中で、視覚障害者など困っている人たちに積極的にかわって援助しようとする態度や意欲を育てる。

5. 資料・準備

- ・視覚障害者について知っていること(アンケート) 短学活
- ・誘導援助のペアを決めておく。
- ・視覚障害者への援助の仕方(プリント資料)
- ・点字一覧表
- ・点字の詩「目が見えたら」

6. 指導過程

<第1時限> 6月23日(水) 5校時
体育館で学年全体指導

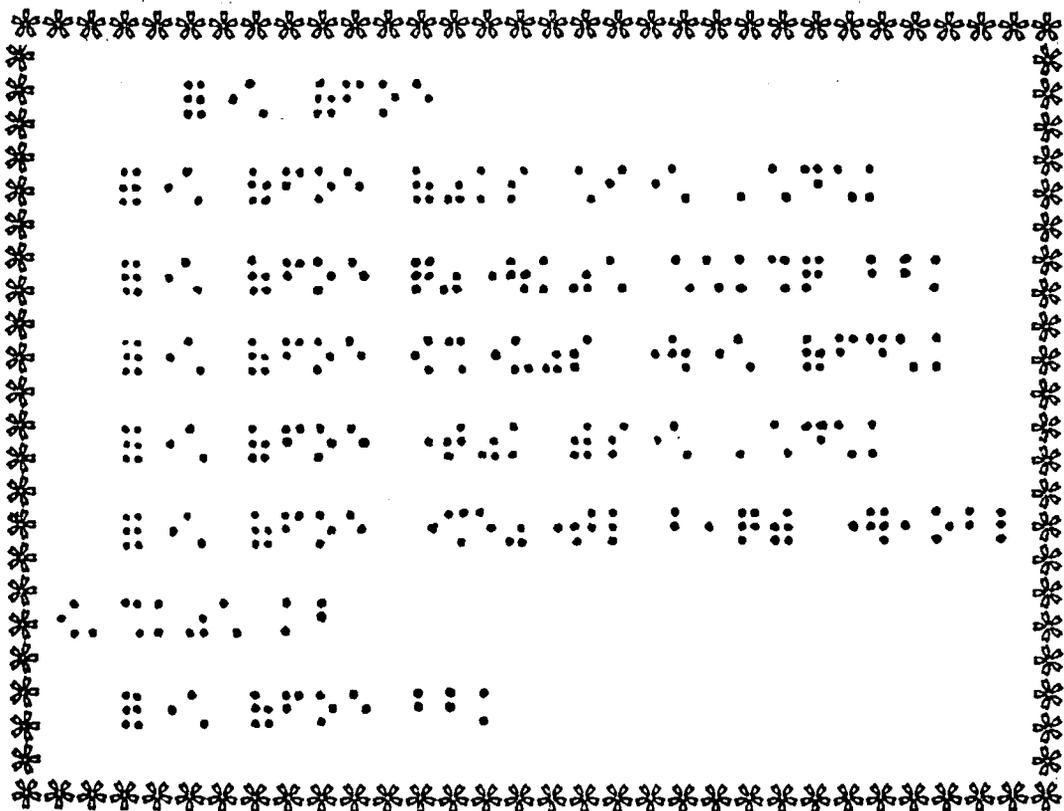
①講話 「視覚障害者への接し方」を聞く。
講師 鈴木朝子先生(点訳赤十字奉仕団)

②視覚障害者の誘導の実習をする。

講師の先生の指導のもとに、体育館ステージをつかい、視覚障害者の介助の仕方について実習する。各クラスの代表者がアイマスクをつけて、それを実際に誘導し援助の仕方の基本を理解する。

	指導内容	学習内容	指導上の留意点
導入	ボランティアの方の紹介とあいさつ 前日の講話の内容を思いおこす		点訳赤十字奉仕団の活動についてふれる。
展 開	点字の構成を知る 点字の詩「目が見えたら」を読む 視覚障害者への接し方(誘導)	○点字がどのようにできたかを知る。 ○点字の組み立てを知る。 ・五十音(母音と子音) ・濁音 ・拗音(きゃきゅきょしゅしゅしゅ……) ・数字 6点で表示されることを知る。 ○グループごとに点字一覧表をもとに読む。 ○グループで発表する。 ○目をつむり、指先で読んでみる ○前日の代表者のやったことを思い出しながら、説明を聞く。 ・誘導の基本の形 ・アイマスクのつけ方 ○2人組で、交替で誘導する。 2グループに分け、1グループは誘導のようすをみる。終わったら交替する。	ボランティアの方から説明をしっかりと聞く。 点字にかなをふらせてもよい。 ハンカチ、ティッシュを用意してつける。 危険のないよう教室の環境を整備する。 おもしろ半分から、ふざけないよう十分に注意する。
まとめ	感想の発表 教師の感想	○質問や感想を発表する。 ○教師の感想を聞く。	2日間の授業の感想を素直に発表させる。

7. 評価
- ・視覚障害者の立場にたって、日常生活のハンディキャップを理解できたか。
 - ・障害者など、不自由な生活を余儀なくされる人たちに、すすんで援助の手をさしのべようとする意欲をもつことができたか。



目が 見えたら

目が 見えたら みんなの 顔が わかるかな

目が 見えたら 点字なんか 書かなくて いいな

目が 見えたら 黒板の 字が 見えるかな

目が 見えたら どんな ものが わかるかな

目が 見えたら グランドに 行っても 絶対に

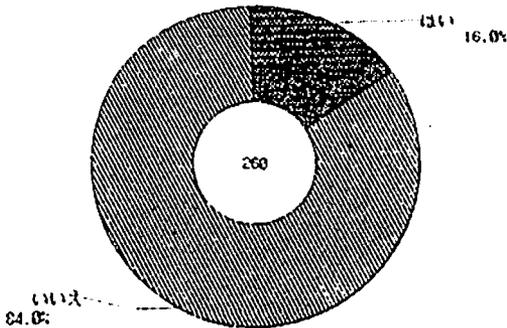
こわくなんか ない

目が 見えたら いいな

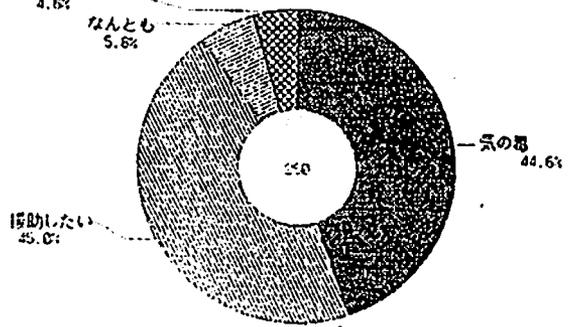
視覚障害者に関するアンケート

1. あなたは目の不自由な人と話をしたことや知り合いになっ はい いいえ
ことがありますか。
2. あなたは目の不自由な人が白い杖をもってあるいているのを はい いいえ
見かけたことがありますか。
3. あなたは目の不自由な人を見かけたとき、どう思いましたか。
・気の毒だと思う。
・できれば援助してあげたいと思う。
・何とも思わない。
・その他（ ）
4. あなたは、点字をみたり読んだりしたことはありますか。 はい いいえ
5. あなたは、点字ブロックをみたことがありますか。 はい いいえ
6. あなたは、音のなる信号機を知っていますか。 はい いいえ
7. 音のなる信号機が伊勢原市にいくつあると思いますか。 ()
8. あなたがもし目がまったく見えないとしたら、生きていくうえでどんなこ
とに困ると思いますか。いくつでも思いつくものを書いてみてください。

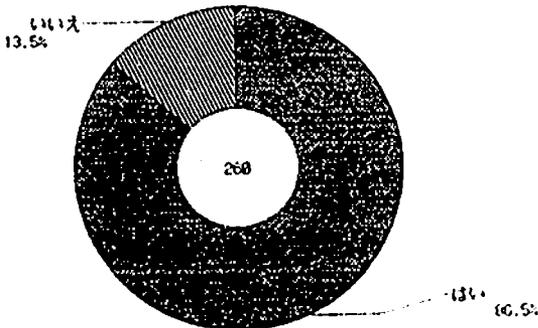
1. あなたは目の不自由な人と話をしたことや知り合いになっ
ことがありますか



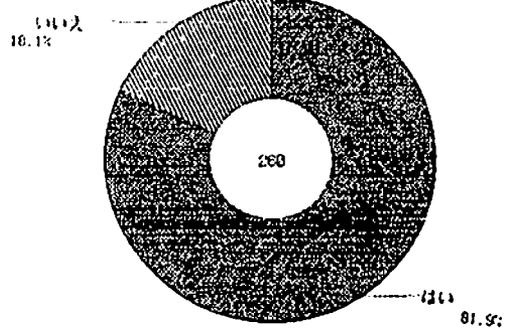
3. あなたは目の不自由な人を見かけた時どう思いましたか



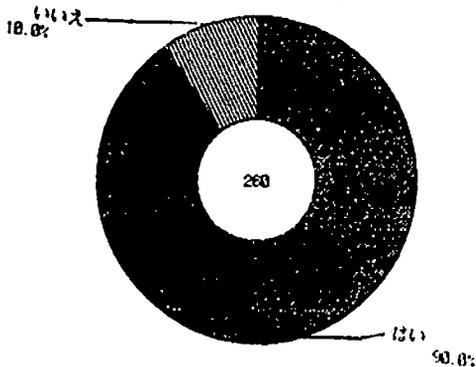
2. あなたは目の不自由な人が白い杖を持って歩いているのを
見かけたことがありますか



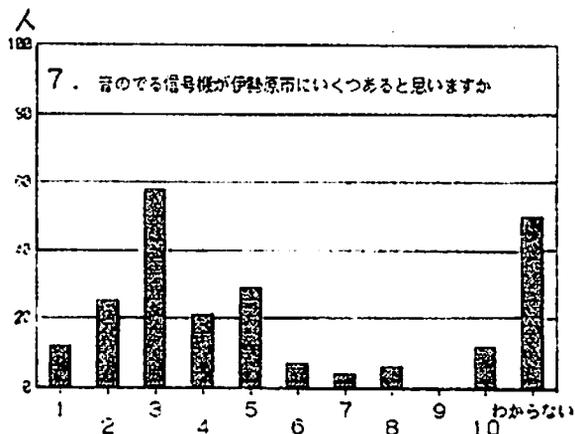
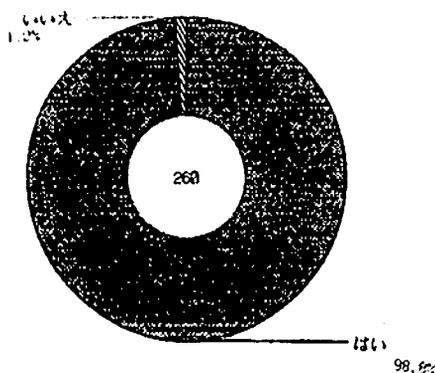
4. あなたは点字をみたり読んだりしたことはありますか



5. あなたは点字ブロックを見たことがありますか



6. あなたは音の出る信号機を知っていますか



8. あなたがもし目がまったく見えないとしたら、生きていくうえでどんなことに困ると思いますか。いくつでも思いつくものを書いてみてください。

- ・ 階段や横断歩道の歩行や外出
- ・ 身の回りのことができない（食事、風呂）
- ・ 美術作品や奇麗な風景が見られなくなる
- ・ テレビを見られない
- ・ 色が見られない
- ・ 字が読めない
- ・ 字が書けない
- ・ 本が読めない
- ・ マンガが読めない
- ・ 職業が限られてしまう
- ・ 料理を作れない
- ・ 好きな人が見られない
- ・ 友達の見えられない
- ・ 買い物で欲しいものが見つけられない
- ・ 服の着替えが困る
- ・ トイレに困る
- ・ 考えたことがない
- ・ 生きる元気がなくなる
- ・ どこに何があるかわからない
- ・ 旅行に行けない
- ・ 運動できない
- ・ 自分の顔が見えない
- ・ 信号がわからない
- ・ 乗り物に乗るとき困る
- ・ 朝と夜の区別が付かない
- ・ プールに入れない
- ・ 絵が描けない
- ・ 黒板の字が写せない
- ・ 遊ぶとき困る
- ・ トランプができない
- ・ 時計が見えない
- ・ 火の後始末が大変
- ・ どこにいるのかわからない
- ・ 人に迷惑をかけてしまい
悪く思ってしまう
- ・ 一人で町に遊びに行けない
- ・ 親切にしてくれた人の
顔を見てお礼出来ない

ボランティアの方より

私が点字に出会ったのは7年前になります。それから障害のある方々とのふれあいが少しずつ広がってきて、障害を除けば普通の人と少しも違わないということに気づきました。もっと早くそういう機会に巡りあっていれば、もっと私の生き方が違っていたのではないかと考えています。

今日は短い時間で点字や誘導の勉強をするというので、これは大変なこと、出来るかなと、とても心配でした。でも皆さんが私のいうことをしっかり聞いてくださって、うれしかったです。少しはお役に立つことが出来たでしょうか。

これから障害のある人にも、普通の友達と同じ気持ちで接して下さいね。

(花輪 美恵子)

点訳赤十字奉仕団





夏休みまであとすこし！

陸上競技大会も盛大に終了し、1学期の期末テストも残り夏休みまであと少しです。

大切な、2年生の3分の1がアットいうまに過ぎてしまいました。夏休みに入る前に必ず反省をし、夏休み中にできなかった所をしっかりと行いましょう。

1. 陸上競技大会の結果

2年生の主な記録

100m	亀原伸吾	12"	29大会新
1500m	三田椿樹	1' 01"	66
5000m	大橋一貴	8'	23
10000m	稲佐正人	4'	21
100m	門宗 歩	14"	21
200m	浜辺樹子	30"	87
1500m	藤原真佐子	5' 52"	78
走り高	高崎優子	1'	21

2. 期末テストから

中間テストから約1カ月後に1学期の期末テストが行われました。中間テストでしっぴいをした人は期末こそはと思っていたと思いますが結果はどうだったのでしょうか。ただ平均点より良かった悪かっただけでなく、授業への取り組みはどうであったかも反省して下さい。

3. 保護者個々面談について

7月13・14日に保護者個々面談が行われます。日・時間等については後日担任より連絡をいたします。

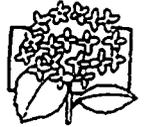
4. 市内体育大会のお知らせ

7月17日の総会開会式をスタートに夏の大会が開催されます。中ブロック・県大会への出場権を得るために全力で試合をします応援を宜しくお願いします。

7月の主な行事予定

1	木	期末テスト
2	金	期末テスト
5	月	全校朝会
7	水	出行会
10	土	学校5日制休業
13	火	保護者者個々面談
14	水	保護者者個々面談
15	木	2年学年朝会
17	土	市内中学校体育大会総会開会式
19	月	大掃除
20	火	終業式

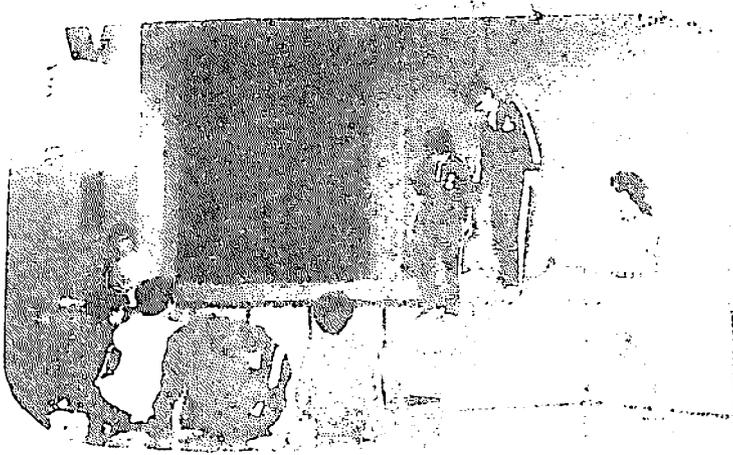
人権学習を終えて



6月23・24日「視覚障害」について、障害福祉センターのボランティアの方の指導で障害者への理解を深めました。1日目は、2年生全体で体育館で“視覚障害者について”の講演とクラスの代表による障害者への接し方の実技がありました。2日目は、各クラスにボランティアの人が指導にきて、点字とアイマスクをつけての指導がありました。生徒は、こんなに目の見えないことが大変なことだと知りあらためて視覚障害者への理解をあらたにしました。

両日の体験学習を終えて生徒に感想を聞きました。

- ・僕は、点字を見たことはあるけど、さわったり、読んだりしたことはありませんでした。けど、昨日、教えてもらった少し読めるようになりました。けれど、手でさわって読むことは難しかったです。それを、読むことのできる視覚障害者、すごいです。昨日、学校の帰る途中にバスから、白い杖を持った視覚障害者が降りてきたので友達と声をかけました。僕は最後までご一緒しました。
- ・アイマスクをつけて視覚障害者の体験をしました。ほんとうにこわいんだなと思いました。2日間いろいろ体験して、視覚障害者の大変さやつらさがなんとなくわかりました。これからは、町や駅のホームなどで見かけたら勉強したことを生かして「お手伝いしましょうか」と声をかけてあげようと思います。また、こういう勉強をして事故のこわさとか病気のこわさもわかりました。
- ・視覚障害者といったら、いろいろなハンディがあると思っていただけ、目が見えないだけで日常生活はなんでもできることがわかった。一つの障害があると他の部分が発達するというのが本当だと思った。点字のこととはただ打つてあるだけでいろいろ決まりがあることを知った。私は点字が読めたけれど、手でさわっただけで読めるなんてすごいと思った。私は点字はさわり心地のよいものだと思ったけれど、視覚障害者の人は点字がなければ本も読めないし勉強もできないのだと思いました。私たちにとって目が見えるということは当たり前のことであって重要に考えなかったけど何も障害のないということはすごく幸せなことだと思った。
- ・1日目に、体育館で視覚障害者について話を聞いた。歩行の仕方とか、事故の例、いろいろ話を聞いた。白杖を持っている人を見かけたら必ず声をかける。という話だった。実際、代表者がアイマスクをして前に出て視覚障害者と同じ条件で階段の登り下り、狭い所を通ったりして大変そうだった。2日目、自分もにやらせてもらった目が見えないまま歩くのは大変だった。けれど、付き添いの人がいてくれるとだいぶ楽に歩けた。自分で体験してみても、人に目の代わりをしてもらうことはどんなに大切なことかわかった。点字も読んだけれど指先で探すのは大変だった。自分もいつ目が見えなくなるかわからないので機会があれば勉強してみたいと思った。



アイマスクをつけての実習
(体育館にて)



点字の詩を読む

人権学習を終えて 教師の感想

1. 生徒の反応

- ・皆、真剣な顔つきで話を聞き、実習にも一生懸命取り組んでいた。
- ・点字については、皆一生懸命一字ずつ表を見ながら熱心に読んでいた。
- ・誘導については、実際に自分達がアイマスクをかけて体験した事により、視覚障害者の困難さを身を持って体験した様だった。

2. 反省点

- ・1時間で点字、誘導の両方をやるのは時間が足りなかった。
- ・点字は読みより書く方が良かったのではないか。

- ・40人に対して誘導をするのには教室内というのは少しせまかった。
- ・視覚障害者に直接会って、その方から話を聞いた方が良かったのではないか。

3. その他

- ・今回の体験を通して、一人でも多くの生徒達が自主的に援助の手をさしのべてくれることを願っています。

第3学年人権授業学習指導計画

1. 日時 1993年 第1回 6月23日(水) 24日(木)
第2回 11月 5日(金) 12日(金)

2. 主題 同和問題の解決をめざして

3. 主題設定の理由

社会生活を営む上で、生命の尊厳と人権の尊重は、互いに侵すことのできない不可欠で最も大切な真理である。

日本においては、日本国憲法において「個人の尊厳」と「法の下での平等」を中心とした基本的人権が保障されている。しかし、現実にはさまざまな差別が存在し、多くの人々を苦しめている。

同和問題は、歴史的過程において政策としてつくられた不合理な差別である。今までも差別の解消に向けて多くの努力が重ねられてきたが、まだ十分ではなく、根強い偏見として現在に至っている。

VTRや体験談等を通して差別の実態を知り、差別をされる者の苦しみを共感的に理解すること、歴史的背景を知り、不合理な差別であることを理解すること、その上につけて、差別の解決に意欲的に取り組む態度を育てたい。

4. ねらい

- ・同和問題、差別の実態を知る。
- ・部落とは何か、どうして作られたのか、歴史的背景を正しく知る。
- ・同和問題の解決に意欲的に取り組む態度を養う。

5. 資料
- ・VTR「にんげんの詩」
 - ・VTR「コスモスの道しるべ」

6. 準備
- ・生徒の同和問題に対する理解度を知るためのアンケート
 - ・歴史パネル・学習パネル
 - ・原稿用紙

7. 指導計画

		主 題	資 料 名	指 導 目 標	指 導 内 容
伊中 タイム	5/26 (水)	同和問 題を知 る	事前アン ケート	・同和問題に対する生徒の理解度を知る	
伊中 タイム	6/14 (月)		「私の少女 時代」	・同和問題・差別の実態を知る	・プリント「私の少女時代」を読ませる
1	6/23 (水)		VTR 「にんげん の詩」	・同和問題に対する基本的な事柄を理解する	・VTR「にんげんの詩」を視聴させ、内容を確認させる ・感想文を書かせる
2	6/24 (木)	同和問 題の歴 史的背 景を知 る		・部落とは何か、どうして作られたのか歴史的背景を理解する	・同和問題の歴史的背景を理解させる
伊中 タイム	10/6 (水)	同和問 題への 理解を 深める	VTR「部 落差別の 現在進行 形」	・同和問題・人権に対する理解度を知る	・VTR「部落差別の現在進行形」を視聴させ、部落差別の実態を理解させる
伊中 タイム	11/1 (月)		「差別の現 実・結婚」	・同和問題を学習する意義を理解する	・プリント「差別の現実結婚差別」を読ませる
3	11/5 (金)		VTR 「コスモス の道しる べ」	・同和問題における差別の現実、学習の意義について理解を深める	・VTR「コスモスの道しるべ」を視聴させ、内容を確認させる
伊中 タイム	11/8 (月)	同和問 題を解 決して いこう とする 意欲を 育てる		・差別の解消にむけて何ができるか、何をしなければならないのかを考える	・差別の解消にむけてできることを書かせる
4	11/ 12 (金)		VTR 「コスモス の道しる べ」	・差別の解消にむけて何ができるか、何をしなければならないのかを話し合い、理解を深める	・どうしたら差別をなくせるのかを話し合わせ、発表させる

人権学習指導案

1. 日時 1993年(平成5年) 6月23日(木) 4校時
6月24日(金) 6校時
2. 学年 第3学年
3. 主題 同和問題の解決をめざして
4. ねらい
 - ・同和問題、差別の実態を知る。
 - ・部落とは何か、どうしてつくられたのか歴史的背景を正しく知る。
5. 資料・準備
 - ・VTR「にんげんの詩」 ・生徒の予備知識を知るためのアンケート
 - ・「にんげんの詩」の要点パネル ・歴史のパネル ・原稿用紙
6. 指導過程
 - 〈第1時限目〉

	指 導 内 容	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入	・学習内容を知らせる		・真剣に学習する雰囲気をつくる
展 開 41 分	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「にんげんの詩」の視聴をさせる ・VTRの内容を確認させる ・感想文を書かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・VTR「にんげんの詩」を視聴し、差別の具体例(現代から過去)現代の課題について知る ・VTRの内容を話し合うみつ子さんの結婚問題江戸時代の差別明治の差別現代の課題 ・感想文を書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・できごとだけでなくナレータ、主人公の言葉にも注目させる ・パネルを黒板に貼付し残しておく 強く心に残ったことを中心に感想文を書かせる
ま と め	・次時の予告をする		・歴史的背景を学習することを知らせておく

〈第2時限目〉

	指 導 内 容	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導 入 5分	・VTR 「にんげんの詩」 の内容を確認する	・昨日のVTRについて 思いおこす	・パネルを貼って 確認する
展 開 30 分	・同和問題の歴史的 背景を正しく知らせ る	①近世における身分制度 ②明治の解放令 四民平等 ③全国水平社の設立 ④軍部台頭による 解放運動の後退 ⑤日本国憲法の制定 ⑥同和对策審議会答申 ⑦現代の課題	
ま と め 10 分	・差別の解消にむけ て何ができるか、何 をしなければならな いかを考えさせる	・自分たちにできること、 しなければならないことを 考える	・同和問題を単に知識 として留めるのではな く、どうしたら差別が なくせるのかを考える

7. 評価
- ・同和問題・差別の現実がわかったか。
 - ・歴史的背景を理解したか。
 - ・同和問題を解決しようとする意欲がもてたか。

にんげんの詩

上映時間 26分

製作 昭和63年

(教育映画祭 優秀作品賞受賞)

(アニメーション) 対象：中学校、高等学校、一般

<あらすじ>

- ミツコは、恋人のマサオに会いに行くところ——その表情は幸せそのものである。しかし「人間は、誰もが、自由で平等に生きる権利を持っているが、もしもその権利が、踏みにじられたりしたら——」という語りかけとともに、ミツコの顔は、しだいに曇っていく。
- 実は、ミツコは、マサオが部落と関係があるらしいという理由で、両親から交際を止めるように迫られているのだ。しかし、部落解放について、全く知識のないミツコにとっては、その意味がわからない。「部落?……部落って何?……」ミツコの必死の問いかけに答える形で、画面は、いつしか江戸時代へと遡っていく。
- タイムスリップしたミツコが、まず、やってきたのは、ある城下町である。士農工商の身分制度は、農民や町人にとっては迷惑至極なものであった。そこで、農民や町人の不平不満をそらす役を果たしたのは、士農工商のさらに下にもうけられた穢多・非人という身分だった。
- では、その頃の、穢多・非人はどんな生活を営んでいたのだろうか。ミツコは、つきにある部落に入り、そのくらしぶりを見つけていく。部落の人たちの住まいは、ほとんどが、村や町のはずれの荒れ地や、河原、がけ下などといった、環境のきわめて悪い場所と決められていた。また、仕事は、死んだ牛や馬を片づけたり、犯人を捕えたり、処刑をしたり、人のいやがる仕事を押しつけられていた。少しでも人間らしい主張をしようとすると、手厳しい目に逢わなければならなかった。
- 例えば……ある部落では、氏神様の祭礼にでかけ、神輿をかついでいた若者が、その身分をとがめられ、袋叩きにあって殺された。部落では殺人事件として訴えてたが、裁判の結果は「えたの命は、農民や町人の7分の1である。したがってあと6人殺されたら、1人の犯人を出すことにする……」という理不尽なものであった。
- そんな事件を目のあたりにして、ミツコの疑問は、さらに深まっていく。「おかしいな、この話は何百年も前の江戸時代のことでしょう。身分制度なんて、とっくになくなっているはずなのに、何故、今も部落のことが問題になるのかしら？」画面は現代にまで生き続けてきたその理由について追求がはじまる……。

ビデオ「にんげんの詩」をみて

部落という関係だけで、結婚ができなくなってしまう、そんなひどいことはないと思った。そして江戸時代の差別はものすごいものだと思う。人の命を何とも思っていない。その中で部落の人たちは本当によくがんばったなあと思った。

やっと明治になって身分の解放といううれしい知らせがあったのに、結局は変化がないということで部落の人たちは、より大きなダメージを受けてしまったと思う。なんでそういうことが現代でも続いているのか、なんで人は身分にこだわるのかと思った。今それをなくすためには僕たちのような若い力が必要なのではないかと思った。

(男子)

江戸時代の差別を見て「上見て暮らすな、下見て暮らせ」というのが、ひどいと思いました。自分より上の者たちの不満を何もしていない下の人におっつけるなんて、下の人は人として扱われていない、みんな同じ人間なんだからそんなことではいけないと思う。差別について私たちはあまりにも無関心すぎたんだと思う。

「自分のことじゃない」では、すまされないと思う。この問題は、日本人全体の問題であるので、私たち一人ひとりが正しい知識を持つことが必要だと思う。

(女子)

いままで「部落差別」という言葉しか知らなかったけれど、「にんげんの詩」を見てすこしだけわかりました。その中で、江戸時代の差別が今までずっと続いていたことがとてもショックでした。「人間の接し方が、こんなのでよいのか」と考えました。それに部落差別が今までずっと絶やされていないのが不思議です。こういう差別するようなことはずっと忘れないんだなあって思いました。

(男子)

いまだにそんな事にこだわっている人がいるという事を知って、なんだかなさけないような気持ちになった。就職の時に、そういう部落の人のリストがあることに驚いた。部落問題で苦しんでいる人がいるのなら、早くその苦しみから解放してあげたいと思う。これからは私たちがそういうことに真剣に取り組んでいかなければいけないのだな、と責任を感じた。

(女子)



教師の反省（6月の授業を終えて）

①時間的にどうか。

- ・40分で説明を終了し、予備知識等でふくらみをつけられず残り10分に困った。
- ・説明する気持ちに余裕がなく、時間の経過などみる余裕がなかった。
- ・感想文の紹介で時間を埋めた。

②展開の工夫

- ・OHPを使用したが使いなれていることが必要だ。
- ・話すことでめいっばいで工夫どころではなかった。
- ・今井先生の資料のおかげで、ある程度共通する内容が話せた。

③改善点

- ・項目はあるがつながりを見つけられない。（VTRでは映像操作でつながっているが）
- ・社会科で3、4時間かかるところを1時間でやるのに無理がある。
- ・模擬授業等で流れをつかんだほうがよい。
- ・山下浩先生から流れを教わる。
- ・VTRの流れに沿ったが、独自の流れが必要だろう。

④生徒の反応

- ・春の6校時は厳しい。思考力が必要だから、午前中がよい。
- ・よく聞いていた。
- ・パネルだけではあきる。

⑤資料について

- ・VTRに対する反応はよかった。感想もよく書けていた。
- ・資料があり奥が深いが、自分（教師自身）の勉強が必要だ。

⑥その他

- ・こちらから情報を流すのみの授業であった。
- ・情報を与えた上で、自分の意見が言えて、こちらがどう取り上げていくか。
- ・自分自身の問題として、とらえられるか。
- ・各項目の中でのやりとりも必要ではないか。



自律的な生活を確立しよう

～中間テストの返却が済んだ後～
中間テストの返却が済んだ後、結果を見てもう一度、次のようにして

- ① 授業を真剣に聞き、積極的に関与しよう。自主的に取り組んでいく。
 - ② 夜に帰って、自分の学習の時間を毎日持ち、授業の内容を復習する。
 - ③ 守るべきことを守れる強さ、やるべきことをやる強さを持つ。
- この二点を実行できる人が、伸び、力を発揮できるようになる。②③については、勉強で忙しかる点では、いかと思います。最近、遅刻をする生徒が増えています。定期テスト前、当日は制服着下校です。この癖を直さなければいけません。

(各教室の優勝者と記録)

100M	大谷 勇史 12.45	(男)	青木の 光 7.74	400MR	5組
200M	大谷 勇史 24.20	(男)	星 豊彦 31.23	800MR	2組
400M	栗石 雄二 1.12			1500M	1組
800M	西山 雄二 2.55.05			3000M	1組
1500M	山口 健之 4.21.22			5000M	1組
3000M	山口 健之 10.41.26			10000M	1組
5000M	栗石 雄二 19.52			15000M	1組
8000M	石田 滋樹 34.11			20000M	1組
10000M	渡辺 雄二 44.42			25000M	1組
15000M	渡辺 雄二 1.01.11			30000M	1組
20000M	栗石 雄二 1.50.02			35000M	1組
25000M	栗石 雄二 2.38.21			40000M	1組
30000M	栗石 雄二 3.26.11			45000M	1組
35000M	栗石 雄二 4.14.02			50000M	1組
40000M	栗石 雄二 5.01.52			55000M	1組
45000M	栗石 雄二 5.49.42			60000M	1組
50000M	栗石 雄二 6.37.32			65000M	1組
55000M	栗石 雄二 7.25.22			70000M	1組
60000M	栗石 雄二 8.13.12			75000M	1組
65000M	栗石 雄二 9.01.02			80000M	1組
70000M	栗石 雄二 9.48.52			85000M	1組
75000M	栗石 雄二 10.36.42			90000M	1組
80000M	栗石 雄二 11.24.32			95000M	1組
85000M	栗石 雄二 12.12.22			100000M	1組

(各教室の応援団長) 渡辺 雄二、大谷 勇史、西山 雄二、栗石 雄二、石田 滋樹、辻村 秀司、柏木 寛之、栗石 雄二

3年生(長上級生)としての自覚を持つべき行動をとり、学級の結束を高めよう。6、7月を思い出して、意欲を燃やそう。

各教室の応援団長、陸上競技大会の各教室の優勝者と記録は次の通りです。

美しなる秋けつ

大規模な校内運動会が行われるのは、PTA会報「やまびこ」6月号で読みたいと思います。6月の運動会について、よくよく考えたいのは、23日(水)24日(木)の晴れです。右の文章は5月の伊中から読んだものです。先生の「美しなる秋けつ」あわただしい毎日の中で、忘れられていること、お忘れなさい。

「泥かち」の少女

「泥かち」の少女は、村の少女で、石を投げた。その少女は、村の人たちから「泥かち」と呼ばれ、村の人たちは、小川のはとりのなごを助けてくれた。その少女は、石を投げた。その少女は、村の人たちから「泥かち」と呼ばれ、村の人たちは、小川のはとりのなごを助けてくれた。その少女は、石を投げた。その少女は、村の人たちから「泥かち」と呼ばれ、村の人たちは、小川のはとりのなごを助けてくれた。

「泥かち」の少女は、村の少女で、石を投げた。その少女は、村の人たちから「泥かち」と呼ばれ、村の人たちは、小川のはとりのなごを助けてくれた。その少女は、石を投げた。その少女は、村の人たちから「泥かち」と呼ばれ、村の人たちは、小川のはとりのなごを助けてくれた。

「泥かち」の少女は、村の少女で、石を投げた。その少女は、村の人たちから「泥かち」と呼ばれ、村の人たちは、小川のはとりのなごを助けてくれた。その少女は、石を投げた。その少女は、村の人たちから「泥かち」と呼ばれ、村の人たちは、小川のはとりのなごを助けてくれた。

(原稿 1)

伊中タイム研究部

Ⅱ 伊中タイム研究部

人権に関する資料を通し、共感させるための実践

(1) 研究のねらい

本校では各教科を45分で運営し、生み出された20分の時間を「教科・生活指導の時間」として、「伊中タイム」と名付け、生徒と接する時間に当ててきた。

この「伊中タイム」の時間は、学級の諸問題を話し合ったり、学校行事に取り組むための時間として使ってきた。また、学習面や生活面での相談の時間などにも使われ、成果をあげてきた。

今回の研究では、特に水曜日の「伊中タイム」を教師と生徒がともに、人権に関する資料を読む時間とした。短時間ではあるが、様々な資料を継続して読むことを通して、いろいろな考えや心情を知り、日常生活の身近な問題を省みて、多くのことを感じとる力をつけることができると考えた。

同時に、差別を憎む心、他を思いやる心、怒りや悲しみ、喜びを共感できる心を育てることができると考えた。

(2) 研究の方法

- ① 毎週水曜日（もしくは5時間授業の日）学活終了後から3：10までの20分間をあてる。
- ② 資料については、読み易く、生徒の心に響くもので、3学年共通で使用できるものを選び、前もって全教師に配布する。（ビデオなども積極的に利用する）
- ③ 担任が資料を読み、必要に応じて解説する。
- ④ 資料は教室に掲示する。
- ⑤ 原則として生徒から感想や意見は求めない。

* 出典本はロビーに展示し、生徒の興味を促す。

* 学年便りなどに掲載し、家庭での共通話題となるようにする。

(3) 使用資料一覧

1992年度(平成4年度)

実施日	資料名	著者	出典
11・25	後ろ向き	星野 富弘	鈴の鳴る道
12・2	ロスの黒人暴動を見て 考えたこと	オスマン・ムーラ・ ヤソフ	視力6・0が見た 日本
12・9	あんな子生きとって	水上 勉 灰谷 健次郎	いのちの小さな 声を聴け
12・22	サンタクロース	星野 富弘	鈴の鳴る道
1・13	ひとさし指の問いかけ …なぜ私だけが…	神高教組「民族差 別と人権」問題小 委員会	この差別の壁 をこえて
1・20	帰化すりゃいいじゃん?	同上	同上
1・27	お会いしませんか(VTR)		NHKプライム10
2・3	パパとママの姓が違う理由	つかこうへい	娘に語る祖国
2・17	おまえを日本国籍にした日	同上	同上

1993年度(平成5年度) 伊中タイム研究部発足

実施日	資料名	著者	出典
4・12	詩 「燃えあがれ」 作文 「宇宙食」	亀田 知勢 著 小林 察 編	いのち燃えつきる まで
4・21	みんな地球に生きる人 ～アフリカの難民キャンプ～	アグネス・ チャン	みんな地球に 生きる人
4・27	いじめで学んだこと	生徒作品	人権作文コンクール
5・7	みんなふぞろいの林檎たち	森 英樹	これがPKOだ
5・26	忘れられない「泥かぶら」の少女	大石 勝男 編	3分間の感話集
6・14	人権授業事前資料 1年生 おやじの背中 2年生 どなられた白い杖の少女 3年生 私の少女時代	ビーター・フランク 大石 勝男 編 池上 英子	朝日新聞 3分間の感話集 「胸いっぱい思いを」
6・28	1・2年生 人権授業 感想文 3年生 自分の中にある差別	生徒作品	人権作文コンクール
7・5	ソマリアの子どもたち(VTR)		NHKプライム10
7・12	母と子でみる「アウシュビッツ」	早乙女 勝元 編	母と子でみる 「アウシュビッツ」

(4) 「人権授業」とのつながり

伊中タイム研究部では、定期的に資料を提供するだけでなく、人権授業研究部と連絡を取り合い、年二回計画されている人権授業の、充実と発展を図っている。そのために、人権授業の前後は、各学年ごとに計画、実施している。

6月の人権授業では、各学年とも事前の伊中タイムは生徒に興味関心をもたせ、心に響くような資料を選択し、授業の導入部の働きをした。

また授業の後の伊中タイムは、1、2学年は学級のなかから感想を何点か選び、級友の考え方や感じ方を知る機会とし、3学年は同世代の生徒の人権作文を読む機会とするなど、人権授業がその時かぎりではなく、生徒の心に残り、日常の活動に生きるよう工夫した。

11月の伊中タイムについても6月と同様に、人権授業研究部と連絡をとりあい計画をたてている。

人権授業とつながる伊中タイムの計画（6月）

月日	1 学年	2 学年	3 学年
6/14	「おやじの背中」 ビーター・フランク 朝日新聞朝刊 *「人間が国を選ぶの であって、国が人間を 選ぶべきではない。」 (資料抜粋)等、 投げかけを行う。	「どなられた 白い杖の少女」 大石勝男編 3分間の感話集 *「障害を持つ人の立 場に立つ」ということ について、問いかける	「私の少女時代」 池上英子著 部落解放識字作品集 胸いっぱい思いを *「部落差別」があ ることを、知らせる
/23 /24	人権授業 世界人権宣言を知る	人権授業 障害者への理解を深め よう(視覚障害)	人権授業 同和問題を知る
/28	生徒の感想文 *クラスのいろいろな 人の意見や感想を知り 授業のまとめとする。	生徒の感想文 *クラスのいろいろな 人の意見や感想を知り 授業のまとめとする。	自分の中にある差別 人権作文コンクール 生徒作文 *自分の内に育って しまう差別について 目を向けさせる。

人権授業とつながる伊中タイムの計画（11月）

月日	1 学年	2 学年	3 学年
10/6			VTR「部落差別の現在進行形」 * 部落差別の現実を知らせる。
/29	講演 「車椅子の生活と私」	講演 「車椅子の生活と私」	講演 「車椅子の生活と私」
11/1	人権アンケート * 人権についての意識 身近な問題に気付かせる。	生徒の感想文 * 講演について他の人の感想、意見を聞く。	「差別の現実・結婚差別」 * 結婚差別の具体例を知らせる。
/5	人権授業 身近な人権問題について考えよう	人権授業 障害者への理解を深めよう（車椅子）	人権授業 同和問題の解決をめざして
/8	生徒の感想文 * VTR「いやな奴」の感想を発表し合う。	車椅子操作、補助についてのポイントを押さえる。	生徒の感想文 * VTR「コスモスの道しるべ」の感想を発表し合う。
/12	人権授業 身近な人権問題について考えよう	人権授業 障害者への理解を深めよう（車椅子）	人権授業 同和問題の解決をめざして
/15	生徒の感想文 * クラスのいろいろな人の意見や感想を知り授業のまとめとする。	生徒の感想文 * クラスのいろいろな人の意見や感想を知り授業のまとめとする。	

水曜日はなし

小さいころ、ぼくと姉がベッドに入ると、父がかわらでお話をしてくれました。昔話や自作の寓話(うわ)らわ)、祖父の思い出話もありました。眠りにつくまで三十分から一時間、ぼくが三、四歳のときから十二歳ごろまで毎日でした。

父は病院の院長でした。毎日、昼過ぎには一度帰宅し、一家で昼食をとりました。日曜日には一日中ランプをしただり、湖で泳いだり、小さい

なくなったと願った、一時されますが、ぼくは逆に、一緒の方が何倍も楽しい。なぜ日本の父親は子とも過ぐす時間が短くて平気な母はアウシュビッツで画きないですか。

母はアウシュビッツで画きないといひます。でも、同じように両親を収容所では倒れませんでした。父は両親を深く愛してました。自分が親に優しくされたから、人にも優しくしたのかも知れません。ハングリーでは医者が患者からワイロをもらるのは当然で、豪華な家や車を持って、貧しい患者には逆にお金を渡してました。『財産は頭と心』といひのが口ぐせで、それが父に教わった最も大切なことのひとつだと思ひます。

と書も触れず、息子が若らしていけることに安心して帰国しました。

なぜ亡命に触れなかったのか。人間が国を避るべきであつて、国が人間を避るべきではないからです。国を第一に考えれば、最悪の場合、国民は人種に殺されることさえあります。今の日本にはわかないかも知れませんが、両親はそれをよく知っていました。

ぼくが日本にずっと住んでいるのも同じ理由です。父は「すいぶん遅くにやちやつたなあ」といひましたが、帰つて来いとはいひません。「君の人生なんだから」といひていました。



数学者・大道芸人

ピーター・フランク

ハンガリー生まれ。第一級の数学研究の一方、十一カ国語を操り、街角では大道芸を披露する。著書に『数学放浪記』など。40歳。

金に患者は貧しい 「財産は頭と心」

ぼくがテレビを見ながら床で寝てしまつと、抱き上げてベッドまで連れて行つてくれたし、学校のノートが大好きだったのか。よく質問

ことを大切にする人ではないかと思ひます。日本のお父さんも子ともを愛してはすしよ。会社の仲間とのひら返したようにユダヤ人を追害したので、母は

親と姉を殺されました。仲殺されたのに、父はちがいで貸したお金を踏み倒されるなど、何度たまたま

はすしよ。会社の仲間とのひら返したようにユダヤ人を追害したので、母は

はすしよ。会社の仲間とのひら返したようにユダヤ人を追害したので、母は

朝日新聞

93年 5月 17日

6月 14日 (11年)

水曜日はなし

どなられた白い杖の少女

東京の中心部を走る有楽町線のことです。

今朝、午前七時三十分ころ、渋谷駅から白い杖を持った少女が学校に行くために乗り込みます。何両もある電車の中はいつも混雑しています。そこで、この少女は比較的すいている最前部の車両に乗り、車内を少し歩いて混雑箇所の付近に立つのが習慣のようでした。少女はホームに立っているときは白い杖を持っていますが、電車に乗り込んでしまうとその白い杖を折り込んでしまい、車内をゆっくり最前部まで歩いていくのが常のようでした。

ある朝のことです。その日も混雑はいっぱいでつり革でつかまっていた乗客もありました。電車がホームを出ると、少女はいつものように白い杖を握りながら車内を歩いていきました。電車の動きに合わせて歩くと、その日は電車の中央付近に中年のサラリーマン風の男が立って新聞を読んでいた。車内は電車の音が響くだけで話し声もありません。少女がその男に近づいたとき、電車はブレーキが掛ければ速度を少し落としました。そのはずみで少女は前によろけるような姿勢のまま、男の背中によつかりました。

「何をするんだい」男の人は不意を突かれて前によろけながら大声を出しました。そして、振り返って少女をにらみつけました。車内の乗客の目が声を出した男の人に一齐に向けられました。

少女はその声に驚いたのか小さな声で「すみませんでした」と言いながら頭を下げました。それから手に折り込んで持っていた白い杖を延ばしました。

白い杖を見た男は「杖をつけろ」と吐き捨てるように言いました。少女はもう一度「すみませんでした」とわびると、今度は白い杖で自分の行く手を確かめながら車内を最前部まで歩いていきました。

男は周囲の人の視線を強く感じたのか、大声を出したことを後悔しているようでした。電車が次の駅に着くとそそくさと降りていきました。

これは目の不自由な少女の電車の中で事ですが、車内で大きな声を出した男はらんぼう者がぶつかったと思ったのかもしれませんが、世の中には体の不自由な人々も共に生活しているのです。

健常な人々の中には体の不自由な人々がいっしょに生活していることを忘れていることがあるようです。電車の中で事柄も体の不自由な人が共に生活していることを意識していなかったためだと思います。少女にしてみれば目が不自由であっても一生懸命に努力し生き抜いています。このように少女も共に生きていることを周囲の人々が深く受け止めることがたいせつです。人はだれでも人間らしく生きる権利をもっていますが、互いに人権を尊重し合うことが人間として欠くことのできないものです。



「相手の立場に立つ」といいます。相手の立場を考えて共に生活する人として人に接していくことができたなら、どの人にも笑顔がよれることと思います。

(寺岡信之)

6月14日(2年)

No.6

水曜日のはなし

私の少女時代

池上 英子

あれは、私が小学一年生、昭和二十五年頃のことだった。父が胃かいようで血をばき六年間寝込んだことから、私達の家族九人は、貧乏のどん底で生活をしてた。

中学生の時には、父が土木建築業で成功して、家の生活も楽になり、私も人並みの生活を送っていた。やっと貧乏から抜け出せた。もう恥ずかしいこともひげめもない。楽しい毎日であった。そんなある日、友達とおしゃべりに花を咲かせて下校していた時、

「向井さん、あなたは恋愛できへんわ。」

と、ふいに言われた。私は不思議に思った。へき、貧乏していたからかなあ。でも今は皆と同じ、いやむしろ皆より少しはぜいたくしているのに。おかしいなあ。

「なんで私は恋愛できへんの。恋愛いうたらお互いに好きどうしてあったらできるんでしょう。」

と、聞いてみた。すると友達は、

「それは、私らだったら好きどうしてええんやけど、あんたは私と同じようにいかへんわ。教えてあげようか、あんたは部落でしょう。」

と、言われた。その時、私は別に何とも感じなかった。部落って何のことなのかわからなかったからであった。でも、友達とわかれて一人で帰る道すがら、へ友達と私とは、何となく私は皆より一段低く思われている。と感じた。私か、恋愛しようと思しようと思自由なのに。とにかく父に聞いてみようと思った。その日の夜、私は父に、

「部落ってなんや。」

と、聞いてみた。すると父は、

「部落なんかない。みんな同じや。身きれいにして正直にしてたらいい。神様が何もかも知っている。それでいいんや。」

それ以上は私も父に聞けなかった。六年間病氣とたたかい、貧乏のため苦勞してやうと今の生活にこきつけ、必死でがんばって私らを育ててくれた父に、なんとなく親不孝しているように思ったのであった。

寝床に入ってもなかなか眠れずに、私は考えていた。今まで貧乏だったから仕方がないと、思っていたことが、部落だったからではないかと思いだして来た。そういえば、同じ出野でありながら一方は上出野、私の方は下出野と区別され、上出野に遊びに行った時も、そこのお母さんから、

「あんたは下の子やから下どうして遊び。」

と言われたこともある。また、私の家は上出野に建っていたので、集団登校の時、上出野の子が集まる所に行った時、ある親から、

「あんたは、下の子やろう。下の子といっしょにいかあかん。こは上の子だけが集まる所や。」

と言われたこともある。私は昼間の友達の話思い出して、なんだかさびしい気持ちになって来た。貧しくて困っていた時とはまた違った、やりきれない気持ちの奥底でうごめいているようだった。

今考えると、両親は苦勞して育ててきた自分の子供に、部落差別の厳しさを教えたくなかったのだろう。両親にとって部落差別は、太い鎖につながれたおもりであり、そのおもりからのがれることができないのを、身をもって知っていたのだろう。だから自分の子供には、こんな重しは背負わせたくないという親心だったのだろう。それほど、部落差別は矛盾した厳しいやなものであったのだ。

今、私は四人の子供をかかえた母親である。理解ある夫と、親しい子供に囲まれて、幸せな家庭生活を送っている。しかし、子供の頃の思い出が、私の心の中にかたまりとして残っており、そのかたまりが現在ささやかながら解放運動をしている動機となっている。

私は両親から、「部落」であることを知らせてもらえなかった。それだけに、中学生になって初めて「部落」を知った時の悩みは大きく、解放運動の重要さを知るのに、たいへん遅まわりをしたように思っている。私は、自分の子供には、小学生の頃から「部落」であることを教えている。自分の子供だけは決して差別に負けてほしくないからだ。いろんな差別にぶつかったとき、それに立ち向かっていける人間になることを、強く願っているのである。



6月14日
3年生

部落解放識字作品集 2

「胸いっぱい思いを」

部落解放同盟中央本部編より

自分の中にある差別

日本真日中学校三年

乙 野 樹 子

「叔母さんね、部落出身の人だよ。」
同僚の時だろうか。確か小学校二、三年の時だったと思うが、まだはっきりと覚えてる。私の大好きな叔母が被差別部落の人だと聞かされた時のことだ。

誰にでも平等に優しく、英人の叔母は、私の尊敬する人だった。そんな叔母が、ちょうど学校で習い始めたばかりの被差別部落の人だと聞いたその時は、心臓が止まるくらい驚いた。そして、今まで叔母に対して持っていた尊敬の気持ちが一瞬にして消え去り、叔母のことが強かに知られたらという不安が横切り、周囲の目が眩になり始めた。

叔母の笑顔も優しさも、私の頃から消えてしまい、私の叔母が部落の人だということを知ることには絶対に知られたくない、と友達に隠し掛けた。その時、私には叔母を避ける気持ちがあったと思う。そして、それから人権学習を学ぶ度に不安は、大きなものとなっていった。

初めて人権学習で被差別部落について学んだ時、私が書いた感想文には確か「被差別部落の人に出会っても、みんなと同じように平等に扱いたい。」と書いた。人前では、「同じ人間だよ、差別なんてしない。」などと偉そうに言い張っていた自分も、古い考えを持った一部の大人たちと同じだと気づいたときは、恥ずかしくて、自分自身が嫌になっただ。そういえば、十年程前の叔父と叔母の結婚のことを誰一人文句を言わなかったそうだ。さうどころか、叔父と叔母のことをみんなが優しく温かい目で見守り、そして陰で支えてあげていたような気がする。周囲の人たちに、どんなことを言われるか心配していた叔母の不安も、少しずつ薄れていったのではないだろうか。それなのに私は、そんなみんなの優しさを私にのけるように叔母に冷たくあたる。叔母のこととは大層きなのに。

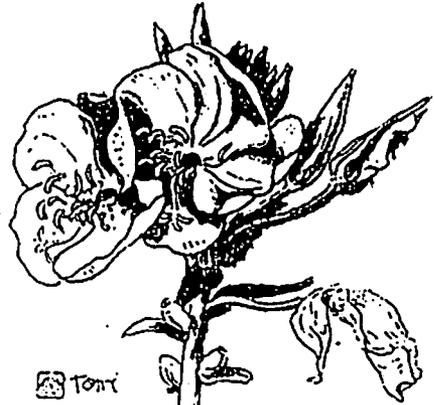
それから四年生になったとき、部落の人が必死で自分達の苦しみを訴えているビデオを学校で見せられたとき、その人と叔母の姿がダブって見えた。それはまるで叔母が私に、「部落差別をしないで」と、訴えているようだった。そんなことがきっかけで、私の叔母への見方が少しずつ変わっていった。それはさっさと、ブラスン管の中のある人が、泣きながら、自分の受けている苦しさを訴えてくれたからだろうか。昔のことにこだわって、大層きな叔母と自分の立場を大きな壁で隔ててしまった私、とり返しつけないことをしたと後悔しているが、それが逆に私自身を見つめさせる機会になったようだ。このことを通して私は、差別の壁を一つ取り除くことが出来たと思ってる。

この問題の中で私が学んだことは、私の家族や親戚が部落差別をしなかった良かった。私は幼かったので、よく分からなかったが、母に言わせるとさうだったらしい。母はそんなことが普通に行われてもいいことだが、

今の社会ではまだ、実現していないのだ。そんな中で、周囲に流されない行動はとてすばらしいことで、世にでも真似のできることはない。それができた私の家族や親戚を自慢したい気持ちだ。「自分達が差別しなかったのは、叔母さんのおかげだよ。」と、父と母は語っている。私は一度差別をする心を持ってしまったが、家族や親戚のことを誇りに思う今、これからは決して差別をしないだろう。

叔母のことで私は、部落に対しての偏見を捨てることができ、私自身の差別意識はなくなったが、世の中の部落差別に対する問題は、まだまだ解決してない。私は、部落に偏見を持っている人に偏見を捨てさせ、自分が学んだことを、みんなに教え、身近な問題から解決していく努力をしなければならぬのだ。私の家族や親戚のような人が、一人、二人と増えるならば、今よりもっとすばらしい社会生活が送れることだろう。私は、自分さえ良ければそれでいいと思うような人間にはなりたくない。人の立場に立って、物事を顧み、考え、あげられるような大人になりたい。それには、これからも自分の中の差別する心を少しずつ解決していくように、心を磨いていくことが必要だ。

まのくさり 涙しくなり
行くまっつて
どうしようも無い時
その時になつて
パーッと両手 ねめる
そのかある。
「こころのどこかに
月見草の
花のようなものが
ひそんでる



6月28日

3年生

教科研究部

Ⅲ 教科研究部

人権に関わる教材の授業実践

(1) 研究のねらい

生徒一人ひとりに基礎学力を身につけさせる事により、科学的な見方、考え方、正しい判断力を育てる。

社会科・国語科で人権に関わる教材を指導する事で、差別の実態を理解させ不当な扱いを受ける事に対する怒りや悲しみを共感できる心を持つ生徒を育成する。

(2) 人権に関わる教材（国語・社会）

<国語科>

文学教材では、テーマが「共に生きる」とされた教科書編成の意図に沿い、様々な人々の心を読みとり、同じ立場で考えるという思いを呼び起こすことのできる作品を重点教材とした。また、説明文教材では、「現代に生きる」とするテーマをふまえ、社会の問題に広く関心を持ち、世の中の姿や人間の生き方の描写と説明をたどりながら、自分のものの見方・考え方を広げられる作品を重点教材とした。

複雑な現代社会の中で、共に生きていくものとしてどのような考え方・感じ方が必要となってくるのかを見つけることを目指したい。

	単 元 名	教 材 名
1	4、命ということ 7、「わたしをこえて」	大人になれなかった弟たちに・文学教材（7月） 木琴・文学教材（9月） わたしの周りには、いつもあなたがいる・説明文（2月）
2	4、平和への願い ※自主教材 読書2 7、人間のきずなを	字のないハガキ・文学教材（9月） 鈴の鳴る道（10月） アジアの働く子どもたち・説明文（12月） 夕焼け・文学教材（2月）
3	4、状況に生きる ※自主教材 表現1、出合いを生かす 現代社会を考える	故郷・文学教材（7月） パールハーバーの授業・文学教材（9月） わたしを束ねないで・文学教材（1月） 例文 カレンダーの絵から（5月） 犬に名前をつけない社会・説明文（10月）

<社会科>

社会科においては人権に関する教材が多く盛り込まれており、この中の社会的事象を確実な資料に基づいて多角的に考え、事実を正確にとらえ、公正に判断する能力と態度を育成し、差別を許さない姿勢を持ち、幸福な生活が営まれるような社会を作り上げる意欲のある態度を育てたい。

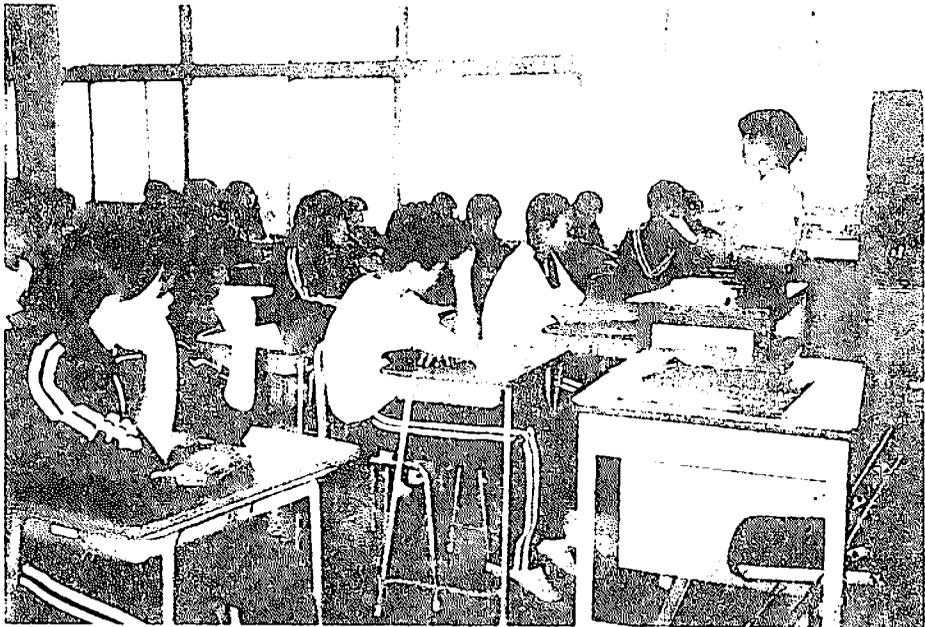
このような視点に基づいて、人権尊重の意識を育成していくために地理・歴史・公民の各分野で次の教材を取り上げた。

地 理 的 分 野
朝鮮半島と日本の関わり (3月)
インドのカースト制度 (7月)
南アフリカのアパルトヘイト (7月)
アメリカ合衆国の人種差別問題 (6月)

歴 史 的 分 野
古代社会の奴隷制 (4月)
古代インドのカースト制 (4月)
縄文・弥生時代における身分の発生 (4月)
検地と刀狩 (9月)
士農工商の身分制度 (9月)
キリスト教禁止と島原の乱 (10月)
産業革命とアジアへの進出 (10月)
百姓一揆と打ちこわし (10月)
渋染め一揆 (11月)
大塩平八郎の乱 (11月)
四民平等と身分解放令 (11月)
自由民権運動 (12月)
帝国主義 (12月)
韓国併合 (12月)
労働運動の起こり (1月)
対華二十一箇条の要求 (1月)
アジア・アフリカの民族運動 (1月)
大正デモクラシーと米騒動 (1月)
全国水平社 (2月)
日本の中国侵略 (2月)
ナチスによるユダヤ人迫害 (2月)
同和对策審議会答申 (2月)

公 民 的 分 野

- 家族生活 (4月)
- 人間尊重の思想 (5月)
- 人権思想の発達 (5月)
- 基本的人権の尊重 (5月)
- 人権の侵害 (5月)
- 裁判と人権 (6月)
- 国民主権 (7月)
- 選挙 (7月)
- 労働三権の保障 (9月)
- 社会保障制度 (11月)
- 国際連合の活動 (1月)



社会科学習指導案（公民的分野）

授業者 栗田光雄

- 1.日 時 1993年6月6日(日) 第1校時
 2.指導学級 第3学年2組 40名(男21・女19)
 3.学級所見 授業の雰囲気盛り上げるような活発な発言はあまりないが、個々の能力は高く、授業の内容に対して自分なりの意見をもっている。うまく引き出すことにより内容の深い授業になることが多い。
 4.単元名 現代社会と民主政治 「人権の尊重と日本国憲法」
 5.単元計画 (10時間扱い)
 1.人権思想の発達 2.基本的人権の尊重
 3.人権の発展と国民の責務 4.日本国憲法の平和主義
 5.平和主義と主権者
 6.本時の題材 基本的人権の尊重（本時は5時間扱いの第3時）
 7.指導目標 日本国憲法における基本的人権の知識をもとに、自分たちの生活の場にある問題に置き換えて考えてみる。特に自由権については「自分勝手」とか「わがまま」といった感情の擁護の目的でなく、相手の立場や生きるための権利保障であることを理解させる。

8.指導内容の展開	学習内容	学習活動	資料	指導上の留意点
導入	日本国憲法における基本的人権	憲法の基本的人権の考え方について、発表させる。	教科書	教p.45,46を参考にさせる。
展開	自由権の内容 身の回りにおける問題で考えてみよう。 発表活動	精神、身体、経済活動の自由について概観する。 グループ単位で話し合わせ、意見をまとめさせる。発表者やまとめ役についても話し合わせて決定させる。 他のグループの意見を聞く。自分の意見をもつ中で自由権の本質を考えさせる。	プリント (別紙)	前時の復習であるのでポイントをおさえるのみ。 なるべく時間をとる。班を回り意見のまとめ方、進行具合を調整、互いの意見が出やすくする。 憲法の主旨に即した考え方を学びとらせる。
まとめ	本時のまとめ	プリントの解説をし、判断のポイントをまとめる。		国民の努力、公共の福祉と自己の責任を考えさせる。

〔授業時使用プリント〕

中3社会 公民的分野教材

〔自由権を考えてみよう!!〕

3年4, 6, 8, 9組の授業中に、自分達の生活で、こんなことを認めてもいいのではないかと考えてもらいました。さて、自由権を勉強しましたので、みんなから出た意見を判断してみましょう。

※ 自由権として認めてもよいか。判断しなさい。

	みんなが考える自由権	判定	判定の理由
1	学校で菓子を食べるよい。 好きな物を持ってきてよい。		
2	遅刻をしてよい権利		
3	競馬やパチンコを中学生がしてもよい。 酒をのんでもよい。		
4	選挙権が中学生にあってもよい。		
5	車・バイクの免許を中学生がとつてもよいではないか。乗つてもよい。		
6	男同士、女同士結婚してもよい。		
7	修学旅行は私服で参加してよい。		

《参考事項》

日本国憲法

第12条

「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によってこれを保持しなければならないのであって、常に公共の福祉のためにこれを利用する責任を負ふ。」

第13条

「すべての国民は個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で最大の尊重を必要とする。」

1. 日時 1993年6月6日（日）

2. 主題 「差別とは何か」

3. 教材観 生徒一人ひとりの中には、いじめや差別を憎み、許さないという気持ちは備わっている。しかし、その気持ちが周囲を取り巻く状況や、青年期にありがちな自己矛盾の中で、素直に表現できないことがある。

今回アメリカで行われた実験授業である「青い目・茶色い目」のVTRを視聴することにより、差別を客観的にとらえさせる目を養いたい。差別というテーマは、ややもすると教師サイドからの一方的な講話で終始し、生徒にとって受け入れにくいものであるが、差別する側と差別される側の両者を体験することにより、差別の構造を理解し見抜く力、その不当性を追求できる力を育てたい。

4. 指導目標 a, 差別はどのようにして作り出されるのかを理解させ、差別に対する理解と認識を持たせる。
b, 差別の不当性を追求する意欲を育てる。
c, 差別に対して無関係ではなく、誰もが差別の当事者になりうることを認識させる。

5. 資料VTR「青い目・茶色い目」

6. 指導計画

	教師の働きかけ	学習活動・予想される反応	指導上の留意点
導入	「人権について考える」授業を行うことを話す。 用紙を配布しVTR視聴中に気づいたことを記入するように指示する。 VTR視聴の注意をする		見やすいように席を移動する。
展開		VTR視聴（1） 感想を記入する。 （予想される反応） 先生はひどい 青い目の子の態度はひどい 茶色い目の子がかawaiiそう エリについて 無関心	内容が理解されていなかったらもう一度VTRを流す

展	<p>回収する 回収した用紙を同じ様な考え方のグループ別に分類させる。(1枚1枚読み上げて生徒に同意を求め分類する。)</p> <p>タイトルをつける (例) 先生の態度 青い目の子 茶色い目の子 エリ その他</p> <p>後半のVTR鑑賞をする前にタイトルの視点から感想を書くように指示する。</p>	生徒自身が分類する。	全員が参加できるように注意する。
開	回収し分類させる(前と同じ)	<p>VTR鑑賞(2) (予想される内容) 先生はひどい立場が逆(青い目の子と茶色い目の子) エリについて 無関心 前と同じ</p>	VTR鑑賞(1)と同じ
ま と め	<p>VTR(1)と(2)との変化を考えさせる エリは何を表したのか考えさせる 先生は何をしたのか考えさせる その差別には根拠があったのかを考えさせる 差別とはどんなものか考えさせる 導きだした結論が正しいかVTRで確認させる</p>	<p>差別するものとされるものが逆転した 外見の象徴</p> <p>差別を作った ない</p> <p>意味のないこと</p> <p>VTR視聴(3)</p>	ここからは一方的にならないように注意する

第3学年国語科学習指導案

授業者 矢部ひとみ

1. 日時 平成6年1月17日(月)

2. 教材名 わたしを束ねないで 新川和江

3. 教材設定の理由

この詩は題名にも集約されているように、外からの他律的な束縛を押しつけて、自分自身のうちにあふれる主体的な「生」を、のびのびと自在に解放したい、という人間性の根源的な思いを主題としている。この一人の人間そのものとしての自我意識と生命感・前向きに生きようとする意欲は、自我を確立しつつある生徒の若い心への大きな刺激となるに違いない。

また、詩の技法、形式の整え方、美しい音調、豊かなイメージなど作品としても優れている。しかも人間的な主題を、繰り返し重ねていくという理解しやすい技法で、主題をとらえやすい作品であろう。

4. 指導の目標

- (1) 比喻・象徴などの詩的表現を正確に理解させ、語彙を豊富にさせるとともに、創造力を高めさせる。
- (2) 作品の構成を明らかにして、主題を正しくとらえさせる。
- (3) 作者の考え方を通して、生徒自らの生き方・考え方を深め、人間のあり方や人生について考えさせる。
- (4) 作品の表現上の特徴を生かして、生徒自らの生き方を表現させる。

5. 同和教育の視点

固定観念にとらわれずに生きたいとする作者の思いをとらえることで、人間が人間らしく生きることの意味を理解させ、人権を尊重する精神を育てる。

6. 指導計画(4時間完了)

- 1校時 詩を読んで、初発の感想をまとめる。
- 2校時 比喻・象徴などの詩的表現について理解させる。
詩に込められた作者の考え方・生き方を読みとらせる。(本時)
- 3校時 各連の構成を生かして、生徒自身の望む考え方・生き方を表現させる。
- 4校時 各自の詩を発表し、それぞれの生き方・考え方を大切にすることを理解させる。

6. 本時の展開

	指 導 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	・初発の感想から、学習課題を理解させる。	・詩を音読する。 ・学習課題を見つける。	・各連の構成に注目させたい。
展 開	・比喩・象徴などの詩的表現について理解させる ・詩にこめられた作者の考え方・生き方を読みとらせる。	・読後の印象が、どのような表現の展開によって生み出されているか、表現の特徴を調べる。 (1) 難語句について確かめ合う。 (2) 第1連を読み味わう。 ・前半の「拒む生き方」を読む。 ・後半の「望む生き方」を読む。 ・「稲穂」をイメージ化する。 ・比喩と象徴の表現を平易に言い直してみる。 (3) 第2連を読み味わう。 ・前連との対句的対応や反復の表現を味わう。 (4) 第3・4・5連を読み味わう。 ・「わたし」が何を拒み何を望んでいるのかを考え、話し合う。	・比喩や象徴の表現から想像したことを自由に発表できる雰囲気をつくるようにする。
ま と め	・詩の表現上の特徴を生かした朗読をさせる。	・間のとり方・強調のしかたに注意して朗読する	

国語科学習指導案

授業者 松前 三郎

- 1 日時 1993年7月3日 (土曜日) 第1校時
- 2 学級 第3学年9組 40名 (男子20名, 女子20名)
- 3 学級の実態 明るく活発な生徒が多く、活動的な学級である。学習に取り組む姿勢も真面目である。過去2年間、同和の学習をしてきた成果もあり、男女の協力もよく保たれて、お互いの良い所を伸ばしつつある。
- 4 単元名 状況に生きる 「故郷」 鲁迅 作 竹内 好 訳
- 5 単元設定の理由 本単元の目標は、表現の特徴に注意して読み、状況と人間のかかわりを考えることである。「故郷」「ヒロシマ神話」「パール・ハーバーの授業」を味読し、人間 社会 自然などについて自分の見方や考え方を深めるための学習活動を期待し本単元を設定する。
- 6 単元の目標
 - ・表現の仕方や特徴に注意して読む。
 - ・登場人物の会話、行動から主題に迫るものをとらえる。
 - ・まとまった感想や意見をもつ。
- 7 指導計画 8時間扱い
 - ・鲁迅の生涯や時代背景などについての予備知識をもたせる。(1)
 - ・通読し、初発の感想を書く。(2)
 - ・20年ぶりに見た故郷と我が家の様子、それらに対する「わたし」の心情をつかませる。(1)
 - ・ルントウ、ヤンおばさんに代表される当時の中国民衆の精神的荒廃について考え「心の故郷」までも喪失する、「わたし」の心情を考えさせる。(2)
 - ・故郷を去っていく「わたし」の心情を読み取らせ、主題について自分の考えを書かせる。(2) (本時)
- 8 本時の
 - わらい 授業全体を振り返りながら、感想を書く。
- 9 同和教育の視点より特に留意すること
 - ヤンおばさんのむきだしのエゴイズム、ルントウの卑屈さを社会状況とのかかわりでとらえさせ、新しい希望に満ちた社会を実現させていく方法を、じっくり考えさせたい。
- 10 本時の展開

	学習内容	指導上の留意点	準備
導入 10分	授業全体を振り返る。	初発の感想をもとに再読、再考させる。	各自ノートを確認。
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・初発の感想との相違点を図象書にする。 ・感想文を書く。(400字程度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・故郷喪失の感傷にとどまらず希望する「新しい生活」をイメージさせる。 ・読み取ったことから、自分の考えを述べさせ、建設的な文章を組み立てさせる。 ・机間巡視 	
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の文章を確認し、他の生徒の発表を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えと対比しながら、友達発表をよく聞く。 	

- 11 評価 作品の主題をとらえ、状況に生きる姿を自分のこれからの生き方に反映させようという意欲が持てたか。

道德研究部

IV 道徳研究部

豊かな心を育てるための実践

(1) 研究のねらい

- ◎他を思いやる心を育てる授業の実践をはかる。
- ◎生命の尊重、思いやり、感謝の心をもち主体的に行動できる生徒を育てる。

(2) 研究の実践

1. 道徳指導での重点項目として、人権の内容に関するものを選択し、次の7項目を設定した。(★印は特に重視していきたい項目)
 - ★2-2 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心を持つようにする。
 - 2-4 男女は互いに相手の人格を尊重し、健全な異性観を持つようにする。
 - ★2-5 それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して謙虚に学ぶ広い心を持つようにする。
 - ★3-2 生命の尊さを理解しかげがえのない自他の生命を尊重するようになる。
 - 3-3 人間には弱さや醜さもあるが、それを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。
 - 4-1 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し協力しあって集団生活の向上に努める。
 - ★4-3 正義を重んじ誰に対しても、公正、公平にし、社会連帯の精神をもって差別や偏見のない、よりよい社会の実現に尽くすように努める。
2. 重点項目に関する資料の差し替え等をしながら年間指導計画を作成した。
3. 道徳授業への意識を高めるために、重点資料名の掲示を毎月おこなった。
(各教室、職員室)
4. 年2回研究授業を実施し、その後授業反省会を持った。
5. 研究授業のみならず、日頃の授業実践を記録していくことも大切ではないかと考え、月に一度、重点資料についての授業実践報告を提出してもらった。

第 1 学 年 道 徳 学 習 指 導 案

- 1、日 時 1993年(植5年)6月14日(月) 第5校時
 2、主 題 名 思いやりの心(項目2-2) 資料名「千円札」
 3、主題設定の理由

生徒の実態を見ると、まだまだ自分中心に物事を考える傾向が強く、自らの利害に執着したり、考えや立場を押し付けたりする場面が多い。本内容は、「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつようにする」ことをねらいとしており、互いの人格と権利を尊重してみんなのことを考える連帯の精神や思いやりの大切さを養わせるには良い題材と考えた。

- 4、同和教育の視点にたった留意事項
 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつようにする。
 5、本時のねらい
 相手を理解し、相手の気持ち立場を思いやることの大切さを自覚させる。
 6、本時の展開

段階	展開の概要	期待する生徒の反応	指導上の留意点
導 入	資料を読んだ後の感想をまとめたものを提示する		
展 開	<p>共通問題意識の設定</p> <p>賞賛的意見に目を向けさせる</p> <p>「文ちゃんの苦みのリュックを」と考えるあたりは主人公のどのような感情がうかがえるか</p>	<p>〈批判的意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事実を確かめずに犯人と疑ったり、自分の不始末を認めたくないばかりに他に責任を押し付けようとしたのは身勝手である。 ・他人のお金をとるといことは悪いことであり、主人公の文ちゃんにとって態度は甘すぎる。 <p>〈賞賛的意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが静まるにつれ、次第に相手に同情を寄せるようになった。最後には罪を自分の不注意として事態の円満な解決を図ろうとしている。 	<p>「他人に厳しく自分に甘いのはほめられることか」といった疑問を投げかけるのも良い</p> <p>主人公の文ちゃんに対する特別な感情は文面のどこに見られるかただすのもよい</p>
終 末	生徒の身近な問題につなげて教師の感想でしめくくる		資料の批判的な意見をクローズアップさせないように留意する

7、評 価

相手を理解し、相手の気持ちや立場を思いやることが大切であることが理解できたか。

1年生道徳研究授業の反省

「主題と資料について」

- ・内容が盛りだくさんで、資料を半分使用したりするなどしてポイントをしぼりたい。
- ・事前に資料を読ませて、感想をまとめさせておいたのは良かった。資料の後半部分は読ませなくて良いのでは。
- ・批判的意見の出にくい資料だった。

「生徒の反応」

- ・主人公の行動に対して「思いやりがあり、優しい人だ」と「文ちゃんにとってよくない」という意見が二分した。
- ・たくさんの意見が出された。多くのものが主人公は「優しい」「心がひろい」という感想をもっていたが、主人公の行動は「まちがっているんじゃないか」という意見も出された。

Q1 貴美枝の行動をどう思う？⇒貴美枝はいいことをした。
もっとはっきり言うべきだ。
自分にはできない。

Q2 貴美枝はなぜ文男を責めなかったのか？⇒相手の気持ちを考えた。
文男がかわいそうだから。

Q3 貴美枝はどういう人か？⇒優しい、心がひろい、思いやりがある。

- ・主人公の気持ちの変化がつかめているのかははっきりしない。問題がお金ということもあってか「思いやり」についての考え方がわかれてしまった。

「人権（同和）教育の観点から特に留意した点」

- ・ひとりひとりの意見を尊重させる。多くの生徒に意見を発表させる。自由に意見を言う雰囲気をつくる。
- ・自分にとって不利なことではあるが、それ以上に他人を思いやる心が大切であることを強調した。

「その他」（感想など）

- ・時間が足りなくて、実生活での体験まで話がいかなかったのが残念。
- ・思いやりについての飾った部分が文章に目立ち、問題のとりあげかたが難しかった。生徒が理解できていたのか、話の結びに少し不安が残る。

1、日 時 1993年(平成5年)6月14日(月)第5校時

2、主 題 名 思いやりの輪(項目2-2) 資料名「やさしいっばい」

3、主題設定の理由

内容項目2-2は「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心を持つようにする。」事をねらいとするものである。人間は、さまざまな人と関わりを持つ中で、互いに認め合い、協力し合い、支え合って生活をしている。しかし、私たちは見知らぬ人に対して手助けをしたり、援助の言葉を掛けたりすることをちゅうちょしがちである。誰に対しても、思いやりの心を持ち、それを意欲を持って具体的に行動でしめす事の大切さを考えさせたいと、この題材を設定した。

4、同和教育の視点にたった留意事項

日常生活のなかで、誰にでも、思いやりの心を持って接することができるようにする。

5、本時のねらい

思いやりの心を具体的に行動の中で出せるようにする。

6、本時の展開

	展 開 の 大 要	予 想 さ れ る 生 徒 の 反 応	指 導 上 の 留 意 点
導 入	資料を読み内容を 確認する		あらすじ(板書) 白いつえを持った若い女性 ↓ 立川駅は二つめ(男性の声) ↓ ドアの前に立たせる(男子高校生) ↓ 一緒に降りる(作者) ↓ 立川駅 ↓ 席をゆずる(女子高校生) ↓ 今時の若者も…… ↓
展 開	ハンディキャップのある人に、なにかしてあげたいと思ったことがあるか、話し合う やさしいっばいを 読んで、話し合う 「今時の若い者もけっこうすばらしいじゃないの」と思ったのはなぜか 親切にしてあげよう と思っても、なかなか 実行できない場合があるのはなぜだろうか ハンディキャップなど のある人を見かけたとき、 どのようにしたら よいか、話し合う	・足の不自由な人がバスに乗ってきてよろけそうになったとき。 ・白い杖を持った人が、横断歩道で困っているとき ・制服の男子高校生が、彼女の腕を取って開くドアの前に立たせたこと ・2人の女子高校生がさっと席をあげたこと ・目が不自由で、けがをしても、それに負けないで積極的に生きていること ・作者ができなかったことを、意外なことに男子高校生がしてあげたから ・女子高校生がさっと席を空けてくれたから ・照れくさいから ・人を大切にしようとする気持ちが少ないから ・勇気がないから ・すすんで、手をかす ・思いやりの心をもって行動する	わたくしたちは、日頃、かなりそのような人達と接しているにもかかわらず、意外と意識していないことが多いので、良く思い出させる 資料のどこが生徒にとって印象的だったかをおさえる 若者に先を越され、その行動に触発されて自分の心に思う行動をとった作者の「やられた」という思いがあることも気付かせる 「今時の若い者」の中に、この目の不自由な若い女性も入っていることはいうまでもない 人間愛の心が、思いやりの行動に移ることを理解させる
終 末	教師の感想を述べる		生徒の発言を評価する

7. 評 価

どのような場合でも、思いやりの心を持って、行動することが理解できたか。

2年生道徳研究授業の反省

「主題と資料について」

- ・ 1時間で扱える量としては適切であったし、内容的にもわかりやすかった。
- ・ 現在使っている資料に比べわかりやすかった。
- ・ 絵等もあり、授業を進める上でやりやすかった。
- ・ 内容的には、できすぎの物であり意見の討論があまりできなかった。
- ・ 現在行っている、水曜日の話の内容に近い資料であった。

「生徒の反応」

- ・ 自分がこのような場面にであったら、資料の内容のように声をかけてみようと思った。
- ・ 他の人の、いろいろな視線があるので実際にできるかどうか心配である。
- ・ 同じ様な体験をしたことがある。
- ・ バスを降りたときに、同じ様なことをしたら、断られてしまい、あまりいい気持ちじゃなかった。
- ・ 勇気がないので多分できないと思う。
- ・ どこで声を掛けてよいのか、タイミングがわからないのでできないと思う。

「人権（同和）教育の観点から特に留意した点」

- ・ 日常生活の中で、行動に移せるように進めていった。
- ・ 家族、同級生、後輩等だれにでも、思いやりを持って接することができるようにする。
- ・ 時間の関係もあり、まとめのところで教師サイドでまとめてしまった。

「その他」（感想など）

- ・ 資料が短く要点がしっかりとしていたので、内容が理解しやすかった。

2年生道徳
6月の予定
◎資料番号
やさしさいっぱい

第3学年 道徳学習指導案

1. 日 時 1993年(平成5年)6月14日(月) 第5校時

2. 主 題 名 社会正義(項目4-3)

資料名 言いがかり

3. 主題設定の理由

内容項目4-3は、「正義を重んじ誰に対しても公正、公平にし、社会連帯の精神をもって差別や偏見のないよりよい社会の実現に尽くすように努める」ことをねらいとしている。

生徒の日常生活を見ると、不正を見ても見ぬふりをしたり、不当な差別、偏見をもって他の人が扱われていても、かわりをもとうとしなかったり無関心であったりする傾向が見られがちである。

ここでは、自らの過ちを素直に反省し、正義を重んじ、それを貫くことによって自分自身を高めていく大切さを認識させたい。

4. 同和教育の視点にたった留意事項

集団や社会に存在する偏見や差別を排除するためには、正義感と勇気をもって立ち向かうことが大切であることに気付かせる。

5. 本時のねらい

不正を見逃さず、社会連帯の精神をもって差別や偏見のない社会の実現に尽くそうとする態度を育てる。

6. 本時の展開

	展 開 の 大 要	予 想 さ れ る 生 徒 の 反 応	指 導 上 の 留 意 点
導 入	資料を読み内容を確認する。		あらすじと登場人物を確認させる。
展 開	「私」が声をかけなかったことについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・めんどろなことにまきこまれたくなかった。 ・こわかった。 ・迷っているが、言い出す勇気が足りなかった。 ・自分には関係ない。 	不正を正す勇気を確認し、さらに相手を納得させる態度であったことを気付かせる。
	「革ジャン」の青年の態度について話し合う	<ul style="list-style-type: none"> ・えらい。 ・正義感が強い。 ・男を注意するだけでなく、店員の悪い所まで指摘できるのはすごい。 	
	事件後の「私」の気持ちについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・革ジャンの青年のたのもしさにおどろいている。 ・声をかけなかった自分を反省している。 	
終 末	このような場面に出会った時、どのような行動をとったらよいか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・見て見ぬふりをする。 ・勇気を出して注意をする。 ・公安室の人をよんでくる。 	心の弱さと戦う人間らしい生き方を考えさせる。
終 末	自分の問題として考える。 教師の感想		これからのあり方を探らせる 生徒の発言を評価する。

7. 評 価

正、不正を見きわめ、すすんでそれを実行に移そうとする心づきができたか。

3年生道徳研究授業の反省

「主題と資料について」

- ・3年生としてはやさしいが、頭で考えるのと実行することとは非常に違うという点がわかってよかった。
- ・資料の最後の部分は、主題と関係ない感想が出やすいので注意を要した。
- ・1時間で扱うのに適した資料だった。

「生徒の反応」

- ・この場に自分が立ったらどうするか？ → 「見て見ぬふりをしてしまう」と答えた生徒が多数をしめた。
- ・青年の勇気に感動した。
- ・なかなか青年のような行動はとれない。
- ・資料を読む前にロールプレイをさせた。ほとんどの生徒は行動にうつすことはできなかったが、数人は不正を正す行動をとった。

「人権（同和）教育の観点から特に留意した点」

- ・行動にうつせないまでも、誰もが正義感（助けたいという気持ち）を持っていることを確認した。
- ・青年の行動のようにはできないと生徒は判断したが、もっと前向きに考えてみたらという正義感（勇気）に重点をおいた。
- ・不正に対して少しでも行動ができたらという点を話した。同和問題には特にふれなかったが、他の身近な場面ではどうかという具体的な話をして感想をひき出した。

「その他」（感想など）

- ・文は短いが、生徒たちにとって身近な問題で、教師からも例が出しやすくよかった。
- ・身のまわりの不正（生徒の知っている、気づいている不正）までおろしていけたらよかった。

月	主題名	項目	資料名	冊数	ねらい
	集団生活の向上	4-1	★風上げ大会	1	お互いに批判しあい、協力しあって集団生活の充実をはかる。
4	楽しい生活習慣	1-1	ちょこちゃん平衆	3	身のまわりの整理整頓をかけ声だけに終わらせないための心構えや実践化への意欲を持たせる。
5	かけがえのない生命	3-2	★おぼれかけたきょうだい	4	自己の生命がかけがえのないものであるのと同じように、自己以外の生命もかけがえのないものであることを自覚させる。
	たゆみない努力	1-4	植物とともに	3	5 安易な妥協や空想を排し、高い理想を掲げてその実現に努力する態度を養う
	奉仕の心	4-4	消掃車	9	自らすすんで地域社会に役立つとする態度を養う。
	思いやりの心	2-2	★千円札	2	相手の理解し、相手の気持ち立場を思いやることの大切さを自覚させる。
6	自主的な生活態度	1-3	汚れた乗車券	6	すっきりした行動のとれなかった自分を厳しく戒めている主人公の心根をつかませる。
	敬虔な心	3-1	小さな墓石	8	人間の力を越えたものにも思いをいたそうとする敬虔な心を育てる。
	社会の秩序	4-2	母と子	7	社会の秩序と規律を重んじ、権利と義務を厳しく遂行する態度を養う。
	健全な異性観	2-4	★優しいまなざし	2	◎男女は互いに相手の人格を尊重し、前向きで明朗な交際を通して、ともに人間として向上していこうとする態度を育てる。
7	勇気	1-2	グループ日記	1	1 ためらってばかりいないで正しいと信ずることを実行しようとする態度を養う。
	正しい判断	1-3	七夕の日の約束	2	4 安易な妥協を排し、自主的、理性的に判断してふるまおうとする。
	相手の理解	2-5	★清作と学	3	1 相手を理解し温かい心で触れ合うことの大切さを学ぶ。
	友情のあり方	2-3	吾一と京造	1	3 友達同士お互いの向上を願って助け合う気持ちを育てる。
9	充実した生き方	1-5	美しく自分を染めあげて下さい	1	6 かけがえのない自分の人生を充実させて生きようとする心を育てる。
	自主的な行動	1-3	留医者	1	7 よいと思うことは、自分からすすんでこれを実行に移そうとする心構えを養う。
	男女の協力	2-4	★アトラクション	1	9 相手の特性を理解し、健全な異性観を育てる態度を養う。
	自制する心	1-1	南京錠	1	8 一時の衝動に負けず、努めて自制してものごとを行おうとする態度を養う。
10	家族愛	4-5	母の病氣	2	0 思いやりと協力によって明るい家庭を築いていこうとする態度を養う。
	自然への愛情	3-1	エビネとクマガイソウ	2	1 自然の美しさやすばらしさを愛しそれを大切に保護しようとする心情を育てる。
	正義感	4-3	★辞書引き大会のできごと	2	2 不正や悪はこれを見逃す事なく、勇気をもってそれを排除する強い意思と態度を養う。
	家族の一員としての自覚	4-5	おじいちゃんの病氣	2	3 家族の一員としての自覚をもち、協力しあって共同生活の充実をはかる。
11	郷土愛	4-7	梨畑	1	2 自分の人生を大切に生きてきた先人への感謝と尊敬の念を深める。
	きまりを守る生活	4-2	自転車	2	5 きまりを守ることの難しさを知り、たえず自ら戒めてすすんでそれを守ろうとする態度を養う。
	集団の一員としての自覚	4-1	★オリエンテーリングの失敗	1	5 集団の和を重んじ、すすんで自らの役割を果たそうとする態度を養う。
12	時と所に応じた行動	2-1	万年筆とぞうきん	2	6 礼儀の意義を理解し、時と所に応じた適切な言葉づかい、行動のとれるように努める。
	反省	1-5	マネージャー	2	7 心に潜む利己心を謙虚に反省して、生活に生かしていく態度を養う。
	生きる喜び	3-3	★桃源にて	1	0 人を愛することの厳しさと難しさを通して、なお人を愛していこうとする態度を養う。
1	伝統文化の継承	4-8	太閤おどり	2	8 身近な文化と伝統に目を向け、それを正しく継承していこうとする態度を養う。
	勇気ある行動	1-2	めざし	2	9 勇気をもって行動することの難しさを自覚させ、悪を憎む心を育てる。
2	向上心、習性の伸長	2-5	★芸が身を助ける不幸せ	2	◎自分と異なるものの見方・考え方を謙虚に受け入れ、これを反省に生かして自己の向上を図ろうとする心情を育てる。
	友情を育てる	2-3	席替え	3	2 周りの思惑に追従することなく自分の意思を示して真の友情を育てる。
	働く喜び	4-4	田植え	3	3 働くことの厳しさと喜びについて考え、勤労の意義の理解を深める。
3	生きる喜び	3-3	★わが生いたちの記	2	◎人間が持っている弱さや醜さを自覚してその克服に心がけ、希望をもって生きようとする態度を育てる。
	人間の幸福の追求	4-9	ビルマのたて琴	3	4 人間は誰でも平和を願っていることを理解し、人種や自己の立場を乗り越えて、顔とでも人間的に理解しあう心情を養う。

* ★印は各月の重点資料(授業実施報告提出資料)

* ◎印は県道研資料外からの差し替え資料

* □印は研究授業用資料

月	主題名	項目	資料名	教材	ねらい
4	集団生活の向上	4-1	★タイム1分1秒9	2	集団の和を重んじ、すすんで自己の役割を果たし、集団生活の向上に努める
	強い意志	1-2	ざりかに	1	体裁にとらわれず積極的に取り組む強い意志を養う。
5	生命の尊厳	3-2	★流されたテント	6	生命のかけがえのなさを自覚し、無謀な態度を慎む心を育てる。
	男女の交際	2-4	初恋	◎	男女は互いに相手の立場を理解し、尊敬しあい、清纯で明朗な交際を通して互いの向上を図ろうとする心情を深める。
	理解と信頼	2-3	冷戦	3	相手の立場を理解しお互いに忠告しあって友情を築いていく。
6	思いやりの輪	2-2	★やさしいいっばい	◎	だれに対しても思いやりの心を持ち、それを具体的な行動で示そうとする態度を育てる。
	役割の自覚	4-1	明かりの下の舞台	◎	自己の属する集団を愛する心を持って、進んで自己の役割を果たして集団生活の向上に努めようとする態度を養う。
	謙虚な心	2-5	バナナの味	8	それぞれの個性を考え、常に善意をもって他人に接しようとする態度を養う
	字級の一員としての自覚	4-6	陸上競技大会	9	字級における自分や他人の立場に目を向けさせ、自分がどのようにあるべきか考えさせる。
7	相手の立場で	2-5	★なみだ	◎	相手の立場を理解して、寛容の心を持って接するとともに、自分のあり方を反省し向上に努めようとする態度を育てる。
	人間の弱さ	3-3	二度と通らない旅人	11	人間の弱さ、醜さを認め、それを乗り越えようとする態度を養う。
	充実した家庭生活	4-5	おばあちゃんの里帰り	10	愛情といたわりの気持ちのうえに、明るい家庭を築こうとする態度を養う。
9	思いやりの心	2-2	★小さな食堂で	16	人それぞれがもつ心の温かさや冷たさを共感的に理解する。
	今を生きる	3-2	わたしの歌	◎	生命の尊厳を理解し、現に生きている今を、精いっぱい生きぬこうとする心情を深める。
	集団の一員としての自覚	4-1	エゴイスト	13	集団の意義をわきまえ、すすんで自己の役割を果たして、集団生活の向上に貢献しようとする。
	人間を愛する心	3-3	おおかみ	15	人間としての弱さ醜さ気高さを知り、人間を愛する精神を深める。
10	愛と感謝	2-2	★愛	◎	人間愛の精神を深め、互いに感謝と思いやりの心を持って生きようとする心情を育てる。
	さまりの意義	4-2	ワカサギ	17	さまりの意義を理解し、積極的にこれを守ろうとする態度を養う。
	真の友情	2-3	班編成	18	友達として互いに相手の理解に努め、励まし合って友情を深めていこうとする。
	字級や学校の一員としての自覚	4-6	参加はしたけれど	19	字級や学校の一員としての自分の役割と責任を自覚し、積極的に学校生活に参加する態度を養う。
11	男女の理解	2-4	★幸一のためらい	24	思いやりとたしなみのうえに立って清纯な交際をしようとする。
	充実した生き方	1-5	サッカー部	21	自らを謙虚に反省し、より良い生活を目指そうとする態度を養う。
	よりよい社会の実現	4-3	国道	22	自分の立場や利害を考えながらも、社会全体の立場や利害を重んじる気持ちを育てる。
12	畏敬の念	3-1	首なし地蔵	23	人間の祈りの感情を通して、人間の力を越えたものに思いをいたそうとする
	人間の気高さ	3-3	★良心とのたたかい	◎	人間の弱さや醜さを克服して、人間として強く正しく生きること喜びをみいだそうとする心情を深める。
	勤労の尊さ	4-4	便所掃除	25	働くことの厳しさと喜びについて考え、勤労の意義を理解を深める。
	自主的な判断	1-3	回り道	27	他人に頼らず自ら考え、判断し、行動することの大切さを理解させる。
1	住みよい社会の実現	4-3	★指定席	28	お互いに譲り合い、助け合って住みよい社会を築いていこうとする態度を育てる。
	個性や立場の理解	2-5	裏切り	29	相手の個性や立場を重んじ、自分と異なる考えや行動に対しても、努めてそれを受け入れ、建設的な方向に一致点を見いだしていこうとする態度を養う
	自然への畏敬	3-1	山が泣いている	30	人間の力を越えたものの存在を感じ取らせ畏敬の心を持って育てる。
2	健全な異性観	2-4	★番頭	31	異性の友達として互いに信頼を傾け、健全な異性観を育てる。
	温かい心	2-2	夜の果物屋	◎	人の親切を素直に感謝し、他の人に対しては、思いやりの心を持って接しようとする態度を育てる。
	家族の理解	4-5	母の手	32	素直に感謝する気持ちと尊敬の気持ちをもって、明るい家庭を築いていく。
3	公害に抗して	4-3	★渡良瀬川の鯉母	◎	社会連帯の自覚を持って、正義を重んじ、公共の福祉とよりよい社会の実現に尽くそうとする心情を育てる。
	理想の実現	1-4	陶工志願者	34	安易な空想を排し、足元を見つめて生きていこうとする態度を養う。

川	主題名	科目	資料名	題材	ねらい	
4	集団と自己の自覚	4-1	★山に憑かれた男	2	一時的な思上がりや自己本位の考えを乗り越え、集団の中での自己の役割を果たすことを自覚する。	
	愛校心	4-6	卒業生からの手紙	1	校風や伝統に目を向けさせ、それを正しく受け継ぎ、より発展させていこうとする意欲を持たせる。	
5	自他の生命の尊重	3-2	★雲とり物語	4	一時的衝動に負けず、努めて自制し、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を養う。	
	軽率なふるまい	1-1	目録	5	努めて軽率な行動を慎もうとする態度を養う。	
6	適切な言葉づかい	2-1	五百円札のお客	3	社会生活における礼儀そのものを理解し、それに基づいて時と所に応じた言葉づかいをしようとする態度を育成する。	
	社会正義	4-3	★言いがかり	◎不正を見逃さず社会連帯の精神をもって、差別や偏見のない社会の実現に尽くそうとする態度を育てる。		
	友情	2-3	サッカースパイク	参考	友情の尊さを理解して、利己的にならず、互いに励ましあい、高め合う態度を養う。	
	職業の理解	4-4	保線区の父	6	外見や先入観にとらわれず広い目で職業を考えていく態度を養う。	
	親子の愛情	4-5	クリームソーダの持	9	冷静に母を見つめ思いやりと優しさで暖かい家庭を築こうとする態度を養う。	
	集団生活の向上	4-1	★星野君の二塁打	◎集団と個のかかりについて理解し、集団の一員としての自覚を持って進んで自己の役割を果たそうとする態度を育てる。		
7	やり抜く力	1-2	輝く涙	1	困難に負けず、目標達成のために粘り強くやり抜く強い意志を養う。	
	理想の実現	1-4	心でかいた絵	1	困難や障害を乗り越えて、着実に理想の実現に努力しようとする態度を養う。	
9	温かいことば	2-2	★きらいな人に会ったことがない	◎温かい人間愛の気持ちを深め、感謝と思いやりを持ち、すべての人を人間として尊重する態度を育てる。		
	自主自律の精神	1-3	敗者	1	深い反省を通して物事に冷静な判断をくだし、自主自律の精神を養う。	
	自然を受する心	3-1	消えたオオムラサキ	1	6	自然の美しさやすばらしさに感動し、それを大切に守り、愛そうとする心を育てる。
10	思いやり	2-2	ふきの煮物	2	4	人との交際では相手を思いやり傷つけない配慮が必要なることを知る。
	望ましい男女交際	2-4	★高校受験	1	5	互いに相手の特性や気持ちを理解し、励まし合って望ましい協力関係を確立しようとする。
	反省と向上	1-5	男の約束	1	9	人間の心の弱さを自覚させ、それを謙虚に反省し、その後の自分を向上させようとする心情を深める。
	友情のあり方	2-3	雨の日の届け物	1	8	互いに相手を確愛し思ひ合って真の友情を育てていこうとする。
11	きまりと主張	4-2	床中浸水	1	7	きまりを守り正当な主張をすることで秩序と規律のある社会の実現を目指す。
	人間へのいっくしみ	2-2	★あふれる愛	◎人間愛に生きる姿の尊さを知り、誰に対しても感謝と思いやりを持って接していこうとする心情を養う。		
	自主自律	1-3	菊づくり	2	1	人に頼らず自主的に考え判断し、堂々とふるまうことの大切さを理解する。
	理想の追求	1-4	アイス語研究にふみさる	2	3	より高い理想を掲げて、その実現に努力しようとする態度を養う。
	仕事への情熱	4-4	虎	2	2	どんな仕事でも自らのものとしてやり遂げ生きがいを感じる態度を養う。
12	生命の尊重	3-2	★天井が明るい	2	0	生きるための努力と自他ともにかげがえのない性をいとおしむ心情を育てる。
	郷土の先人に学ぶ	4-7	土平治騒動	2	7	郷土の先人の偉業に目を向けさせ、尊敬の念を持ち、自分の生き方にいかそうとする心情を培う。
	相手の理解	2-5	新築	2	5	お互いの立場や気持ちを理解し、率直で飾らない交際を心がけようとする。
1	人間愛	3-3	★どろぼう	3	2	人間の本性についての共感的理解を通して人間を愛する態度を深める。
	反省と向上	1-5	たびの季節	2	8	弱さを認め謙虚に反省し、向上していこうとする態度を育てる。
	自然への感動	3-1	山崎の碑	3	0	自然や小さな生き物の命に思いを抱き自然を受する心を育てる。
	相手の理解	2-5	★空気が見えなくていいじゃないか	◎他人の立場になって物事を考え、その意見や行動が自分と異なっても謙虚に受け止め、寛容な態度で他に学ぶ広い心を育てる。		
2	愛国心	4-8	マリアルーズ号裁判	3	3	広く世界的な視野に立って、人々の幸福を願うとともに、国を受する心を育てていこうとする。
	人間の福祉	4-9	辞職願	3	4	再婚を越えた人々との連帯感情を深め人間の幸福に貢献しようとする。
	差別と偏見	4-3	★ほんとうの闘士	◎正義を重んじ公正で差別や偏見のない社会の実現に尽くそうとする態度を育てる。		
3	親子の愛情	4-5	卒業式	3	5	自分の立場を理解し、他を思いやることによって明るい家庭を築いていこうとする気持ちを育てる。

特別活動研究部

V 特別活動研究部

あたたかい人間関係、仲間づくりのための実践

(1) 研究のねらい

特別活動は、一人ひとりがかけがえのない人間として尊重され、互いを認め合うあたたかい人間関係を築くための実践力の育成の場である。

いろいろな集団活動を通して、互いに励まし合い、協力しあいながら、問題を解決していく力を育て、いきいきと活動できる集団をつくる。

(2) 研究の実践

研究部の「ねらい」に迫るためには、人間的なあたたかい心や集団の一員としてよりよい生活を築こうと努力する姿勢を養うことが大切である。このことをふまえて、本研究部では「縦割り集団活動」、「短学活の充実」、「福祉活動への取り組み」の3点に重点を置き実践を試みた。

縦割り集団活動

現状の生徒たちの生活を考えると、核家族化が進み兄弟姉妹が少ない家庭が増えたり、塾や稽古ごとに制約されたりして大勢の仲間と一緒に遊ぶ機会に恵まれていない。その結果、子どもたちが異年齢集団の遊びの中から体験的に学んできた「思いやり」や「協力する心」などが培われにくくなってきている。そこで、各学年を8色に分けて縦割り集団をつくり、体育祭をはじめとした学校行事に取り入れ、学年を越えた交流をはかって「思いやり」や「協力する心」の育成をはかるために、以下のようなことを取り組んだ。

① 色別抽選会

色別抽選会とは、各学年を8色に分け縦割り集団を構成する集会である。4月下旬、全校生徒が体育館に集合し生徒会本部の進行のもと色別抽選会を行った。

抽選方法は各学年工夫が凝らされており、各クラスの色が決まるごとに拍手がわき、おおいに盛り上がった。また、3年各クラスの代表者が壇上に上がり簡単なあいさつをして互いの健闘を誓い合った。

また、5月下旬には色別の結団式を行った。これは、各色の1～3年生が顔合わせをし、団結をはかるものである。ここでは、3年生が色独自のプログラムを考え、団長や先生の紹介をはじめ、意気込みや目標を発表した。3年生には最高学年としての意識をうかがうことができ、リーダーシップを発揮していこうとする姿勢が多くみられた。



4月28日(水)の3校時に色別抽選会が行われ、各色が次のように決定しました。今年度は抽選方法を変えて工入しました。変えてもらってどうですか? 各色の代表者による決選説明(??)も各校の個性が反映されていて良かったです。これから1年間、班上大会や体育祭をはじめあいつ運動などこの色で活動していくことになるので、どの色も3年生を中心に団結して盛り上がり、がんばる色にして下さい。

	赤	黄	青	緑	白	桃	紫	カブ
3年	8組 久保	1組・5組 四浦・今井	9組 竹内	6組 藤原	4組 前田	3組 山口	2組 大津	7組 小島
2年	3組 高橋	4組 山口	7組 伊藤	1組 日暮	5組 高野	2組 中丸	6組 佐藤	8組 船橋
1年	8組 黒田	1組 高川	2組 井上	4組 山下	5組 北島	7組 藤井	6組 大野	3組 北村
地区 別	藤田 西川 古正	田中 北野	上村 川上 深尾	山下の 本谷 小松原(村)	松浦 日本住居 団会	高田 藤下	高橋原 内田 渡辺	佐藤 丸山 村岡

② あいさつ運動

あいさつ運動は毎月第1週に正門・東門の2ヵ所で行われる。本校の教育目標の指導の重点にも掲げているように、「あいさつあふれる学校にしよう」ということで、1991年度(平成3年度)より生徒会本部・生活委員会を中心に実践してきた。1992年度(平成4年度)より、縦割り集団活動の一環として行いはじめ、あいさつ運動期間、本部役員・生活委員・職員が共に割当てられた色の日に正門と東門に立ち、登校してくる友達や先生方に『おはようございます。』と呼びかける。また、同期間に安全委員会による交通安全指導も並行して行われ、安全に明るく登校しようとする雰囲気をつつまれる。次に掲げたのが、本年度の7月分のあいさつ運動・交通安全指導の分担表である。

あいさつ運動を始めたころは、門に立つ生活委員も、登校してくる生徒達も、互いに恥ずかしそうに小さな声であいさつを交わし合っていたのが、今ではその声も大きくなり活気があふれてきた。また、その期間に限らず、部活動時や校舎内でのあいさつも少しずつできるようになり、成果が実りつつある。また、募金活動（フォスターペアレント、赤い羽根、緑の羽根、雲仙普賢岳見舞金等）もあわせて行っている。

7月のあいさつ運動 交通安全指導について

生徒会本部
生活委員会
安全委員会

期間 7月5日(月)~7月9日(金) 時間 8:10~8:25

日	曜	正門(南)	東門(南)
5	月	白組	桃組
6	火	紫組	オレンジ組
7	水	黄組	赤組
8	木	緑組	青組
9	金	桃組	白組
10	土	学校5日制休日	
交通安全指導の場所		三水堂前の信号	校門を出て東側の信号

★生活委員・本部役員は、自分の色の分担任責任を持ってはたしましょう。(8月27日)
★先生方は、自分の色の分担任に交通安全指導を兼ねてあいさつ運動をしましょう。
『大きな声で、あいさつしよう』
『交通ルールを守って、登校しよう』



あいさつ運動のようす

③ ふれあいの日

1991年度から週1回行っていたクラブ活動に代わり、集中クラブとして、「生産的活動」「奉仕的活動」「文化的活動」を年に1回ずつ行ってきた。「生産的活動」は調理や凧作り、すのこ作り、校内環境美化に必要なものを制作した。「奉仕的活動」は学区内のごみ・缶拾いや校内の清掃を、「文化的活動」は観劇や落語・バンド演奏の鑑賞等を行った。

この集中クラブは学年間の交流を深める目的で、縦割り集団を基盤に進められてきた。1993年度は、呼び方も「ふれあいの日」とし、年2回「生産的活動」と「奉仕的活動」の2つを取り上げた。3年生がリーダーシップをとり、1・2年生に指導する光景がよく見られた。



生産的活動
パネルづくり

奉仕的活動
学区のごみ・
缶ひろい



1993年度ふれあい活動について (平成5年度)

【1】実施日

第1回活動……7月2日(金) 期末テスト後の午後
第2回活動……10月15日(金) 中間テスト後の午後

【2】実施方法

Aグループ……奉仕的活動 → 生産的活動
Bグループ……生産的活動 → 奉仕的活動

【3】実施内容

奉仕的活動……学区内(校内も含む)清掃活動
小集団によるゴミ、缶拾い
生産的活動……学校内環境美化に必要なものの製作

【4】所属クラス及び職員

Aグループ				Bグループ			
赤	3年8組	矢部	栗田	黄	3年1組	相原	岡広
	2年3組	高橋義	吉川		3年5組	今井	北野
	1年8組	黒田	古正		2年4組	山口	
青	3年9組	竹内	上村	白	1年1組	布川	
	2年7組	曾我	川上		3年4組	前田	松浦
	1年2組	井上	松尾		2年5組	長塚	橋本
緑	3年6組	飯原	山下登	桃	1年5組	北島	落合
	2年1組	佐藤則	本多		3年3組	山田	奥田
	1年4組	山下浩	小松原		2年2組	中丸	池下
紫	3年2組	大津	高橋彦	オレ	1年7組	堀井	
	2年6組	佐藤恒	内田		3年7組	小島	校長
	1年6組	大谷	教頭		2年8組	鍛代	島海
					1年3組	北村	杉崎

第1回 ふれあい活動について

待活研究部

Aグループ……奉仕的活動……学区内ゴミ拾い

【分担】

赤→桜台地区 青→校内 緑→竹園地区 紫→大田地区
各クラスを10班に分け、1・2・3年の1班、2班、3班……で一緒に活動する。

【雨天の場合】

赤→1棟廊下ワックスがけ 青→2棟廊下ワックスがけ 緑→1棟壁みがき
紫→2棟壁みがき

Bグループ……生産的活動……「ランターカバー」「パネル」「フラワースタンド」製作

【分担】

黄 → フラワースタンド クラス10個、計40個作成

白 → ブランターカバー クラス6個、計18個作成

(1つ作るのに必要な材料)

板 {長80, 幅9, 厚3} 6本 (側面)

{長25, 幅9, 厚3} 6本 (側面)

{長65, 幅8, 厚1.2} 3本 (底面)

クル木 {長18, 幅4.5, 厚3.6} 4本

{長25, 幅4.5, 厚3.6} 4本

桃・レ → パネル クラス6個、各色18個、計36個作成

(1つ作るのに必要な材料)

ベニヤ厚 2枚

クル木4×3 200㌘ 2本

82㌘ 4本

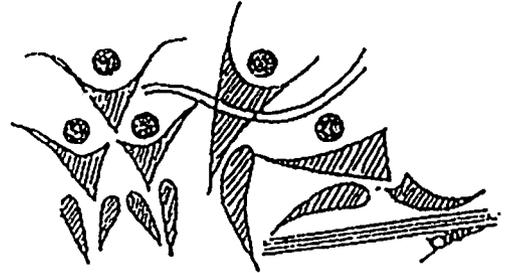
40㌘ 2本

【活動場所】各教室

④ 体育祭

1991年度(平成3年度) 体育祭

平成3年度は、行事の活性化をはかるとともに、学年を越えた交流をする事によって「思いやり」や「協力の精神」を養い、集団の意義や仲間作りの大切さを認識させようと体育関係の行事に限って4色の縦割りを導入した。



<1991年度(平成3年度)プログラム>

NO	種 目	出場	時 刻	NO	種 目	出場	時 刻
1	すこやかリズム体操	全員	9:00	12	部活動紹介	部活代表	13:00
2	学級対抗むかでりレー	1年生		13	マスゲーム	1・2女	
3	徒競走	3年生		14	徒競走	2年生	
4	組体操	1・2男		15	PTA綱引き	未 買	
5	騎馬戦	色別女		16	学級対抗むかでりレー	PTA	
6	徒競走	1年生		17	学級対抗むかでりレー	職員年生	
7	学級対抗むかでりレー	2年生		18	学級対抗リレーA	3年生	
8	学級対抗リレーB	3男女		19	色別対抗リレー(女)	色別女	
9	おずみ玉入れ	色別女		20	色別対抗リレー(男)	色別男	
10	権闘し	色別男		21	創作ダンス	3年女	
11	色別応援 (未・黄・青・黒)	全員		11:30	22	組立体操	
<p>< 昼 食 > 12:10~</p>				23	すこやかリズム体操		15:30

(————— 縦割り集団で参加する種目)

体育祭の反省 (特に縦割り集団に関して)

- ・ 応援委員が皆、真剣に取り組み全体が盛り上がった。
- ・ 3年生がリーダーとして活躍できる場面が多く得られた。
- ・ 他学年との交流ができてよかった。
- ・ 1色の人数が多いので色の数を増やした方がよい。
- ・ もっと色々な場面で縦割りの良さを取り入れたい。
- ・ 集団が大きすぎるため、まとまりにくく、どうしても教師の指導が多い
- ・ 教師集団も色ごとにもっと話し合い、分担しあっても良いと思う。

92年度（平成4年度）体育祭は「平成4年度 縦割り集団について」の目的を受けるとともに、反省をもとに次のような点について検討を行い、実施要項を作成した。

- | |
|------------------|
| 1 色の数の増加（4色～8色へ） |
| 2 縦割りを生かした種目の検討 |

————— 1992年度（平成4年度） 体育祭実施要項より —————

1. 目的

- (1) 「学校教育目標」・「生徒委員会目標」を体育的行事を通して、総合的に具現化させる。
- (2) 生徒会組織の各委員会の活発化と、委員会～学級組織への効果的な運用を図る。
- (3) 学校研究の「人権尊重」・「思いやりの心」を学校行事を通して育てる
- (4) 学年・学級連携「縦割り組織」の強化・団結・意識向上をめざす。

2. 今年度の基本方針

- (1) 生徒に自主・自立ある行動の機会を多く与え、学校全体で活発な行事の取り組みを図る。
- (2) 生徒会（委員会）・学年・学級がまとまりを持ち、意欲・情熱・協力ある活動を目指す。
- (3) 競技種目・応援組織の充実を図り、8色の縦割り集団の工夫・団結に努める。
- (4) 学校研究の『人権尊重』を主眼とした、仲間・友達に対する意識の向上を図る。

3. 重点目標

- [1] 学習活動の発表→体育の授業を主とし、他教科での学習活動を学校生活の中で総合的に展開ができ、到達目標・反省・課題・向上へとつなげていく。
- [2] 自主活動の推進→生徒会活動や色別組織の取り組みを活発にし、生徒が自ら企画・運営に参加し、自主的な行動がとれるように進める。
- [3] 安全と健康管理→環境・施設面・競技種目の安全性を万全な体制にし、健康に対する重要性を理解させ、精神・体力面の増進に努める。
- [4] 相互理解と親睦→生徒・教師・保護者・地域住民の相互の対人関係（ふれあい）を深めると共に、学校教育への関心・理解を

高める機会とする。

[5] 人権尊重と育成→学校生活全般を通して、思いやり・尊重しあい・認めあう人間関係を育てる。

4 指導上の留意点

- ① 準備日程・練習日程の過程で、無理のないゆとりある計画と実行であるように努める。
- ② 色別（8色）を考慮し、実施種目について慎重に企画（プログラム）など検討する。
- ③ 生徒会本部を主とした実行委員会を中心に、委員会組織・色別組織を活性化させ連携の充実を図る。
- ④ 集団・個人指導を充実させ、あたたかい心で生徒の育成に努めていく。

1992年度（平成4年度）体育祭

NO	種 目	出場者	時 刻	NO	種 目	出場者	時 刻
1	すこやかリズム体操	全員	9:00	12	色別応援（青・赤・緑・黄）	色別員	12:50
2	学級対抗むかでリレー	1年全		13	徒競走	2年全	
3	徒競走	3年全		14	P T A綱引き	来賓 PTA 職員学生	
4	綱引き	1・2全		15	学級対抗むかでリレー	3年全	
5	三人四脚（鉢巻き争奪戦）	3年女		16	騎馬戦	色別男	
6	徒競走	1年全		17	玉入れ	色別女	
7	学級対抗むかでリレー	2年全		18	色別対抗リレー	色別男女	
8	棒倒し	3年男		19	組立体操	男・全	
9	創作ダンス	女・全		20	すこやかリズム体操	全員	
10	学級対抗リレー（混合）	色別員	11:30				15:00
11	色別応援（白・黄・オレンジ・紫）	色別員					

（————— 縦割り集団で参加する種目）

体育祭の反省（特に縦割り集団に関して）

- ・縦割り集団活動のねらいがほぼ達成できている。（多数）
- ・3年生のリーダー性が育つ。（多数）
- ・8色になり色どうしの親密さが増し、3年生を中心として自分たちの色を盛り上げようと一生懸命になれた。
- ・ダンスや組み立て体操などで、他学年の生徒と接することができてよかった。
- ・学年を越えてスクラムを組み、声を出し合うのは素晴らしいことだ。
- ・上級生が頑張ったり、教えたりするのを見ると、下級生に良い影響を与えられる。よい意味でつながりができてくる。
- ・日常生活へつながるものとしてまだ研究が不足。

創作ダンス

白組 女子

ダンスをつくるのは思っていたよりもとても難しく苦勞しました。普段ふざけて踊ったりするときは、スイスイおどれてしまうのにいざ創作にはいるとなかなか考えがでてきませんでした。そのうえ、私たちのクラスは他のクラスよりもできあがりが遅れていたのので、家に帰ってから音楽を聴きながら体を動かし振り付けを考えました。そしてみんなで協力してがんばったので、白組のダンスが完成しました。その時はとてもうれしかったです。早くみんなで合わせて踊りたいと、心がはずみました。1、2年生に教えるのは苦勞するかと思いましたが、とても覚えが早く助かりました。また、うれしかったことは自分達のつくったダンスを他のクラスの人達にほめられたことで、とてもうれしくてそんなふうに言うだけでも大満足でした。みんなで創作したダンスが女子全員一つになって踊れて、とてもうれしくいい思い出になりました。

組立体操

オレンジ組 男子

僕たち組立委員が体育祭当日まで苦勞したことは色別創作です。アイデアが浮かばず放課後遅くまで考えていた日も少なくありませんでした。アイデアが決まってからも思うように作業がはかどらずオレンジ組のみんなにも迷惑をかけました。だからこそ、体育祭当日に色別創作が完成したときの喜びは計り知れないものがありました。できたとき、みんなは心の中で叫んだでしょう「ん—————できたぞ！」オレンジ組になったそれぞれのクラスが、体育祭での経験を生かしてこれからのクラス活動を盛り上げて行ってほしいと思います。

短学活の充実

学級づくりにおいて、望ましい人間関係を育み、教育効果を充分にあげていくためには、毎日行われている短学活（朝の会、帰りの会）の充実は大きな位置をしめるものである。そこで、本研究部では、学級の諸活動の活発化や教育効果を高めるためには朝の会・帰りの会のプログラムをどのようにしたらよいかを検討した。その結果、最低限行われなければならないことを基本スタイルとして、学級の実態や目標・課題を充分意識し、意図的・弾力的に運営できるように「学級独自のプログラム」を組み入れることとした。

朝の会・帰りの会のプログラム

《朝の会》

- (1) あいさつ
- (2) 出欠確認
- (3) 健康観察
- (4) 連絡事項
・委員会、係から
- (5) 先生の話
- (6) あいさつ

《帰りの会》

- (1) あいさつ
- (2) 一日の反省
・生活、清掃など
- (3) 連絡事項
・委員会、係から
- (4) 学級独自のプログラム
- (5) 先生の話
・毎週水曜日は
人権に関する話
- (6) あいさつ

学級独自のプログラムの紹介

(ア) 1年1組

学級で話し合いを持ち、帰りの短学活で「スピーチ・歌など」というプログラムを実施している。ねらいは、友達への関心と同時に自分が認められているという存在感を持たせることにより、互いに信頼し合う人間関係の確立と互いに個人の良さを認め合い明るく生き生きとした学級集団づくりにある。

方法については、前日にサイコロを振りテーマを決め、教卓で発表する。テーマは、友達の話・家族の話・部活の話・オールマイティ（何でも良い）・ギャグ・歌（曲を決め全員で歌う）である留意点として、話す内容を事前に準備し大きな声で堂々で行い、聞く態度もしっかりする。

1学期間やってきたが、最初は恥ずかしがり小さな声であったが、段々と声も大きくなり聞く態度も良くなってきている。サイコロを振るときなどは、何が出るかみんなが身を乗り出して見ている。特にギャグが出るのを楽しみにしているようであり、帰りの楽しいひとときである

(イ) 2年6組

忘れ物が多い、学習中のおしゃべりが目立つ、と毎日の生活の中で反省すべき点がある。とみると特定の生徒に批判が集中してしまい、クラス全体で見直そうという意識が薄れていくことになる。そこで、短学活時の3～5分程度の時間を、班の一日をふり返ることにあて「わが班のチェックリスト」を続けてみた。個人を批判したりすることは一切せず、6～7名の班としてどんな一日であったかを5～1の数字で評価していく。2、1の評価がでた場合は、班として「誰が悪いのか」を考えるのではなく、班員は「どんな働きかけをすればよいか」を考え合わせるようにしていく。こうした繰り返しが改善されていける点はわずかではあるかと思うが、仲間として支え合う意識を育てる点にすてがたいものがある。今後はマンネリ化しないよう若干の手直しを加え、続けていきたい。

わが班のチェックリスト						左の5項目のチェックの合計点	名前
5段階でチェックしてみよう 5(とてもよい) 4(よい) 3(ふつう) 2(少しあり) 1(よくない)	朝 自習	チャ イム 着席	忘 れ 物	授 業 態 度	消 掃		
月	4	5	4	4	17	ふつうです。	
火	4	4	4	3	18	授業中の私語が少い。	
水	4	4	5	4	21	なかなかよい。	
木	4	5	5	3	22	もう一度話し合いをやらせたい。	
金	4	4	4	3	19	授業態度と進捗。	
土	4	5	4	5	22	よい!!	
来週はこんなことに気をつけてチャレンジします。							
清掃!							

(ウ) 3年8組

3年8組では、新聞・詩・文章などを読み、ノートに考えたこと・感じたことをひとこと書いて提出することを毎日行っている。目的は、精神的に著しい成長をする時期であり、その過程を残しておきたいということ、その成長の中に人権に対する意識や差別と戦う気持ちを育てたいということ、毎日の学校生活の中で生徒との心の交流が少しでもできることの3点である。

毎日配布する資料は、人権問題を中心に、進路、生き方を考えさせるようなも

のを選んでいる。人権に関するものとしては、「互いの違いを認める大切さ」「袋詰めCMの打ち切り、身障者に配慮不足と苦情を受け」「厚い壁にやっとな風穴があいた（高体連が朝鮮高級学校の大会出場を認める）」などを取り上げた。また、伊中タイムで使われた「水曜日の話」を資料にしたり、特活の時間を利用して長いものを読んで聞かせたりしている。ノートは帰りの会後に提出する。内容は、資料に関する感想以外に、今日一日のことや、悩み相談というものまでいろいろである。それぞれのノートにコメントをいれ、次の日の朝に返却する。このノートを実施して、生徒一人ひとりとのコミュニケーションがとれることが利点としてあげられる。また、伊中タイムや特活での人権授業で学んだことを生かして、さらに人権意識を高めることができたように思う。今後もこの2点をより発展させていくと同時に、より広い視野に立って、学校の生活はもとより、世界に目を広げていくような資料を扱っていきたいと考えている。

ふれあいノートより

6月3日(木)

人は傷ついても淡い光しか発せなくなるかもしれない、
 しかし人は傷ついたら人を傷つけなくなり。
 少年のように美しい光りは、発せなくなるけれど
 淡い光は少年のときのように、美しくはないけれど
 淡い光はどくどくの美しさ見？目のあふれか
 わからないような美しい光を発するだろうか？
 それは少年のときとはくらべものにならないほど
 美しくがみゆられたいと思う。

ほい！とどくどくわ。

私がかっこいいとあつた... 思っています。

かっこいい自分を知りたい... 人を知りたいです。

ひんひん... 目のまわりでわけてほめて... 人を知りたい...!

我々はビー玉である

少年は作られたばかりのガラス玉
 透明で無垢、光輝で絶妙
 しかし、一日一日、大人になるにつれ
 小さな傷を負って行く
 散らされたいほど多くの傷を
 やがてガラス玉のように傷つき、淡い光しか発せなくなる
 大人になることは、磨りと丸み、汚れと酸
 目には見えないけれど、
 「不純なことは絶対許さない」とかいつているやつに限って
 意外にロクなもんではないんじゃないか
 たた、所詮、ビー玉の我々だけじゃなく
 少年時代に見た世界の「ガマ」に似ていない輝きを
 いつまでも忘れたくない
 汚れた大人の世界を離れた光の中で見ているだけじゃなく
 かつてはオレも、外からの光があるがまに感受し
 周りのものを無邪そのまに見つめていた時代があったことを忘れまい
 悲しみが悲しみであり、喜びが喜びであったことを忘れまい
 光を無邪に受けとめて輝いていた時代があり
 それが不純になつてきた道程を忘れなければそれでいい
 忘れはするが、
 輝いとついでにガラス玉で見た世界を
 我々はビー玉のだから。

KID RETURN Bert Takeshi

日本も国際化が進み多くの外国人がいろいろな目的で入国してきています。僕の住んでいる伊勢原でも、外国人に出会う機会が、多くなってきました。最近、僕は二人づれの東南アジア系の人たちとよくすれちがいます。

一人は背が高くやせていて顔が小さく、目のはつきりした二重まぶたで口ヒゲをはやしています。もう一人は背が低く丸顔で、パツチリとした目をしています。僕が学校から帰ってくる途中、だいたい同じ場所あたりで反対方向からならんで何やら話しながら歩いてきます。

見なれないせいもあって、僕はその人たちとすれちがうのがとても怖かったです。何かされたら?とか、逃げようとか、話しかけられたら何て返事をしよう。などと思いつながら、なるべく目をそらして少しでも速くその場をはなれようとしてきました。

それでも、耳と背中について

た目は、彼らの会話と後ろ姿をいつまでも関心をもって追いかけていたように思います。今、新聞やテレビなどでも報じられてるように、東南アジアや南米などから日本での高収入を求めて、観光ビザで入国してくる外国人労働者が、増えてきています。

彼らも多分そういう人たち
「トリ、アリマスカ?」
「トリ肉は売りきれ。アタ肉にしたらよ」
「ボクたち、アタ、タバマセン」
「牛はよ。たまにはいいもの食いなよ」

中学生人権作文コンテスト
神奈川県大会 金賞作品

国民レベルでの国際協力

伊勢原中学校三年 藤原 康範

だろうと思います。そして彼らの服装から、いわゆる多くの人の嫌がる危険な仕事や重労働をしていることがすぐに分かりました。

先日、母に頼まれて僕は買い物に行きました。肉をえらんでいると例の二人づれに出会いました。背の高い方が人が肉屋の人にかたこと日本

語で何やら言っているのです。僕は好奇心からそれを聞いていました。

「トリ、アリマスカ?」
「トリ肉は売りきれ。アタ肉にしたらよ」
「ボクたち、アタ、タバマセン」
「牛はよ。たまにはいいもの食いなよ」

1992年度

「ウシ、タカイ、ダメネ」と、言い彼らは行ってしまいました。

店の人が、帰る彼らの背中に、「アタ食ったって神様だつておこりゃしないよ」と、言っていました。僕はその会話を聞き、彼らが宗教の掟でアタ肉を食べないバキスタン人であることが分かりました。

夕食まで僕は彼らのことは忘れていました。買ってきたばかりの肉が食卓に出された時、はじめてトリ肉を買わずに帰った彼らのことを思い出しました。

夕食はすませただろうか?どこかでトリ肉は買えたのだろうか。きつと重労働に耐え、収入を節約して暮らし、残り

豊かさが人に対する優しさを忘れさせてしまったのかも恐れせん。僕たちの心の中には、おごりたかぶりがありません。いいでしょうか。

のお金は自分の国へ送金しているのだろうか。僕はその時、もう一軒の肉屋さんを教えて一緒に行ってやれば良かったな、と思いました。

戦後、日ざましく発展をとげた日本。欧米にもひけをとらない先進国日本。僕たちは昔の自分たちの姿を忘れてしまったのではないのでしょうか。

最近私は、空も山も川も海もなくなくなってしまいそうで、心配でなりません。工場から出される煙や車の排気ガスは、空を真っ黒にしています。木

がなんのためらいもなく切り倒され、家が建ち並び、ゴルフ場ができ、どんどん山がなくなっています。川は汚水やゴミの通路となり、その先の海もゴミで埋め立てられ、砂浜もなくなり、ビニール袋、ビン、ジュースの缶、釣り糸など、あらゆる物のゴミ箱となつていきます。

このまま何もせず、すぎてしまつていいのでしょうか。「このまゝい

たら……」、そう考えたら怖くなりました。すべて私たちが目先の利益だけを考へてやつてきてしまつたことで、どうにかしなければなりません。私たちは、こわれた自然の中では生きてはいけません。私たちは自ら「人間として生

活するのにふさわしい環境」を壊しているのです。

私は、今や、日常の家庭生活、学校生活、そして、そのほか多くの場所での基本的人権の尊重は、自然を守る、すなわち環境を守る「環境権」からきていると思うのです。工場の煙や排気ガスでいっぱい

中学生人権作文コンテスト神奈川県大会
優秀賞作品「自然保護と人権尊重」
伊勢原中学校三年 鈴木 奈緒子

度

のにふさわしい環境を求める権利」、すなわち「環境権」が示されています。それには、「現在および将来の世代のため環境を保護し、改善する厳

粛な責任を負う」と宣言されています。私たちは、このように、今を生活している私たち自身と、これから先を生きる人たちの人権を守るために、自然を守り、壊されてしまつた自然をもとにもどすという

ら勉強や充実した学校生活を送れるはずがありません。緑のない場所での生活は良いものではありません。壊され、汚れた環境の中では、基本的人権の尊重だなんていつてられませんか。

重大な責任を負っているのです。それなのに、私たちは今、まったく逆のことをしてしまつているのです。私たちは、私たちの人権、そして、これから先を生きる人の人権まで侵害しようとしているのです。なんの気なしに捨ててしまつた空き缶やお菓子の袋が山で、川で、海で、公園や広場

で、だれかに迷惑をかけています。もしも、そこでゴミ箱に捨てることができたら、一つ、だれかの人権を守れたのです。そんな小さなことでも人権を尊重し、守れたということになると思ひます。長い年月がかかるかもしれませんが、私たちが絶対に自然を保護し、もとにもどしていかなければならないのです。海や川はゴミ箱ではありません。山もむやみに切り開かないでください。排気ガスを減らし、工場の煙もなんとかならないでしょうか。私たちみんなが互いに尊重しあい、協力し、将来までも決めてしまつた重大な責任を負つていくことができたなら、「人間として生活するのにふさわ

しい環境」、そして、お互いを尊重しあい、豊かで思いやりのある社会」を築いていくことができるはずですが、壊された汚れた環境の中では決して、それを築いていくことはできないでしょう。

自然を守るということは、人を守るということと同じだと思います。自然保護と人権尊重。一見なんの関係もなさそうですが、本当はとても大切なつながりがあるのです。今、私たちは、私たちの人権を守ると共に、未来を生きる人たちの人権も守らなければならぬのです。



人権標語

何気なく語る言葉の大きな重み

斎藤 綾

差別するあなた心がつく壁

馬場 三保子

悪口いじめない心と助けの勇氣

深津 由樹

一言であふれる涙こわれる人権

市川 幸子

人権は平和という名の木々の種

宇佐美 貴之

気づこうよ心に潜む差別と人権

吉岡 千香子

感謝状

伊勢原市立伊勢原中学校殿

貴校は法務省及び全国人権擁護
委員連合会が主催する全国中学生
人権作文コンテストの実施に多大の
協力をされ中学生の人権意識の
高揚のために尽力されました
ことに深く感謝の意を表します
平成五年一月二十日

法務省人権擁護局長 笈 康生

全国人権擁護委員連合会 五木田 隆

環境研究部

VI 環境研究部

落ちついた潤いのある環境をつくるための実践

(1) 研究のねらい

自分たちを取りまく環境を、自らの手でよりよくしていこうとする意欲を育て、実践する力を養う。そうした落ち着いた潤いのある環境がつけられることによって、穏やかな心が育ち、あたたかい人間関係づくりにより影響を与えられると考えた。

(2) 研究の実践

本校では、教室にゴミが落ちていても自主的にそれを拾おうとする生徒は少なく、学年が上がるにつれて清掃活動が意欲的でなくなる。以前は豊かだった緑も、校舎の改築の際に減ってしまった。

そこで、教師が環境に対する意識を高め、生徒と共に動くことによって、よりよい環境をつくろうと考えた。落ち着いた環境に生徒が心地よさを感じれば、生徒の意識も高まり、自分たちを取りまく環境を、自らの手でよりよくしていこうとする意欲が育ち、美化活動にも積極的に取り組むようになると考えたからである。

そのために、学級で清掃活動について工夫したり、委員会活動をより活発化させる工夫をするなど、実践をした。

〰〰〰 清掃活動 〰〰〰

本校では授業終了後、毎日20分間の清掃時間に全員で清掃活動を行っているが、生徒が意欲を持ち、積極的に活動しているとは考えにくい状況があった。そこで生徒が環境美化への意識を高められるよう、清掃活動の中に様々な働きかけを行った。

〈各学級を通じての取り組み〉

- ・清掃の手順の確認…教師のアンケートをもとに清掃分担の範囲をより明確にし、再度手順を確認した。トイレには「さわやかトイレ」というスローガンをつけた手順を掲示した。学級によって異なった清掃の仕方を統一することで、学年がかわった年度始めからスムーズに清掃に取り組めた。
- ・清掃分担の担当者名を掲示…清掃指導をする教師の立場から「特別教室では特に担当の生徒が把握しにくい」との意見が出されたのをきっかけに、各清掃分担場所に担当クラス、担当者名を掲示することにした。また、担当学年が分かりやすいように、台紙の色を学年カラーで異なった色にしている。掲示することによって、教師が指導しやすくなり、また生徒の取り組みにも責任感が見られるようになった。

〈環境委員会の生徒を通じての活動〉

- ・環境チェックカード…毎月1回行われる委員会の会合の際に、各クラスの環境委員が自分達の教室をチェックしたものを持ち寄り、それを用いて各教室の問題を把握し、検討しあう。また、その話し合いを通じて毎月の環境目標を決定している。
- ・環境目標の設定…委員会の会合で決定し、各学級に掲示している。
- ・清掃用具の管理と修理…毎週水曜日と土曜日の2回、環境委員の当番が清掃用具の配布を行っている。その際に委員がほうきなど用具の修理も始めた。現在では、活動のほとんどが委員の生徒の自主的な活動に任せられており、清掃用具の破損も減ってきた。

ここはわたしたちが
責任を持って掃除しています

掃除担当場所

保健室前廊下

担当クラス

1-3 

担当名

仁田 智絵 西野 朋子
中村 梨恵子 賀川 聖子
井部 瑞希 小野 千鶴
 平井 祐貴
成田 拓
辻 嘉明

担当の先生

小松原 先生

環境チェック

※ 本日、帰りの学活終了後、チェックして本委員会の時に提出して下さい。
できていたら番号に○をつけて下さい
特に美しい所には◎をつけて下さい

- ① 床に大きなゴミは、落ちていないか。
 - ② 掲示物のはがれ、やぶれはないか。
美しく掲示されているか。
 - ③ 壁紙のはがれ、やぶれはないか。
壁に落書き等はないか。
 - ④ 机がきれいに並べられているか。
 - ⑤ 黒板が美しく保たれているか。
チョークの粉が下にたまっていないか。
 - ⑥ ロッカーの上は、美しく保たれているか。
 - ⑦ テレビの上や、テレビの目にホコリはたまっていないか。
テレビの前の戸棚の中は、整頓されているか。
 - ⑧ 清掃用具は、ととのっているか。整頓されているか。
こめられたものは、ないか。
 - ⑨ 教室にある清掃用具の数を点検して下さい。(かう下の分を含む)
- ほうき 4本 ちりとり 1個
バケツ 1個 ほうき 10個(100)
- ⑩ 環境の目標の紙、担当者の表がきちんと掲示されているか。

担任 

緑化活動

以前から環境委員会の活動のひとつとして、花壇の整備に取り組んでいたが、92年度から、さらに活動を活発にし、職員室の前や昇降口周辺にプランターや鉢植えを備えた。委員会では、「1年生を花で迎えよう！ 卒業生を花で送ろう！」をスローガンとして、長期間咲く一年草や多年草を植えて、水やり、施肥など当番制で世話をしている。また委員会で咲かせた鉢花を各教室に貸し出した。そのような中で、それぞれ委員の生徒が責任を持って花を育てられるようになってきた。

委員以外の生徒たちも、空き教室を多年草の保管に使用している時などは、気を使って出入りするようになった。現在、多くの学級に独自の鉢花も見られ、大切に育てられている。

92年度

- 4月 マリーゴールドのプランターを昇降口前に設置する
- 5月 桔梗を花壇に植える
- 6月 ベゴニアのプランターを昇降口前に設置する
コスモスの苗を花壇に植える
- 7月 菊の苗を花壇に植える
- 9月 プリムラの株分けを行う
- 10月 チューリップの球根を花壇に植える
- 12月 パンジーのプランターを昇降口周辺に設置する

93年度

- 4月 プリムラを教室に配布する
ベゴニアのプランターを昇降口前に設置する
観葉植物をトイレ前、げた箱の上に設置する
- 7月 マリーゴールドのプランターを昇降口前に設置する
- 9月 菊の鉢植えを各教室に配布する
プリムラの株分けを行う

ふれあいの日（学区美化活動）

91年度から学年間の交流を深める目的で、縦割り集団を基盤に進められてきた集中クラブのうち「生産的活動」と「奉仕的活動」の2つを充実させ「ふれあいの日」とした。

「生産的活動」では、特に今年度は校内の美化に役立つプランターカバー、パネル、フラワースタンドを製作した。

「奉仕的活動」では、校舎内外の清掃活動を行っている。

晴天時には学区内のゴミ拾いが活動の中心となる。縦割りの色ごとにグループを決め、一定の地域をゴミ袋を持って回り、ゴミ、カン、ビン等を拾い、清掃を行ってきた。多くの生徒が、この活動の時は一生懸命作業し、さわやかな満足感を得ている。また、地域の方にも関心を持たれ、「がんばっているね」とか「ありがとう」「ご苦労さま」など声をかけられることも多く、生徒のはげみとなっている。この活動を通して、普段から、どこにゴミや空き缶が多く捨てられているか、意識し始めた様子が見られるようになってきた。

雨天時には、校内の壁磨き、廊下のワックスがけ等を行っている。普段の清掃ではなかなか清掃の行き届かない場所を清掃するよう心がけている。



職員作業

「落ち着いた潤いのある環境をつくるための実践」を目指して、環境研究部で取り組み始めたのであるが、職員の意識も盛り上がりず、研究がなかなか進まなかった。そこでまず職員の意識の高揚を図らなければ、生徒は変わっていかないのではないかということをもとに、全職員で環境整備を実施してみることにした。

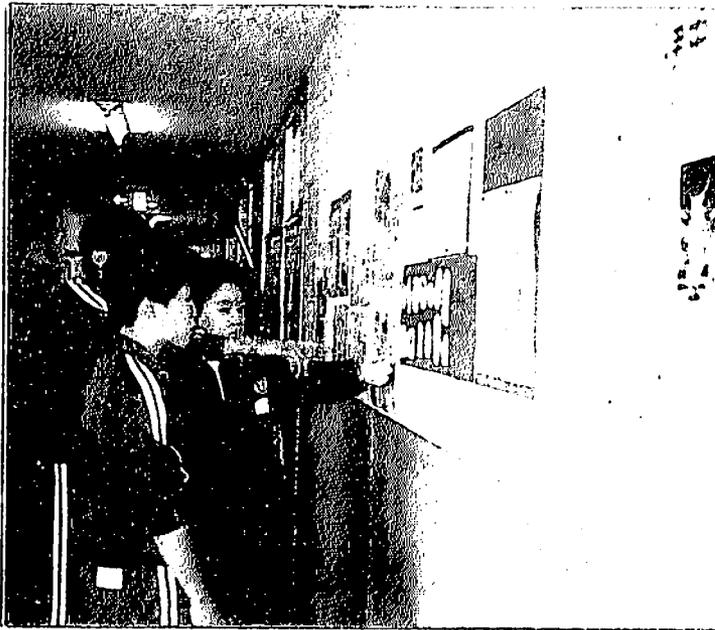
まず、92年度の6月に、廊下や階段にゴミ箱を設置し、職員から落ちているゴミを積極的に拾うようにした。

また、7月には普段手が届かないところを整備することにした。生徒にとっても心地よく感じられるところとして、生徒用昇降口の清掃と昇降口前に泥落としの設置をした。そして十数年前の卒業記念製作の「面」の整備をし、生徒が登校したときに気持ち良く感じ、環境に対して意識をもつようにした。

さらに、職員室前に掲示板を新設し、生徒に実践活動の様子を写真などで紹介したり、人権教育に関する資料を掲示できるようにした。

12月には、学校をみんなで進んできれいにしていこうとする気持ちを育てようと職員と、清掃担当の生徒で、生徒用昇降口のペンキ塗りを行った。

このような活動を通して、学校が少しずつきれいになり、昇降口の使い方も良くなってきた。



調查研究部

Ⅷ 調査研究部

生徒等の実態調査の実施分析

(1) 研究のねらい

- ・本校の生徒の継続的な意識調査、実態調査の実施と分析、及び問題点の提起し、問題解決への手がかりとする。
- ・父母の意識調査を実施し、実態の把握をする。

(2) 研究の実践

- ・人権アンケート（生徒用）
- ・父母の意識調査

(3) 人権アンケートについての考察

項目1～10は、行動として表れる「人権を侵す行為」、「人権を侵される行為」である。どの学年、男女ともに数字の違いはあるが、行為をしたことがあると答えた者の数が、されたと答える者の数を越えている。これは、他人の「人権を侵す行為」を、補う者が集団の中にいるということであると考えられる。

学年が進むにつれて、若干ではあるが、「人権を侵す行為」が減っているように見える。

項目11～14は、「人権を侵す行為」をどのようにとらえているかということを見るものである。「人権を侵す行為」すなわち「いじめ」や、「バカにすること」は悪いことだとは理解している。しかし、悪口などは程度の軽いものだととらえ、「差別」のなかに軽重をつけ、「人権を侵す行為」としての意識は薄いようである。

項目15～16をみると、「世界における差別」を知っていると答えた者が「日本」のそれよりも多い。世界の人権問題、例えば人種問題や身分制度については、広く報道もされ、学習する機会も多いことによるためかと思われる。

だが、この項目でも、学年が進むにつれて学習の成果がみえ、多くの「差別」

について知るようになる。また「差別」を見抜く目も持つようになる。

以上のことから、学習を重ねることによって、「人権の意識」が高まり、行動にもよい影響が得られるものと考えられる。

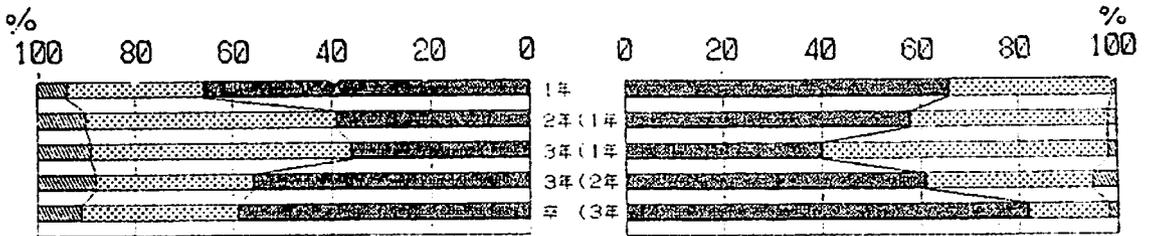
アンケート

グラフについて

貼の年(封筒の年)	男子	女子	実施日
1年	159人	140人	93.5
2年(1年)	162人	138人	93.1
3年(1年)	175人	174人	91.7
3年(2年)	171人	173人	93.1
卒(3年)	153人	161人	93.1



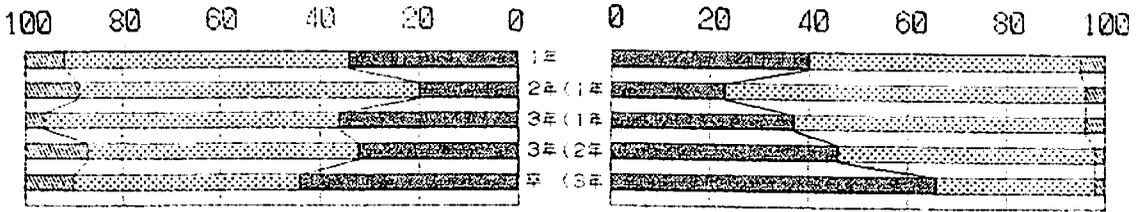
1. そうじの時、特定の人の机や椅子だけは運ばなかったことがありますか？



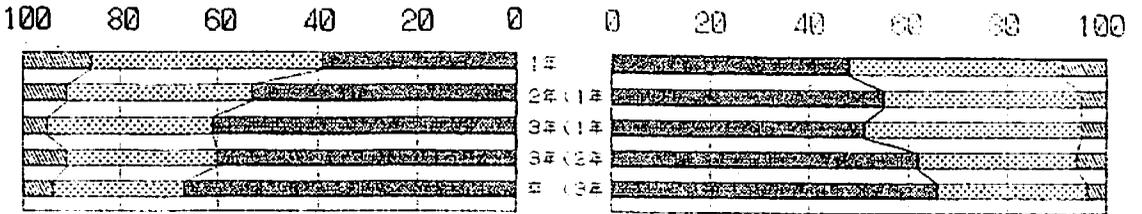
2. そうじの時、机や椅子を運んでもらえなかったことがありますか？



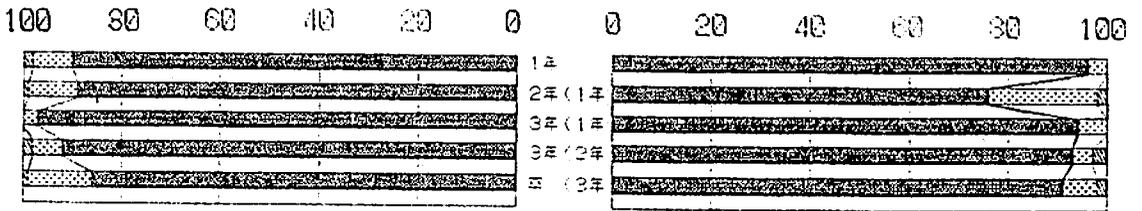
3. いやがらせや無視をしたことがありますか？



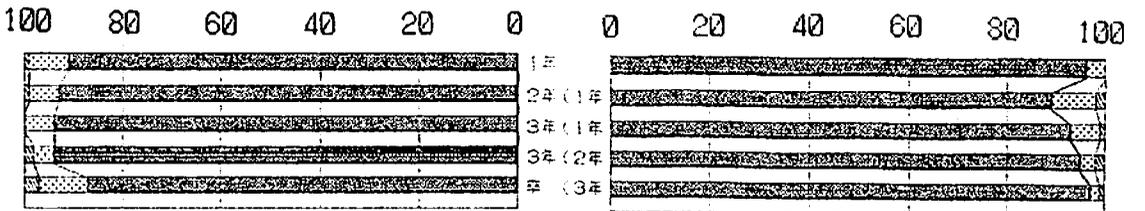
4. いやがらせや無視をされたことがありますか？



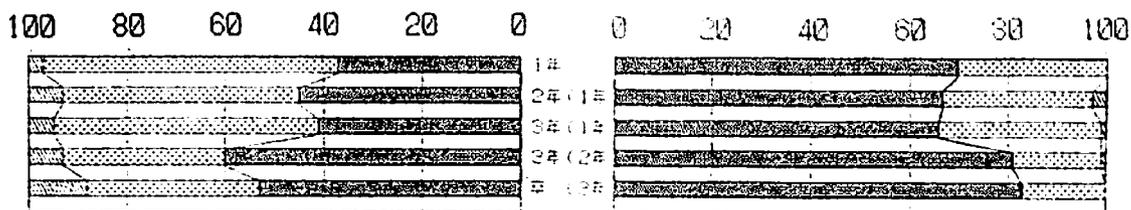
5. 住んでいる家や親の職業などについて悪口を言ったことがありますか？



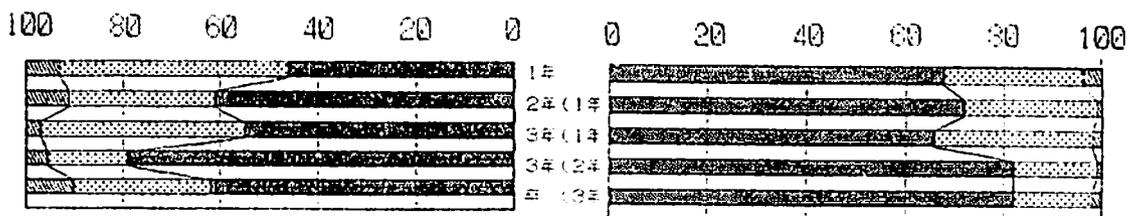
6. 住んでいる家や親の職業などについて悪口を言われたことがありますか？



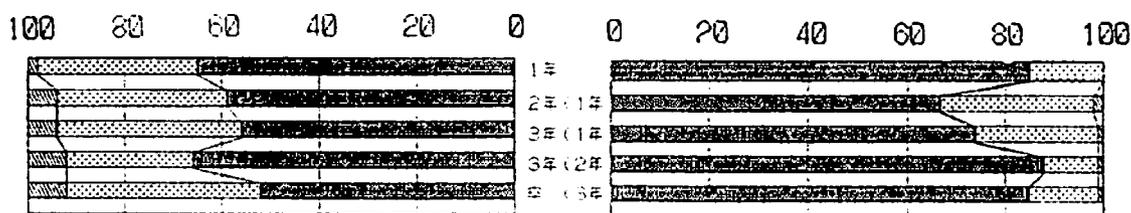
7. 授業中まちがった発言や失敗した人を、ばかにしたことがありますか？



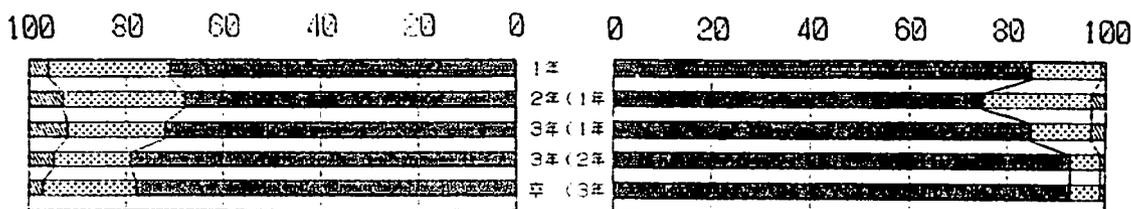
8. 授業中まちがった発言や失敗した時に、ばかにされたことがありますか？



9. 係を決める時、その人が適任ではないのに推薦したことがありますか？



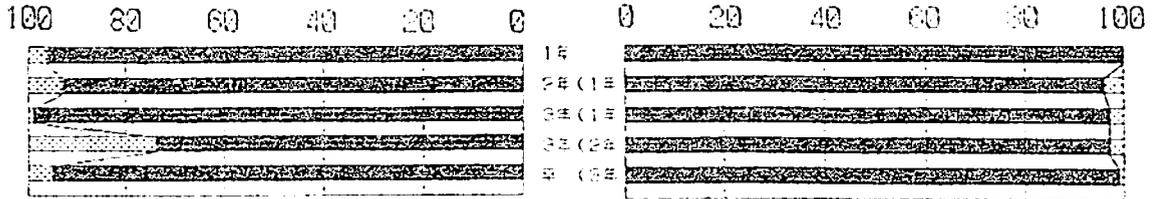
10. 係を決める時、いやがらせで推薦されたと感じたことがありますか？



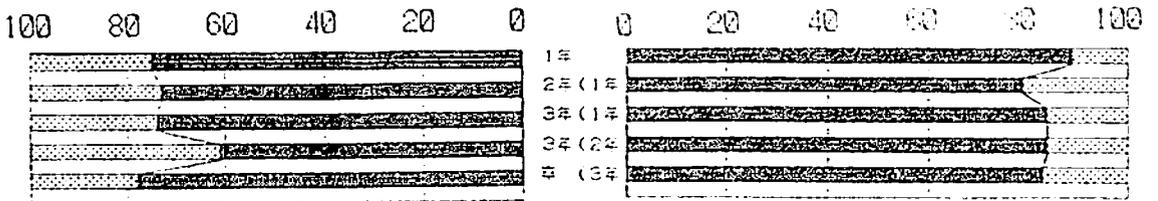
はい

いいえ

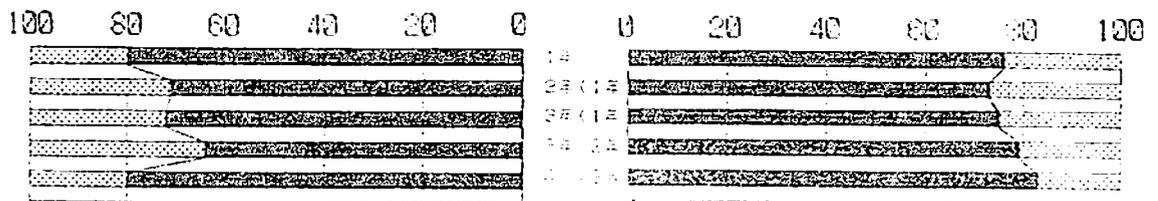
1 1. いじめたり、ばかにすることは、そんなに悪いことではないと思いますか？



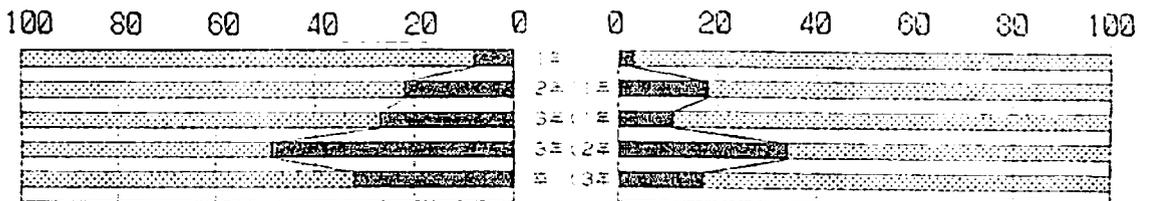
1 2. 悪口を言われて傷つく人は、弱い人だと思いますか？



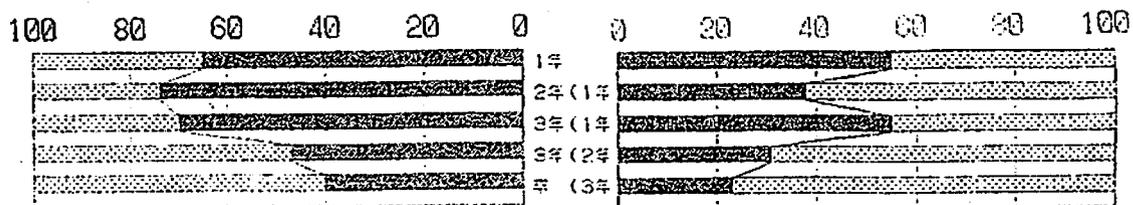
1 3. 悪口やいやがらせは、暴力のうちに入らないと思いますか？



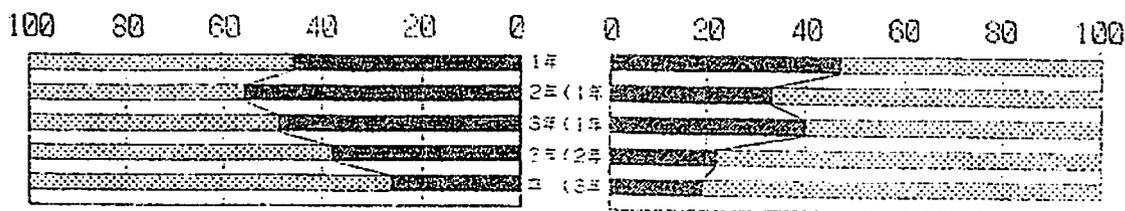
1 4. いじめられている人を見ると、なんとかしてあげたいと思いますか？



15. 今の日本の中で、差別問題があるということを知っていますか？



16. 今の国際社会の中で、差別問題があるということを知っていますか？



まとめ

1、研究部のまとめ

人権授業部

3年間を見通しての学習指導計画と、各学年の学習指導計画の骨組みができあがった。「人権授業」の充実によって、人権に対する正しい理解と認識を持ち、差別の解消に立ち向かおうとする意欲を持たせることができた。

伊中タイム研究部

年2回の「人権授業」を補うのみでなく、各種の資料を通して、日頃見逃しがちな出来事、心情、考え方に触れさせることができた。週1回20分という短い時間ではあるが、教師と生徒が共に同じテーマについて考えるという貴重な時間になった。この活動を通して、人権の諸問題が身近なものとして、認識されたと思われる。今後は、より発展し、広がりを持たせたいと考える。

教科研究部

週1度の各教科部会を充実させ、授業の実践を図ってきた。また、人権に関わる教材については、特に教材研究に力を注ぎ、互いに啓発しあうことにより、人権に関わる授業の内容が豊かになった。

道徳研究部

他を思いやる心を持ち、主体的に行動できる生徒を育てるという目標のもと、人権に関する重点項目を決定し、月1度、共通の教材で実践を行った。そして、その授業の実践記録を集約し、研究を重ねた結果、道徳授業への意識が高まり、指導の充実が得られた。

特別活動研究部

8色の縦割り集団活動を、行事、生徒会活動に積極的に生かした。また、学級では、一人ひとりの個性を尊重するプログラムを「帰りの会」に取り入れていった。その結果、生徒はいろいろな場面で、主体的に取り組み、あたたかい仲間づくりができるようになった。一方、広く社会に目を向けさせるために、福祉活動等に、興味を持たせ、積極的に参加させる機会を設けた。

環境研究部

校内各所に花を置き、花壇に植物を補充し、校内の緑化活動に努めた。環境委員会の活動を活性化させ、清掃活動に意欲的に取り組ませた。また、職員作業等では通常のコソ掃活動で見逃しがちな所や、生徒の手の届かない箇所の清掃を行った。その結果、落ち着いた、潤いのある環境が生まれてきている。

調査研究部

本校生徒の人権に対する意識調査と実態の調査分析を行い、問題点を提起し、その解決を図る一助としての研究を行った。その調査研究は、他の研究部の活動の基礎となった。今後も継続的に調査を続け、生徒の中の意識の変容、学習の成果について、正しい情報をつかんでいきたい。「生活アンケート」等のかたちで持続させたいと考える。

2、研究の成果と今後の課題

伊勢原市教育委員会より同和教育の研究委託を受け、試行錯誤を続けながら、研究に取り組んできた。市内の中学校では、中沢中学校、成瀬中学校に続いてということでこの2つの中学校の研究実践はもとより、各地の研究先進校に多くのことを学ばせていただいた。

研究を進めるにあたって、教師自らの「人権意識」を見直すこと、差別を見抜く力を身につけるられるよう研修を重ねた。様々な「人権問題」について、正しい知識を得、理解と認識を深めようと努めてきた。

同時に、全教育活動を「人権尊重の視点」に立って見直すことが必要であると考え、各研究部を設定し、研究、実践を重ねた。

一方、生徒に対しては、学級指導の時間の中に人権に関する特別授業（「人権授業」）を設けた。

研究1年目は、全校一斉に「世界人権宣言」について学習した。2年目は、学年ごとに学習のテーマを設定し、年2回（6月、11月）とした。なお、その「人権授業」を補い、さらに深めるために「伊中タイム（水曜日のはなし）」の活動も始めた。

これを基にして、今年のコソ組みが決定され、実践されてきた。

このような取り組みの中で、生徒は多くの「人権問題」について知るようにな

り、差別を見抜く目も育ってきている。日々の生活の中で、落ち着きと笑顔が見られ、自由に発言できる雰囲気が出てきている。

教師もまた、研究を通して、「人権」に対する意識が高まり、常に生徒の立場に立って考えようとする姿勢がより強くなった。行事などでも、一層、生徒の自発的な活動や、自主性を大切に、個性を尊重する動きがみられるようになった。

以上、研究により、実践の骨組みはできあがったが、まだまだ知識として認識する段階である。今後、一層の研修を重ね、実践活動の充実を図っていくことが重要であると考えている。

また、地域ならびに保護者に対する啓発活動が、学校同和教育の推進には不可欠である。本校でもPTA広報「やまどり」や、学年だより、懇談会等で、研究の様子などを知らせてきたが、深く浸透するまでにはいたっていない。この面での取り組みも充実させていきたい。

【教室配布の本】

全学年	世界人権宣言	アムネスティ、インターナショナル日本支部	金の星社
3学年	鈴の鳴る道	星野 富弘	偕成社
2学年	手話（てことば）の本		あすなろ書房
	①名詞	くらしの手話	
	②名詞	みじかな手話	
	③動詞	形容詞	うごきときもちの手話

【ロビー展示の本】

視力6.0が見たニッポン	オスマン サンコン	光文社
中学生人権作文入賞作品集		伊勢原市人権擁護委員会
この差別の壁をこえて		公人社
世界人権宣言	アムネスティ、インターナショナル日本支部	金の星社
ひゅうまん		神奈川人権センター
子どもの目に映った戦争（第二次世界大戦ポーランド）		グリーンピース出版
鈴の鳴る道	星野 富弘	偕成社
テルミ（点字本）		日本児童教育振興財団
ガイド・マップ伊勢原（点字本）		伊勢原市福祉部社会福祉課
娘に語る祖国	つかこうへい	光文社
手話（てことば）の本		あすなろ書房
①名詞	くらしの手話	
②名詞	みじかな手話	
③動詞	形容詞	うごきときもちの手話
いのち燃えつきるまで	亀田 智勢	日本教文社

ご指導をいただいた先生、講演講師

- 須山 英治先生 (県教育委員会)
飛鳥田 養先生 (県立小田原高等学校校長)
和田 央 先生 (市教育委員会指導室長)
細野 博 先生 (市教育委員会指導主事)
高橋 準一先生 (市教育委員会指導主事)
田原 米子さん (「生きるってすばらしい」の著者)
島田 勝英さん (神奈川県総合リハビリテーション事業団 理学療法士)
鈴木 朝子さん (点訳赤十字奉仕団)
他 13名
阿部 重信さん (神奈川県総合リハビリテーションセンター)
藤井由布子さん (1989年度卒業生 現在東海大学1年)
志村 泰彦さん (社会福祉協議会)
柏木 郁子さん (社会福祉協議会)
中川 喜代子先生 (奈良教育大学 教授)

参考研究紀要

- 伊勢原市立中沢中学校
伊勢原市立成瀬中学校
秦野市立鶴巻中学校
岐阜県海津郡南濃町立山城中学校
茨城県下妻市立下妻中学校
愛知県津島市立天王中学校
千葉県君津市立久留里中学校

研究同人

校長 近藤俊二

教頭 倉品満洲男

企画委員

奥田捷子（研究主任）

北野恵子

山下 浩

人権授業研究部

◎佐藤則行 布川政行 北島昌人 中丸久美子 今井伸尚
矢部ひとみ

伊中タイム研究部

◎大津順子 北村帆波 吉川雅子

教科研究部

◎川上伸二 大谷郁子 佐藤恒子 栗田光雄 松浦三郎

道徳研究部

◎藤原浩子 黒田 努 落合陵子 本多憲昭 鍛代道信
加藤圭子

特別活動研究部

◎高橋正義 井上春彦 小松原志織 小泉佐和子 山口賢人
関水由美子 橋本知亜紀 高橋正彦 竹内清治 上村 薫

環境研究部

◎前田優子 杉崎直信 堀井和巳 曾我仁美 長塚繁昭
池下智子 山田藤夫

調査研究部

◎相原恒雄 松尾久美子 岡廣キヨ子 小島明人 山下 登

事務

古正 充 鳥海たまえ

校務整備員

内田勇治

旧同人（敬称略）

相原 彰 青木 薫 井上絵里子 石黒幸子 伊藤亜希子 伊藤和也
大高敏夫 柏木芙美子 川上さなえ 加藤正廣 小華和道夫
四十万均 下屋真理 末政豊次郎 鈴木久美子 武井博美 武井雅典
田山光春 森 典子 山崎昌子 山田裕彦